

他ノ費用トシテ定メタル常用支出額ノ外ハ速ニ之ヲ供託所ニ供託セサル可キ
 ラス若シ其供託ヲ遅延シタルニ因リテ損害ヲ生シタルトキハ破産管財人其責
 ニ任ス可キモノナリ而シテ此供託シタル金銭ハ破産主任官ノ支拂命令ニ依ル
 ニ非サレハ支出スルコトヲ得ス(商法第三十條)此規定ヲ設ケタル理由ハ破産管財人
 ナシテ財團ニ屬スル金銭ヲ妄リニ費消スルヲ得サラシメントスルニ在リ茲ニ
 所謂供託所トハ大藏省預金局及本支金庫ヲ云フ(明治二十三年七月勅令第四百
 十年大藏省令第三
 十九號第一條)

第六、破産主任官ノ認可ヲ受ク可キ破産管財人ノ行爲

破産管財人ノ職務ハ財團ノ管理、換價ニ在ルヲ以テ苟モ管理、換價ニ必要ナル行
 爲ハ總テ之ヲ爲スノ職權ナカル可カラズ然レトモ管理、換價ノ一切ノ行爲ヲ破
 産管財人ノ獨斷ニ任スルトキハ縱令破産管財人ニ惡意ナキトキト雖モ尙ホ債
 權者及ヒ破産者ノ損害ト爲ルカ如キ行爲ヲ爲スコトナキヲ保セス故ニ我商法
 第一千九條第二項ニ於テハ破産管財人ノ或行爲ハ破産主任官ノ認可ヲ受ケサ
 ル可カラサルコトヲ規定セリ而シテ此場合ニハ破産管財人ヨリ破産者ノ意見

ヲ聽クコトヲ要ス然レトモ其意見ハ唯々破産管財人及ヒ破産主任官ノ參考ニ
 供セラル、ノミニシテ之カ取捨ハ破産主任官ノ權内ニ在リ若シ破産者カ逃走
 シ又ハ其他ノ理由ニ依リ其意見ヲ聽ク能ハサルトキハ勿論此手續ヲ要セス
 破産管財人カ破産者ノ意見ヲ聽キ且ツ破産主任官ノ認可ヲ受ケサル可カラザ
 ル行爲ハ泰西諸國ノ破産法ノ均シク規定スル所ニシテ只々其事項ニ多寡ノ差
 異アルノミ我商法ニ於テハ九個ノ場合ヲ列記セリ即チ左ノ如シ

(一) 訴訟ヲ爲スコト 訴訟ヲ爲スニハ自ラ進メテ起訴スルコトアリ又ハ應訴
 スルニ過キサルコトアリ然レトモ其何レノ方法ヲ問ハス數多ノ費用ト日時
 トヲ要スルヲ以テ無益ノ訴訟ヲ爲スハ財團ノ損害タルヲ免カレヌ故ニ訴訟
 ハ破産管財人ノ獨斷ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ許サスシテ破産主任官カ財團ノ
 利益ヲ保護スル爲メニ必要ト認ムル場合ニ限り之ヲ許サスモノトス

(二) 和解契約又ハ仲裁契約ヲ締結スルコト 和解契約、仲裁契約ノ何タルハ民
 法及ヒ民事訴訟法ノ講義ニ屬スルヲ以テ茲ニ之ヲ贅セヌト雖モ其破産主任
 官ノ認可ヲ要スルハ此等ノ行爲ハ何レモ普通ノ方法ニ依リ權利ヲ行ヒ義務

ヲ認ムルモノニ非サルカ故ニ彼ノ動産ヲ相對ニテ賣却スルトキ破産主任官ノ認可ヲ要スルト同一ノ趣旨ニ基キタルモノナリ只タ茲ニ一言注意ス可キハ茲ニ掲クル和解契約ハ破産者ノ債權者ト和解ヲ爲シ其債權ヲ認メ又ハ之ニ辨濟ヲ爲スコトヲ包含スルモノニ非ス何トナレハ債權者ハ後ニ述フル手續ニ依リ債權ヲ確定シ共同一致ノ團體ト爲リ財團ヨリ配當ヲ受クルモノナルカ故ニ和解ニ依テ權利ヲ定メ獨リ辨濟ヲ受クルコトハ斯法ノ原則上到底爲シ能ハサル事ニ屬スレハナリ從テ茲ニ所謂和解ハ債權者以外ノ第三者トノ間ニ財團ニ屬スル物ナルヤ否ニ付キ争ノ起リタル場合ニ和解ニ依リテ其局ヲ結フヲ指スモノナリ

(三) 質物ヲ受戻スコト 質物ノ受戻ニ就テモ亦破産者ノ意見ヲ聽キ破産主任官ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス茲ニ一言注意ス可キハ素ト質物ハ債權ノ擔保ニシテ其賣却代金ヲ以テ債權ノ辨濟ニ充ルモノナレハ之カ受戻ハ破産管財人ノ獨斷ニ任スルモ敢テ不可ナキカ如シ然レトモ我現行法ニ於テハ動産質ニ付テハ流質ノ制度ヲ採用スルヲ以テ其質物ヲ受戻スト否トハ大ニ財團ノ

損益ニ影響ヲ及ホスモノナリ何トナレハ若シ其質物ノ價格低落セルトキハ之ヲ受戻サ、ルヲ財團ノ利益トシ又其價格騰貴スルトキハ之ヲ受戻スヲ財團ノ利益ト爲スヲ以テナリ我商法ハ此現行規則ニ依リ斯ル規定ヲ設ケタルヤ否ヤハ分明ナラサルモ兎ニ角斯法上ニ於テハ此規定アルヲ必要トス

(四) 債權ヲ轉付スルコト 此場合ハ前ニ述ヘタル辨濟期限ノ到達前他人ニ其債權ヲ讓渡シ金錢ニ換ユル特別ノ換價方法ナリ從テ此特別手續ヲ要ス

(五) 相續又ハ遺贈ヲ拒絕スルコト 相續又ハ遺贈ヲ受クルコトハ通常破産者ノ利益ト爲ルヲ以テ之ヲ拒絕スルニ就テハ破産主任官ノ認可ヲ受ケサル可カラズ然レトモ此規定ハ尙ホ未ダ不完全タルヲ免カレス何トナレハ限定ノ受諾ニ非サル限リハ相續ノ受諾モ財團ノ損害ヲ來スコトアレハナリ債權附ノ遺贈ノ受諾ニ付テモ亦同シ故ニ此規定ハ宜シク之ヲ追補シ新民法第十二條第六號及ヒ第七號ノ規定ヲ茲ニ充當セルヲ相當ト信ス即チ同條ニハ准禁治產者カ保佐人ノ同意ヲ得テ爲ス可キ行爲ヲ列舉シ其第六三(相續ヲ承認シ又ハ之ヲ拋棄スルコト)又第七三(遺贈若クハ贈與ヲ拒絕シ又ハ負擔附ノ遺贈

若クハ贈與ヲ受諾スルコトト定メラレタリ

(六) 消費借ヲ爲スコト 金錢其他ノ消費物ヲ借用スルハ新ニ財團ニ對シテ義務ヲ増加スルモノナルカ故ニ破産管財人ノ獨斷ヲ以テ之ヲ爲サシム可キコト非ス然レトモ我商法第千十九條第二項ニハ其第九號ニ於テ「總テ財團ニ新ナル義務ヲ負ハシムルコト」トノ汎博ノ規定アルヲ以テ消費借ノ如キハ當然此中ニ包含ス可キモノナリ故ニ本號ハ之ヲ削除スルヲ以テ至當トス

(七) 不動産ヲ買入ル、コト 破産手續ニ於テハ破産者ノ有スル動産、不動産ヲ換價スルモノナルヲ以テ不動産ヲ買入ル、カ如キハ極メテ稀有ナル場合ニ屬ス例ヘハ破産者ノ營業家屋ハ他人ノ所有ニ屬シ之ヲ買取ルニ非サレハ直ニ取戻サル、カ如キ場合或ハ破産者ノ所有地上ニ他人ノ所有セル家屋アリテ之ナ一人ノ有ニ歸スルトキハ大ニ價格ヲ増加スルカ如キ或ハ又二人ニテ一家屋ヲ所有スルトキ之ナ一人ノ所有ニ歸スレハ全部ノ價格ヲ騰貴スルカ如キ特別ノ場合はナリ斯ル特別ノ事情アルニ非サレハ破産手續中不動産ヲ買入ル、必要アルコトナシ若シ猥リニ之ヲ買入ル、ニ於テハ却テ財團ニ損害

害ヲ來スノ恐アルヲ以テ之ヲ爲スニモ亦破産者ノ意見ヲ聽キ且ツ破産主任官ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

(八) 權利ヲ拋棄スルコト 爰ニ權利トハ破産者ノ財産權ヲ云フ而シテ通常ノ場合ニ於テハ權利ヲ拋棄スルハ財團ノ減少ヲ來スノ原因ナリト云ハサル可カラス然レトモ或場合ニ於テハ權利ヲ拋棄スルコト却テ財團ノ減少ヲ防禦スルノ方法タルコトアリ例ヘハ債務者極メテ貧困ニシテ到底辨濟ヲ得ヘキ望アラサル場合ニ尙ホ訴訟ヲ提起シ若クハ強制執行ヲ爲スカ如キハ得ル所失フ所ヲ償フニ足ラスシテ結局財團ノ損害ニ歸スルカ如キ場合はナリ茲ニ諸君ノ参考ニ供センカ爲メ嘗テ横濱ニ居留セル英商ノ破産シタル場合ノ實例ヲ舉ケンニ破産者ハ生命保險契約ヲ締結シ置キタリ故ニ若シ其契約上ノ權利ヲ維持セント欲セハ財團ハ破産者ノ生存間保險料ヲ支拂ハサル可カラサルノミナラス其權利ヲ拋棄セサレハ破産手續ハ破産者ノ生存間終結スルコトヲ得ス是レ權利ヲ拋棄ス可キ好適例ナリ斯ノ如ク權利ヲ維持スルコト却テ財團ノ損害ト爲ル可キ特別ノ事情アルトキニ限り之ヲ拋棄スルヲ得ル

モノトス故ニ權利拋棄ノ行爲ヲ爲スニ付テハ特ニ破産主任官ノ認可ヲ經サ
ル可カラズ

(九) 總テ財團ニ新ナル義務ヲ負ハシムルコト 破産管財人カ財團ノ爲メニ負
擔シタル義務ハ勿論財團ヨリ之ヲ辨濟セサル可カラス從テ財團ニ新ナル義
務ヲ負ハシムルハ財團ノ減少ヲ來スモノナルヲ以テ之ヲ破産管財人ノ獨斷
ニ任ス可カラズ然レトモ破産者ノ營業ヲ續行スル爲メナルカ或ハ前ニ述
タル不動産ヲ買入ル、必要アルトキ或ハ質物ヲ受戻スカ如キ場合ニ於テ財
團ニ屬スル金銭ヲキトキハ一時之カ借入ヲ要スルコトアリ故ニ斯ル場合ニ
ハ破産主任官ノ認可ヲ經テ財團ニ新ナル義務ヲ負ハシムルヲ得ヘシ
以上述ヘ來リタル九個ノ事項ハ普通ノ場合ニ生ス可キモノニ非スシテ又財團
ニ損害ヲ來スノ虞アルモノナルカ故ニ時ニ破産者ノ意見ヲ聽キ且ツ破産主任
官ノ認可ヲ受クルコトヲ要スト爲セリ其他ノ行爲ニ至テハ破産管財人ハ隨意
ニ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ然レトモ破産主任官ハ常ニ破産管財人ヲ指揮監督ス
ルノ權アルヲ以テ法律上認可ヲ要セサル事項ニ付テモ破産主任官ノ命令アル

トキハ必ス之ニ從ハサル可カラズ

第七、有罪行爲ノ届出

我商法ニ於テ財團ノ管理換價中ニ掲ケタル破産管財人ノ義務ニシテ全ク別種
ニ屬スルモノアリ有罪行爲届出ノ義務即チ是ナリ此義務タル上來述ヘ來リタ
ル破産管財人ノ職務ト異ナリ破産者及ヒ債權者ニ何等ノ關係ナク獨リ國家ニ
對シテ負フ所ニ絕對的義務ナリ即チ商法第千二十一條ニ依レハ破産管財人ハ
破産手續ヲ實行スル間ニ破産者ニ有罪行爲アルコトヲ知リタルトキハ之ヲ破
産主任官ニ届出ツ可シトセリ故ニ若シ此義務ヲ怠リタルトキハ管財人ヲ解職
スルノ原因トナル可シ然リ而シテ同法ニハ單ニ破産者ニ罰セラル、行爲アル
コトヲ知リタルトキハ之ヲ届出ツ可キコトヲ規定シ他ニ何等ノ制限的の文字ヲ
示サ、レトモ條理上獨リ商法第三編第九章ニ定メタル有罪行爲ニ限ルモノト
解セサル可カラス何トナレハ破産ニ關係ナキ犯罪ニ付テハ破産管財人ハ一般
人ト同一ノ地位ニ立ツ可キモノナレハナリ又第千二十一條未段ニ於テ破産主
任官カ破産管財人ヨリ有罪行爲ノ届出ヲ受ケタルトキハ之ヲ檢事ニ通知ス可

キモノトシテ檢事ヲテ犯罪事實ヲ調査シ起訴ノ手續ヲ爲スヤ否ヲ定ムルノ便宜ニ供セリ然レトモ既ニ刑事訴訟法第五十二條ニ於テ官吏其職務ノ執行中犯罪アルコトヲ認知シタルトキハ告發ヲ爲ス可シトノ規定アル以上ハ別ニ斯ル條規ヲ設クルノ必要ナカル可シ

破産主任官ノ職權

第四節 破産主任官ノ職權

破産管財人ハ財産目錄、貸借對照表及ヒ報告書ヲ作成スルニ付キ破産事件ノ總テノ事情ヲ調査セサル可カラサルハ勿論ノコトタリ然ルニ破産事件ノ事情ハ書類ノミニ依リテ之ヲ知了スルコト能ハサルカ故ニ破産者及ヒ其使用人其他ノ人就キ其事實ヲ質スル必要アリ然レトモ此等ノ關係人ヲ訊問スルノ權利ハ之ヲ管財人ニ與フ可キ性質ノモノニ非ス故ニ破産手續ノ指揮監督官タル破産主任官ニ此權利ヲ與ヘテ以テ事實ヲ調査スルコトヲ得セシム(商法第百二十二條)此權利ニ因リテ破産主任官ハ總テノ事實ヲ知了スルコトヲ得破産管財人亦之ニ依リテ適當ノ處分ヲ爲スコトヲ得ルナリ然レトモ破産主任官ノ此權利ハ民事若クハ刑事ノ裁判官カ證人ヲ訊問スル場合ノ權利ト異ナルカ故ニ其訊問ニ應セサル者又ハ訊問ニ對

シテ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者アル場合ニ證人カ召喚ニ應セサルトキ又ハ偽證ナルトキニ關スル刑罰ヲ加フルコトヲ得サルナリ勿論破産者ハ裁判所ノ許可アルニ非サレハ其住所ヲ離ル、コトヲ得サルカ故ニ之ヲ召喚シテ訊問スルコト容易ナリト雖モ商業使用人其他ノ者ニ至リテハ全ク斯ノ如キ拘束ヲ受クルコトナキヲ以テ破産主任官カ訊問ヲ爲サントスルニ當リ之ニ應セズ又訊問ニ對シテ虚偽ノ陳述ヲ爲スカ如キコトナシトセズ從テ此破産主任官ノ訊問ノ權利ヲ十分ノ効力アルモノト爲サンニハ其召喚ニ應セサル者又ハ訊問ニ對シテ答辯ヲ拒ミタル者若クハ虚偽ノ答辯ヲ爲シタル者ニ對シテ相當ノ制裁ヲ加フルコト必要ナリト思考ス

第六章 債權者

第一節 債權ノ届出及確定

既ニ説述シタルカ如ク破産手續ハ破産者ノ總テノ財産ヲ債權者ニ衡平ニ配當スルヲ目的ト爲スカ故ニ之カ爲メニ第一ニ債權者ノ何人ナルヤヲ定メサル可カラズ茲ニ講説セントスル所ハ即チ其債權者ヲ確定スルニ付テノ手續ナリ

破産法(附家資分設法)

本論 債權者 債權ノ届出及確定

債權者
届出及確定

第一款 債權ノ届出

破産決定書ニハ破産者ノ債權者ニ對シテ其請求ヲ短クモ三個月長クモ六個月ノ期間ニ破産主任官ニ届出ツ可キ旨ノ催告ヲ掲ケサル可カラサルコトハ商法第九百八十條第五號ノ規定スル所ナリ而シテ此破産宣告ハ前ニ述ヘタル如ク裁判所ノ揭示場ト破産者ノ營業所トニ揭示シ且ツ其他ノ新聞紙ニ之ヲ公告スルモノナルカ故ニ之ニ依リ破産者ニ對スル債權者ハ破産宣告アリタルコトヲ知了シ破産決定書ニ定メタル期間内ニ其債權ノ届出ヲ爲スモノナリ新民法第五百十二條ニ破産手續参加トアルハ即チ此規定ニ依リ届出ヲ爲スニ因リ始マルモノナリ斯ノ如ク破産決定書ニ於テ届出ノ期間ヲ定メテ之ヲ公告スレトモ實際ニ就テ考察スルトキハ此公告ノミヲ以テ總テノ債權者カ破産宣告アリタルコトヲ知ルハ決シテ容易ナリトセス故ニ既ニ貸借對照表商業帳簿又ハ破産者ノ申立等ニ依リテ債權者ノ所在ノ分明ナルモノニハ裁判所ヨリ特ニ書面ヲ以テ其債權ヲ届出ツ可キ旨ノ催告ヲ爲ス可キモノトス勿論其届出ノ期間ハ破産決定書ニ掲ケタルト同一ナル可キナリ然レトモ此書面ノ催告ハ債權者ノ利益ノ爲メニ特別ニ爲ス所ノ手續ナルカ故ニ縱令此催告ナシト雖モ破産決定書ニ掲ケタル期間内ニ債權ノ届出ヲ爲ス可キモノナルハ言テ俟タズ從テ此催告書ノ債權者ニ到達セサルコトアリテ實際債權者ハ破産宣告アリタルコトヲ知ラス爲メニ届出ノ時期ヲ誤リテ遂ニ損害ヲ受クルコトアルモ裁判所ニ對シテ其賠償ヲ請求スルコトヲ得ス何トナレハ破産決定ノ公告ハ一般ノ債權者ニ對スル催告ナルカ故ニ法律ハ書面催告ヲ爲サ、ルモ債權者ハ之ニ因リテ催告アリタルコトヲ知ルモノト看做セハナリ(商法第二十三條)

債權ノ届出ニハ如何ナルコトヲ記載ス可キヤト云フニ第一、債權ノ原因(即チ貸金等ノ金ナリ)第二、請求ノ金額(元金、利息共)第三、嘗入、質入其他優先權ヲ有スル債權アルトキハ其權利ヲ明記ス可キモノトス且ツ其届書ニハ證據書類ノ原本又ハ謄本ヲ添ヘサル可カラス(商法第九十條)次ニ債權ノ届出ハ如何ナル方式ニ依リテ之ヲ爲ス可キヤト云フニ書面ヲ以テスルモ又口頭ヲ以テスルモノニ債權者ノ隨意ニ任ス然レトモ書面ヲ以テスルトキハ正副二通ヲ要シ又口頭ヲ以テスルトキハ裁判所書記ニ調書ノ作成ヲ請求セサ

ル可カラス(三條法第三十項)且ツ其届出ニハ證據書類又ハ其謄本ヲ添フ可キコト既ニ上述シタルカ如シ又債權者ハ債權ノ届出ヲ爲スニ當リテ裁判所所在地ニ住居セサルトキハ其地ニ代人ヲ置キ債權ノ届出ト同一ノ手續ヲ以テ之ヲ届出ツ可キモノトス(商法第千二十三項)而シテ所謂裁判所所在地トハ市町村ノ區域ニ依ルノ外ナカル可シ茲ニ附言ス可キハ商法第千二十三條第三項ニハ代人任置ノ届出モ書面ニテ之ヲ爲ストキハ二通ヲ要スト規定スト雖モ余ハ斯ノ如ク輕易ナル手續ハ寧ロ一通ト爲スノ簡便ナルニ若カサルヲ信ス

債權ノ届出ハ破産主任官ニ宛テ、爲ス可キモノナリ而シテ破産主任官カ此届出ヲ受取リタルトキハ豫メ作リタル所ノ二個ノ表ニ順序ニ番號ヲ付シテ之ヲ記入ス可キモノトス二個ノ表トハ一ハ優先權アル債權ヲ掲クル表ニシテ一ハ通常ノ債權ヲ掲クル表ナリ此破産主任官ノ作リタル債權表ハ公衆ノ展閱ニ供スル爲メ裁判所ニ備ヘ置クモノトス(四條法第千二十項)蓋シ是ニ由リテ各債權者ハ他ノ債權者ノ届出テタル金額ヲ知り以テ後ニ講述ス可キ發議申立ヲ爲スト否トヲ定ムルコトヲ得ルナリ

債權ノ届出及ヒ債權表ノ謄本ハ破産管財人ニ交付スルコトヲ要ス(四條法第千二十項)是レ亦管財人カ是ニ由リテ債權者ノ氏名及ヒ債權ノ額ヲ知了シ調査會ニ於テ之ニ對スル意見ヲ述フルノ材料ヲ得ルノ方法タルナリ債權ノ届出ニ二通ヲ要スルモ蓋シ之カ爲メノミ

茲ニ一ノ問題アリ即チ二人以上ノ連帶義務者カ共ニ破産シタル場合ニハ其債權者ハ各義務者ノ財團ニ對シテ幾何ノ届出ヲ爲ス可キヤノコト是ナリ此點ニ關シ我法律ハ各義務者ノ財團ニ對シ債權ノ全額ヲ届出ツルコトヲ得ルモノト爲ス其理由如何ト云フニ連帶義務ヲ有スル債權者ハ何レノ財團ヨリモ全額ヲ受ケルノ權利ヲ有スルモノナルカ故ニ未ダ何レノ財團ヨリモ若干ノ配當ヲ受ケルコトヲ得ルヤ發明ヲササル場合ニ於テハ各財團ニ對シテ全額ヲ主張スルコトヲ得ルモノトシハナリ(商法第千三百三十一條)其届出テタル債權ニ對シテ若干ノ配當ヲ受ケルヤハ後ニ配當ノ部ニ至リテ説述ス可シ

終ニ一言ス可キハ破産者ノ債務ヲ保證シタル保證人ハ財團ニ對シテ債權ノ届出ヲ爲スコトヲ得ルヤ否ノコト是ナリ保證人ハ其保證スル債務者ニ對シテ條件附

債權ヲ有スル者ナルカ故ニ前ニ述ヘタル條件附債權者ハ財團ノ配當ニ加入スル
 コトヲ得トノロエスレル氏ノ解釋ヲ以テスルトキハ亦債權ノ届出ヲ爲スヲ得ル
 モノト謂ハサル可カラス然レトモ保證人ハ他ノ普通ノ條件附債權者ト相異ナル
 所アリ即チ保證ノ場合ニハ其債權者ハ債權ノ届出ヲ爲ス可キヲ以テ若シ保證人
 ニモ債權ノ届出ヲ許ストキハ同一ノ債權ニ付キ二重ノ届出アルニ至ル而シテロ
 エスレル氏モ商法草案第四十二條ノ說明ニ於テ財團ニ對シテ二重ノ届出ヲ爲
 スヲ得スト言ヘルノミナラス新民法第四百六十條ニハ保證人カ主タル債務者ノ
 委託ヲ受ケテ保證ヲ爲シタル場合ニ主タル債務者カ破産宣告ヲ受ケ且ツ債權者
 カ其財團ノ配當ニ加入セサルトキハ主タル債務者ニ對シテ豫メ求債權ヲ行フコ
 トヲ得ル旨ヲ規定セルカ故ニ此場合ニ於テノミ保證人ハ債務者ノ財團ニ對シテ
 債權ノ届出ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

第二款 調査會

調査會

調査會トハ債權者ヨリ債權ノ届出ヲ爲シタルニ當リ其債權ハ果シテ財團ヨリ辨
 濟ス可キモノナルヤ否ヲ確定スルカ爲メニ破産主任官ニ於テ開會スルモノナリ

此調査會ハ債權届出期間ノ滿了後十日乃至十五日間ニ開クヲ通例トス然レトモ
 特別ノ理由アルトキハ此期間ヲ伸縮スルコトヲ得尤モ此期間ハ商法第九百八十
 條第六號ノ規定ニ依リ破産決定書ニ於テ定ムルモノナルカ故ニ若シ之ヲ變更セ
 ントスルトキハ裁判所ノ決定ヲ以テセサル可カラス而シテ此會ニハ破産管財人
 ナ立會ハシメ且ツ可成的破産者ヲモ立會ハシム可キモノトス債權者モ亦自身若
 シハ代理人ヲ以テ此會ニ参加スルコトヲ得ルナリ(商法第一千二十
 五條第一項)
 調査會ハ如何ナル事ヲ爲スモノナルヤト云フニ恰モ裁判所ニ於テ債權ヲ調査ス
 ル場合ト同シク債權者ノ届出及ヒ其提出シタル書類ニ就キ其債權ノ存在スルヤ
 否ヲ調査スルハ勿論必要ナル場合ニ於テハ債權者ヲシテ取引帳簿若クハ其抜書
 ヲ提出セシムルコトヲ得(商法第一千二十
 五條第二項)加之破産主任官ハ必要ナル場合ニハ破産
 者其他ノ人ヲ訊問シテ債權ノ存否ヲ確定スルコトヲ得ルナリ又此會ニ参加シタ
 ル破産管財人債權者等ニ於テモ破産主任官ニ對シテ債權ノ存否ヲ確認スルノ手
 續ヲ爲スコトヲ請求スルヲ得ルモノトス
 調査會ノ記事ハ調査ニ作リテ之ヲ保存ス可キモノトス又其債權ヲ調査シタル結

破産法(附家賃分設法)

本論 債權者 債權ノ届出及確定 調査會

果ハ債權表及ヒ債權者ノ提出シタル債務證書ニ附記シ且ツ之ヲ債權者若クハ其代理人ニ告知スルコトヲ要ス(商法第千二十條第二項)茲ニ所謂調査ノ結果トハ次款ニ於テ講説ス可キ債權ノ確定ニ關スル事項ナリ

調査會ニ於テ調査スル債權ハ如何ナル債權ナリヤト云フニ届出ノ期間ニ届出テタル債權ヲ主トスルコト勿論ナレトモ届出期間ノ經過後ニ届出テタル債權ニテモ破産管財人若クハ他ノ債權者ヨリ異議ノ申立ナキトキハ之ヲ調査スルコトヲ得ヘシ然レトモ異議ノ申立アルトキハ届出期間後ニ届出テタル債權若クハ調査會終了後ニ届出テタル債權ニ付テハ其債權者ノ費用ヲ以テ新ニ調査會ヲ開ク可キモノトス(商法第千二十條第四項)其理由ハ届出期間後ニ届出テタル債權ト雖モ別段ノ手續ヲ要セサル場合ニ於テハ直チニ之ヲ調査スルコト總テノ關係人ニ便利ナリト雖モ異議ノ申立アル以上ハ届出ノ期間ヲ經過シタルハ其債權者ノ過失ト謂ハサ可カラサルカ故ニ之カ爲メニ更ニ要スル費用ハ其者ノ負擔トスルコト至當ナレハナリ

第三款 債權ノ確定

債權ノ確定

財團ニ對シテ届出テタル債權ハ二個ノ方法ニ依リテ之ヲ確定スルコトヲ得即チ承認及ヒ判決是ナリ

承認トハ如何ナルコトナリヤト云フニ調査會ニ於テ總般ノ必要ナル調査ヲ爲シタル後異議ヲ申立ツル債權者ヨリ何等ノ異議ヲ申立テサルトキハ其債權ハ承認ヲ得タルモノトシテ茲ニ確定スルモノトス然ラハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ルハ何人ナリヤト云フニ即チ破産管財人及ヒ債權ノ確定セハ債權者又ハ貸借對照表ニ掲ケタル債權者ナリ此他ノ債權者ハ自ラ其權利ヲ届出テタリトノ事實アルノミニシテ他ニ債權者ト認ム可キ根據存セサルモノナルカ故ニ他人ノ權利ニ對シテ異議ヲ申立ツルコトヲ許サ、ルナリ而シテ管財人カ異議ヲ申立ツルハ破産者ノ爲メニ之ヲ爲スモノナリ其自ラ債權者タル場合ニ於テハ他人ノ債權ヲ承認シ又ハ之ニ對スル異議ヲ申立ツルノ權利ハ破産主任官其管財人ニ代ハリテ之ヲ爲スモノトス(商法第千二十條第三項)次ニ裁判所ノ判決ヲ以テ債權ヲ確定スル場合トハ調査會ニ於テ管財人又ハ他ノ債權者ヨリ異議ヲ申立テラレタル場合ナリ尤モ異議ヲ申立テラレタル債權者ニ

破産法(附家資分放法)

本論 債權者 債權ノ届出及確定 債權ノ確定

於テ其債權ヲ取消シタルトキハ裁判所ノ判決ヲ仰クニ及ハス又異議ヲ提出シタル債權者ニ於テ其異議ヲ取消シタルトキモ同シク裁判所ノ判決ヲ請求スルニ及ハサルナリ而シテ判決ヲ爲ス場合ノ手續ハ商法第千二十七條ニ依レハ破産裁判所ノ公廷ニ於テ破産主任官ハ演述ヲ聽キテ之カ判決ヲ爲スモノニシテ其辯論及ヒ判決ハ原告被告ノ出廷セサル場合ト雖モ尙ホ之ヲ爲スモノトセリ

前述ノ規定ニ付キ茲ニ疑義ヲ生スルハ破産手續ニ於テ債權ニ對シ異議ヲ申立ラレタルトキ其事件ヲ破産裁判所ノ管轄ニ移スノ手續如何ト云フコト是ナリ普通ノ訴訟ニ於テハ原告ヨリ訴訟ヲ提起スルニ因リテ事件其裁判所ニ繫屬スルモノナリ然ルニ商法第千二十七條ニ定メタル場合ニハ訴訟ヲ提起スルノ手續ナク從テ如何ナル方法ニ依リテ破産裁判所ニ其事件繫屬スルニ至ルヤ分明ナラスロエスレル氏カ商法草案第千八百一十一條ノ下ニ於テ説明スル所ニ依レハ調査會ニ於テ異議ヲ申立テラレタル債權ニ付テハ破産主任官カ其事實ヲ裁判所ニ報告スルニ因リテ事件カ其裁判所ニ繫屬スルモノト爲セリ然レトモ果シテ然ラハ此場合ニ於テハ何人カ原告ニシテ何人カ被告ナルヤ又民事訴訟ニ於ケル訴訟印紙ノ如

キハ如何ナル時ニ之ヲ貼用ス可キヤ又訴狀ニ代ル可キ書面ノ如キハ之ヲ如何ニス可キヤ商法第千二十七條ノ法文ニ依レハ明カニ原告被告ノ存在ヲ認メ且ツ其判決モ亦通常ノ手續ニ依リテ之ヲ爲ス可キモノトセリ由是觀之破産裁判所ニ繫屬シタル以後ノ手續ニ付キテハ商法第千二十七條ノ法文ニ據ケサルモトハ總テ民事訴訟法ノ規定ニ依ラサル可カラス而シテ商法第千二十七條ニ特別ノ規定ヲ爲セル事項ハ唯タ合併判決ト關席判決トニ關スルモノ、ミ然ラハ則チ商法第千二十七條ノ規定ノミヲ以テハ債權ノ確定ニ關スル判決ヲ求ムルノ手續未ダ分明ナラスト謂ハサル可カラス獨逸破産法第百三十四條ニ於テハ異議ヲ受ケタル債權ニ付テハ其異議ヲ提出シタル者ニ對シ普通ノ訴訟手續ニ依リテ之ヲ定ムルモノトセリ又英國破産法ニ於テハ届出テタル債權ハ破産主任官ニ於テ之ヲ排斥スルト又ハ採用スルトノ決定ヲ爲シ其決定ニ不服ナル者ハ破産裁判所ノ決定ヲ受ケルモノトセリロエスレル氏ノ援用シタル佛蘭西、白耳義ノ商法ニ於テハ異議ヲ受ケタル債權アルトキハ之ヲ裁判所ニ移ストアルノミニシテ我商法ト同シク移付ノ手續ニ付キテハ何等ノ規定ヲモ設ケス(佛商法第四百九十八條、白商法第五百四十八條)立法論トシテハ

破産法(附家賃分數法)

本論 債權者 債權ノ届出及確定 債權ノ確定

獨逸破産法ノ如ク調査會ニ於テ異議ヲ受ケタル債權ニ付テハ一週間ナリ又ハ十日間ナリノ期間内ニ通常ノ手續ヲ以テ異議ヲ申立テタル者ヲ對手トシテ訴訟ヲ起スモノト爲シ其期間内ニ訴訟ヲ起サ、ル者ハ其債權ノ届出ヲ取消シタモトト看做シ又訴訟ヲ起シタル場合ニハ其判決ハ破産手續ニ於テノ關係人ヲ羈束スルモノト爲スノ適當ナルヲ信ス

我商法ニ於テハ前段ニ述ヘタルカ如ク異議ヲ受ケタル債權カ破産裁判所ニ繫屬スルニ付テノ規定ナシト雖モ其繫屬後ノ手續ニ付テハ特別ノ規定ヲ設ケタリ今其規定ヲ列擧スレハ即チ左ノ如シ

(第一) 破産裁判所ニ於テハ破産主任官ノ演述ヲ聽キテ裁判ヲ爲スコトヲ要スルモノトス

(第二) 一ノ破産事件ニ付テノ債權ノ確定ニ關スル判決ハ成ル可ク合併シテ裁判ヲ爲ス可キモノトス

(第三) 辯論及ヒ判決ヲ爲スニ方リテ原告、被告ノ出頭セザルトキト雖モ關席判決ノ規定ヲ適用セザルモノトス從テ其判決ニ對シ關席シタル當事者ヨリ故障ヲ

爲スコトヲ得サレナリ

右三個ノ特別手續ハ皆是レ破産事件ヲ迅速ニ結了セシムルノ主旨ニ出テタルモノナリ然レトモ此規定ハ第一審ニ限り適用ス可キモノニシテ控訴審以上ニ於テハ全ク之ヲ適用スルコトヲ得ス唯テ裁判所ハ立法者ノ精神ヲ酌ミテ強制執行ニ關スル事件ト同シク可及的迅速ニ之ヲ取扱フ可キモノナルニ過キス而シテ此債權ノ確定ニ關スル判決ハ成ル可ク債權者集會前ニ爲ス可キコト商法第千二十八條第一項ニ規定スル所ナリ其理由如何ト云フニ債權ノ確定シタル債權者ハ債權者集會ニ列席シテ發議スルノ權利ヲ有スルモノナルカ故ニ集會前ニ債權ノ確定スルコト其債權者ノ利益ナレハナリ斯ノ如キ規定アル以上ハ裁判所ハ普通ノ訴訟事件ヲ差措キテ先ツ此事件ヲ裁判セサル可カラサルモノトス

債權ノ確定ニ付テ生スル一ノ問題ハ債權ノ確定ハ後ニ之ヲ覆スコトヲ得ルヤ否ノコト是ナリ此事タル判決ニ因リテ確定シタル債權ナルトキハ確定判決ヲ覆ス同一ノ方法ヲ以テ其確定ヲ破ルコトヲ得ルハ言テ俟タスト雖モ債權ノ確定ハ前述セルカ如ク判決ノ外向ホ承認ニ因リテ爲ルモノアリ此承認ニ因リテ債權ヲ

確定シタル場合ニ後ニ至リテ債權者破産者若クハ其債權ノ存否ヲ確ムル爲メニ
 訊問シタル他ノ人カ虚偽ノ陳述ヲ爲シタルモノナリシコト或ハ債權證書カ偽造
 若クハ變造ナリシカ如キコト分明ト爲リタルトキハ其債權ノ確定ヲ破ルコトヲ
 得ルヤ否ヤ此點ニ付テロエスレル氏ハ商法草案第千八百十一條ノ下ニ於テ説明
 シテ曰ク斯ノ如キ場合ニハ承諾ニ因リテ爲リタル債權ノ確定ヲ破ルコト
 勿論ニシテ此事タル英國法ニ於テハ特ニ之カ規定ヲ設ケタリト雖モ元來破産法
 ニ於テ之ヲ規定スルノ必要ナシ何トナレハ斯ノ如キハ民事訴訟法ノ原狀回復ノ
 訴ニ因リテ其確定ヲ取消スコトヲ得レハナリト成程條理上ヨリ言フトキハ承認
 ニ因リテ確定シタル債權ニ對シテモ原狀回復ノ訴ニ因リテ異議ヲ述フルヲ許ス
 コト固ヨリ至當ナリト雖モ民事訴訟法ノ原狀回復ノ訴ニ依リテ承認ニ因ル債權
 ノ確定ヲ覆スコトハ特ニ法律ニ明文ヲ掲ケサル以上ハ到底之ヲ爲シ得ヘキモノ
 ニ非ス何トナレハ民事訴訟法ノ原狀回復ノ訴ハ確定判決ヲ攻撃スルノ方法ニシ
 テ承認ヲ以テ確定シタル債權ノ場合ニ適用ス可キモノニ非サルコトハ明文上毫
 モ疑ナ容ル可キニ非サレハナリ故ニ余ハ商法ニ於テ特ニ此場合ニ關スル明文ヲ

設ケルノ必要アルヲ信スル者ナリ

第二節 未確定債權

未確定債

前既ニ講述セルカ如ク債權ノ確定ハ承認又ハ判決ヲ以テ之ヲ爲スモノナリ然ル
 ニ判決ニ對シテハ控訴又ハ上告ノ途アルカ故ニ其確定ニ至ルマテニハ長日月ヲ
 費スコトアリ從テ正當ナル期間内ニ債權ヲ届出ツルモ調査會ニ於テ異議ヲ申立
 テラレタル場合ニ於テハ其債權ハ長ク確定セザルコトアリ又正當ノ期間ニ届出
 ナ爲サ、リシトキハ後ニ至リ之ヲ届出ツルモ其確定ニ至ルマテニハ多クノ日數
 ヲ要スルコト勿論ナリ斯ノ如ク届出ノ後レタルカ爲メ若クハ判決カ未タ確定セ
 サルカ爲メ其債權ノ未タ確定セザル債權者ハ其以後ノ破産手續ニ於テ之ヲ債權
 者トシテ取扱フ可キモノナルヤ否ト云フニ債權ノ未タ届出ナキ者ニ就キテハ債
 權者トシテ之ヲ取扱フ可キニ非サルコト勿論ナレトモ既ニ債權ノ届出ヲ爲シタ
 ルニ拘ハラズ其未タ確定セザル者ヲ全ク債權者以外ニ置クハ甚ダ不當ナルコト
 アリ何トナレハ此債權者ハ實際債權ヲ有スルニ拘ハラズ何等ノ怠慢ナクシテ債
 權者タルノ權利ヲ行フコト能ハサルニ至レハナリ故ニ我商法ニ於テハ其第千二

十八條及七第千二十九條ニ於テ債權ノ未ク確定セザル債權者ニ如何ナル權利ヲ認ムルヤヲ定メタリ而シテ第千二十八條ハ異議ヲ受ケタル債權者カ債權者集會ニ列席スルノ權利ニ關スル規定ナリ既ニ説述シタルカ如ク異議ヲ受ケタル債權者ニ付テハ判決ハ可成的債權者集會前ニ之ヲ爲ス可シトノ規定アリト雖モ實際上ノ如キ場合ニ於テ若シ其債權者ノ債權者集會ニ列席スルヲ許サ、ルコト、セシカ其債權者ニ取リテハ甚ク不利益ナリト謂ハサルヲ得ス故ニ斯ノ如キ場合ニ於テハ破産裁判所ハ總テノ事實ニ就キ一應ノ取調ヲ爲シ以テ其債權者カ債權者集會ニ列席スルコトヲ許ス可キヤ否ヲ決定ス即チ若シ一應ノ取調上債權者有スルモノト認メ得ルトキハ其後ノ裁判ノ結果如何ヲ問ハス債權者集會ニ列席スルコトヲ許スノ決定ヲ爲シ又一應ノ取調上債權者ノ存在ヲ認ムル能ハサルトキハ其債權者ノ債權者集會ニ列席スルコトヲ許サ、ルノ決定ヲ爲スナリ且ツ又債權者集會ニ於ケル債權者ノ權利ハ債權ノ額ニ因リテ相異ナルモノナルカ故ニ裁判所カ未確定債權者ノ債權者集會ニ列席スルコトヲ許スヤ否ヲ決定スルニ就テハ幾何

ノ金額ハ債權者トシテ之ヲ許ス可キヤヲモ決定セザル可カラズ彼ノ損害賠償ノ如キハ原告ノ請求スル金額ハ裁判所ノ許可スル金額ニ比シテ非常ニ多額ナルコト往々之アルヲ免カレズ其他ノ場合ニ於テモ原告ノ請求ノ一部ノミ採用セラレ、コト擲カラス故ニ裁判所ハ原告ノ請求ノ正當ナル理由アリト見ユル部分ニ就テノミ債權者集會ニ加ハルヲ許スナリ而シテ此債權者集會ニ加ハルコトヲ許スヤ否ノ決定ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ許スノ規定ナキカ故ニ此決定ハ直チニ確定スルモノトス又茲ニ未確定債權者カ債權者集會ニ加ハルコトニ付キ一ノ特別ナル規定アリ即チ商法第千二十八條第二項ニ規定スル所ノモノナリ此規定ハ商法第千三十五條第二項末段ト關聯スルモノニシテ優先權アル債權者届出テタル債權者カ其優先權ノミニ付キ異議ヲ受ケタル場合ナリ例ヘハ一ノ債權者カ破産者ニ對シ一千圓ノ債權者有シ且ツ其擔保トシテ某會社ノ株券百株ヲ占有スト主張スル場合ニ調査會ニ於テ其債權者カ一千圓ノ債權者有スト云フニ付テハ何人モ異議ヲ述ヘスト雖モ其擔保トシテ某會社ノ株券ヲ有スルコトヲ認メス或ハ債務者ヨリ單ニ預リタルモノナルカ或ハ支拂停止後ニ其事實ヲ知リツ、擔保ヲ

供セシメタルモノナリ等ノ異議ヲ唱フル場合ノ如シ而シテ優先権アル債権者ハ
 破産手續ニ於テモ亦優先ノ辯濟ヲ受クルノ權利ヲ有スルモノナルカ故ニ一般債
 権者ト共同ノ利害關係ヲ有スルモノニ非ス從テ此權利者ハ商法第千三十五條第
 二項ノ規定ニ依リ債権者集會ニ列席スルコトヲ得サルモノナリ然ルニ今茲ニ優
 先権アルコトヲ主張スルモ其優先權ニ就テ異議ヲ申立テラレタル債権者アリト
 センコ此場合ニハ優先権アル債権者トシテ債権者集會ニ加ハルコトヲ拒ム可キ
 モノナル乎又ハ普通債権者トシテ債権者集會ニ加ハルコトヲ許ス可キモノナル
 乎此問題ニ對シ我商法第千二十八條第二項ハ普通債権者トシテ債権者集會ニ加
 ハルコトヲ許スモノトセリ其理由トスル所ハ優先權ニ就キ異議ヲ受ケタル債権
 者ヲ債権者集會ニ加ハルコトヲ許サハルトキハ後ニ優先權ナシト確定スル場合
 ニ其債権者カ當然享有ス可キ權利ヲモ行ハシメサリシ結果ヲ生スト云フニ在リ
 之ヲ他ノ一方ヨリ考察スレハ若シ其債権者ノ優先權カ後ニ確定スルトセハ其債
 権者ハ優先權ヲ有スル者ナルニ拘ハラズ債権者集會ニ加ハリタルコト、ナリ從
 テ若シ其債権者カ加入セルカ爲メニ債権者集會ノ議決ニ影響ヲ及ボシタルカ如

キ場合ニハ普通債権者ハ爲メニ損害ヲ被ムルノ恐ナシトセス故ニ余ハ優先權ノ
 ミコ就キ異議ヲ受ケタル債権者アル場合ニ於テモ尙ホ其債権者ノ債権者集會ニ
 列席スルコトヲ許スヤ否ヤハ裁判所ニ於テ一應ノ取調ノ上之ヲ決定スルヲ可ナ
 リト信ス

商法第千二十九條ハ未確定債権者ニ爲ス配當ニ關スル規定ナリ此規定ノ原則ハ
 未確定ノ債権者ハ配當ニ加ハルコトヲ得スト云フニ在リ即チ債権ノ確定セサル
 債権者ハ其債権カ確定シタル後ニ爲ス所ノ財團ノ配當ノミニ加ハルコトヲ得其
 確定前既ニ終了セル財團ノ配當ニハ全ク干與スルコトヲ得サルナリ然レトモ此
 原則ニハ二個ノ例外アリ

(第一) 異議ヲ受ケテ訴訟中ニ在ル債権者

此債権者中ニハ普通ノ調査會ニ於テ異議ヲ申立テラレタルモノアリ又其後ノ
 調査會ニ於テ異議ヲ申立テラレタルモノアル可シ此等ハ兎ニ角既ニ債権ヲ屈
 出テ、調査會ヲ經タルモノナレトモ唯未ダ裁判所ノ判決ニ依リテ之ヲ確定セ
 スト云フニ過キス若シ此等ノ債権者モ其債権ノ確定スルマテハ財團ノ配當ニ

加ハルコトヲ得セシメストセンカ後ニ債權ノ確定セルトキニ至リ其債權者ハ非常ナル損害ヲ被ムルノミナラス債權者中ニ狡猾ナル者アルトキハ自己ノ債權ニ對スル配當ヲ多カラシムルカ爲メニ他人ノ届出テタル債權ニ對シテ不當ナル異議ヲ申立ツルノ弊ヲ生スルニ至ラン故ニ商法ハ異議ヲ受ケタル債權者ノ利益ノ爲メニ其確定前ニ配當ヲ爲ス場合ニハ其債權ニ對スル割前ヲ留存ス可キモノトセリ

(第二) 外國ニ在ル債權者

此債權者ハ債權ノ届出及ヒ調査ノ爲メニ別段ノ期間ヲ定メラレタル者ナリ既ニ述ヘタルカ如ク破産宣告ノ決定ニハ債權届出ノ期間及ヒ普通ノ調査會ノ期日ヲ定メアリテ何人モ之ヲ知得スル等ナレトモ外國ニ在ル債權者ニハ到底内國ニ在ル債權者ト同一ノ期間内ニ債權ヲ届出テシムルコト能ハサル場合アリ故ニ斯ノ如キ場合ニハ破産裁判所ハ別ニ決定ヲ以テ別段ノ届出期間及ヒ調査ノ期日ヲ定ムルモノトス此場合ニ於テハ在外國債權者ハ其特別ノ届出ノ期間及ヒ調査會ノ期日ノ到來スルマテハ其債權ヲ確定スルノ時期ヲ經過シタルモ

ノニ非ラサレハ之ヲ財團ノ配當ヨリ除外スルハ固ヨリ不當ノコトタルヲ免カレズ從テ其未タ確定セサル以前ニ於テ配當ヲ爲ス場合ニハ之ニ對スル割前ヲ留存スルモノトス然レトモ余ノ少シク感フ所ハ在外國債權者アルコトノミ分明スルモ其債權ノ數額分明ナラサル場合ニハ未タ債權ノ届出ナキ以前ニ在テ之ニ對スル割前ヲ留存スルコトヲ得サルニ非スヤトノコト是ナリ即チ我商法ノ規定ハ既ニ届出アリタル場合若クハ貸借對照表ニ債權額ノ記載アル場合ニノミ適用ス可クシテ其他ノ場合ニハ之ヲ適用スルヲ得サルナリ然ラハ在外國債權者ノ債權額ノ分明ナラサル場合ニハ之ヲ如何ニス可キヤト云フニ余ノ考フル所ニ依レハ此場合ニハ其届出ノ期間及ヒ調査會ノ期日ノ經過スルマテハ財團ノ配當ヲ爲サ、ルヲ妥當トス

第三節 届出及確定ノ規定ニ從フコトヲ要セキル債權

前ニ債權ノ届出及ヒ確定ニ關スル規定ヲ講述シタルカ財團ニ對スル債權中此規定ニ從フヲ要セサルモノアリ即チ左ノ如シ(商法第三十二條)

届出及確定ノ規定ニ從フコトヲ要セサル債權

破産法(附家資分設法)

本論 債權者 届出確定ノ規定ニ從フコトヲ要セサル債權

(第一) 裁判費用、管理費用、其他破産手續上ノ費用

茲ニ所謂裁判費用トハ財團ニ對シテ訴訟ノ起リタルトキ又ハ債權ニ對シテ異議ノ起リタルトキ之ヲ裁判スルニ關スル費用ヲ云フ此他破産手續上ニ要スル所ノ管理人ノ報酬、破産者ノ報酬及ヒ財團ニ屬スル物件ヲ保存スル費用ノ如キハ皆此中ニ包含セラル、ナリ然レトモ此中ニハ債權者カ破産手續ニ加ハリタルニ因リテ自己ニ生シタル債權即チ債權届出ノ費用、訴訟費用、旅費、日當ノ如キヲ包含セス(商法第三十三條)何故ニ此等ノ費用ハ財團ニ對シテ請求スルコトヲ得サルヤト云フニ破産ノ場合ニ於テハ債權者ハ主タル債權ノ全部ノ辨濟ヲ受クルコト能ハサルヲ常トス故ニ此等ノ費用ヲモ計算シテ請求スルヲ得ルモノトスルモ到底其辨濟ヲ得ルノ望ナシ然ルニ尙ホ之ヲ請求シ得ルモノトセンカ破産手續ノ終了ニ至ルマテニ債權者ノ請求額屢々變更ス可キヲ以テ計算上頗ル困難ヲ感セサルヲ得ス斯ノ如キ無用ノ困難ヲ惹起サンヨリハ初ヨリ之ヲ請求スルコトヲ得ストスルノ優レルニ如カストセルナリ然レトモ破産手續ノ終了後破産者ニ對シ此等ノ費用ヲ請求シ得ヘキハ勿論ニシテ唯チ財團ニ對シテ之ヲ請

求シ得サルノミ

(第二) 公ノ手数料及ヒ諸稅

(第三) 管財人カ財團ノ爲メニ負擔シタル義務ヨリ生スル債權

管財人カ如何ナル場合ニ財團ノ爲メニ義務ヲ負擔スルコトヲ得ルヤハ前ニ破産主任官ノ認可ヲ可ケテ爲ス可キ行爲ト云フ所ニ於テ詳述シタレハ再ヒ茲ニ贅說セサル可シ

以上三種ノ債權ハ或ハ破産手續上ノ費用タリ或ハ國家其他ノ公共ノ團體ニ屬スル債權タリ或ハ又破産管財人カ破産主任官ノ認可ヲ受ケテ負擔シタル義務ヨリ生スル債權ニシテ之ヲ届出テシメ又ハ確定スルノ規則ヲ準用スルコトヲ要セサルモノナリ加之此等ノ債權ハ皆破産手續中ニ起レルカ然ラサレハ國家若クハ公人ノ公法上ノ權利ニ基クモノナルカ故ニ破産者ニ對スル普通ノ債權ト相異ナリ財團ヨリ平等ノ配當ヲ受ケシム可キニ非ス故ニ商法第三十二條第二項ニハ破産管財人ハ破産主任官ノ指圖ニ從ヒ通常ノ方法ヲ以テ財團ノ現額ヨリ之ヲ支拂フモノトセリ即チ配當手續ニ依ラスシテ先ツ此等ノ債權ニ對シ辨濟ヲ爲ス

モノトス

債權者ノ
集會

第四節 債權者ノ集會

破産手續中ニ債權者ヲ招集シテ其決議ヲ取ルコトアリ此債權者ノ集會ハ我國ノ如ク破産手續ハ裁判所ノ指揮監督ニ依リテ之ヲ行フモノト爲シタル國柄ニ於テハ其必要甚ク多カラスト雖モ夫ノ英米ノ如キ破産手續ハ債權者主トシテ之ヲ行フ國柄ニ在リテハ其必要頗ル大ナルヲ以テ屢々之ヲ開クノ要アリ然レトモ我國ニ於テモ債權者集會ハ破産手續中少クトモ二回之ヲ開クコトヲ要ス其一ハ所謂第一集會ニシテ破産主任官及ヒ破産管財人ノ報告ヲ受クルカ爲メ之ヲ開クモノナリ第二ハ所謂最後ノ集會ニシテ管財人カ終局ノ計算ヲ爲スカ爲メニ開クモノナリ此第一集會ト最後ノ集會トノ間ニハ破産主任官ノ見込ヲ以テ臨時ニ幾回ダリトモ之ヲ開クコトヲ得ヘシ

第一債權者集會ハ破産決定書ニ指定セル期日ニ開クモノニシテ商法第千三十八條ニ依レハ普通ノ調査會ヨリ四週日後ニ之ヲ開クモノナリ而シテ債權者集會ハ破産主任官之ヲ招集シ及ヒ之ヲ指揮スルモノニシテ其招集ハ會議ノ事項ヲ明示

集會ニ列
ス可キ人

シタル公告ヲ以テ之ヲ爲ス(商法第千三十條第一項)然レトモ第千三十五條ノ規定ハ主トシテ第二以上ノ債權者集會ヲ目的トシテ規定シタルモノニシテ第一ノ債權者集會ニハ或ハ之ヲ適用ス可カラサルコトアルナリ即チ第一債權者集會ハ既ニ述ヘタルカ如ク破産主任官ノ招集ヲ待タスシテ破産決定書ニ定メタル期日ニ集會スルモノナリ故ニ其會場其他之ニ關聯スル細微ノ事柄ハ破産主任官自ラ之ヲ爲サルモ管財人ナシテ之ヲ爲サシムルヲ以テ足ル然レトモ第二以上ノ集會ニ至リテハ勿論第千三十五條ノ規定ニ從ヒ破産主任官之ヲ招集セサル可カラス而シテ既ニ集會ヲ開キタルトキハ之ヲ指揮スルモノハ常ニ破産主任官ナリ故ニ債權者集會ニ於ケル議長ノ職ハ破産主任官之ヲ勤ムルコト多シトス

第一款 集會ニ列ス可キ人

債權者集會ニ列ス可キ者三種アリ即チ左ノ如シ

- 第一、破産管財人
- 第二、債權ノ確定シタル債權者
- 第三、異議ヲ受ケテ訴訟中ニ在ルモ裁判所ヨリ參加スルコトヲ許サレタル債

破産法(附家資分設法)

本論 債權者 債權者ノ集會 集會ニ列ス可キ人

權者

右ノ中債權ノ確定セル債權者ナルモ其債權ニシテ優先權ノ確定セルモノナルト
 キハ債權者集會ニ加ハルコトヲ得サルヲ原則トスルコト既ニ前ニ説ケルカ如シ
 然レトモ其債權者ハ優先權ヲ拋棄スルカ又ハ優先權ヲ行フニ方リテ不足アル可
 シト破産主任官ニ於テ推定シタル限度ニ於テハ債權者集會ニ參加スルコトヲ得
 ルモノトス(商法第三十條第二項)何トナレハ優先權ヲ拋棄スルカ又ハ優先ノ辨濟ヲ得ル
 コトヲ得サル部分ニ付テハ一ノ普通債權者タルニ外ナラサレハナリ尙ホ一言附
 加ヌ可キハ總テノ債權者ハ代理人ヲシテ債權者集會ニ列席セシムルコトヲ得ル
 コト是ナリ(商法第三十條第三項)
 次ニ債權者集會ニ列スルノ權利ヲ有スルニ非スニテ之ニ列スルノ義務ヲ有スル
 者アリ破産者即チ是ナリ既ニ屢々説述シタルカ如ク破産者ハ自己ノ財團ノ有様
 ナ最モ能ク知ルモノナルカ故ニ之ヲ呼出シテ其陳述ヲ聞クハ債權者集會ニ於テ
 決議ヲ爲スカ爲メニ甚ク必要ナルコトアリ故ニ破産主任官ノ呼出アリタルトキ
 ハ破産者ハ債權者集會ニ出頭シテ陳述ヲ爲スノ義務アルモノトス(商法第三十條第四項)

會議ノ事

第二款 會議ノ事項

前ニ述ヘタルカ如ク我商法ニ於テハ債權者集會ノ決議ヲ要スルノ事項甚ク少ナ
 シ從テ後ニ説述ス可キ協諾契約ノ提供アリタルトキ及ヒ破産管財人カ終局ノ計
 算ヲ爲ストキノ外ハ債權者集會ニ於テ議決ス可キ事項甚ク曖昧ナリ然レトモ商
 法第三十七條ニハ債權者集會ニ於テ爲ス可キ事項ヲ定メタリ其事項タル第一
 集會ニ於テノミ爲ス可キモノ、如ク見ユレトモ又第二以上ノ集會ニモ適用シ得
 ヘキカ如クニモ見ユ而シテ第二以上ノ集會ニ付テハ之ヲ適用ス可カラストセハ
 第二以上ノ集會ニ付テハ何等ノ規定ナキニ至ルカ故ニ寧ロ總テノ集會ニ之ヲ適
 用スルモノト解釋スルヲ穩當ナリトス其第三十七條ノ規定ニ依レハ債權者集
 會ニ於テハ破産主任官ハ破産手續上ニ起リタル事柄ノ成行ヲ報告シ又管財人ハ
 管財ノ處理其結果及ヒ財團ノ現況ニ就テノ報告ヲ爲ス可キモノトセリ故ニ此規
 定ニ基キテ破産主任官ハ破産宣告後債權者集會ヲ開クニ至リタル間ノ破産手續
 ノ一斑ノ模様ヲ報告シ又管財人ハ破産者ノ財産ノ多寡其財産ニ就テノ處分等ヲ
 報告スルナリ然ラハ此報告ヲ受ケタル債權者集會ハ之ニ因リテ如何ナルコトナ

破産法(附家資分教法)

本論 債權者 債權者ノ集會 會議ノ事項

爲ス可キヤト云フニ之ニ就テ決議ヲ爲ス可キモノトス加之破産主任官又ハ管財人ノ意見アリタルトキ又ハ債權者ノ申立アリタルトキ若クハ破産者カ破産主任官ノ認可ヲ受ケテ申立ヲ爲シタルトキハ此等ニ就キ亦決議ヲ爲ス可キモノトス且ツ其決議ハ總テ裁判所ノ認可ヲ受ク可キモノトセリ然ラハ債權者集會ノ決議ハ如何ナル効力アリヤト云フニ此點ニ就テハ我商法ノ規定甚ク明瞭ヲ缺ケリ既ニ述ヘタルカ如ク我商法ニ於テハ財團ノ管理換價及ヒ配當ニ關スル事柄ハ破産主任官ノ指揮監督ニ依リテ管財人之ヲ爲スモノトシ而シテ此事ニ付キ債權者ヨリ破産主任官ノ決定ヲ求ムルコトヲ得ルモノト爲スト雖モ債權者集會ノ決議ヲ要スルノ點ハ甚ク不明ナリ又其決議ナルモノハ何カ爲メニ之ヲ爲スモノナリヤト云フニ余ハ破産主任官又ハ管財人ノ參考ニ供スルニ過キサレモノナリト思惟ス即チ我商法上ニ於ケル債權者集會ノ目的ハ破産主任官管財人及ヒ破産者ヨリ破産事件ニ關スル詳細ノ事情ヲ聞クコト及ヒ之ニ付キテ破産主任官又ハ管財人ノ參考ニ供スル爲メニ債權者ノ意見ヲ開陳スルノ器械タルニ過キサレ可シ尤モ後ニ講説ス可キ協諧契約ノ承諾ハ格別ナリトス

債權者集會ノ決議方法

第三款 債權者集會ノ決議方法

債權者集會ノ決議ニ普通ト特別ト二種アリ其種類ノ相異ニ由リ決議方法ヲ同クセス然レトモ我破産法ニ於テハ特別ノ決議ハ協諧契約ノ場合ニ限り適用ス可キモノナルカ故ニ其詳細ナル説明ハ之ヲ後ニ述フル所ノ協諧契約ノ場合ニ譲リ茲ニハ唯普通決議ニ付キ説述スルニ止ム可シ

我商法第千三十六條ニ定メタル普通決議ノ方法ハ出席シタル債權者ノ過半数ニ依ルモノトス然レトモ單ニ人員ノ過半数ノミチ以テ足レリトセスシテ尙ホ出席員ノ有スル債權額ノ過半数ナルヲ要ス換言セハ債權者集會ノ決議方法ハ一方ニ於テハ出席債權者ノ過半数タルコトヲ要シ他方ニ於テハ出席債權者ノ債權額ノ過半数タルコトヲ要スト云フニ在リ法律カ斯ク二个ノ條件ヲ要スル理由ハ若シ債權者ノ數ノミニ依ルトキハ少額債權者ノ多數ヲ以テ多額ヲ有スル少數ノ債權者ヲ壓制スルノ結果ヲ生ス可シ然ルニ債權者集會ノ決議ハ債權者ノ利害ニ直接ノ影響ヲ及ホスモノナルカ故ニ斯ル場合ニ在リテハ多額ノ債權者ノ利益ヲ保護スルノ必要アリ左レハトテ又債權ノ額ノミニ依リ議決ノ權利ヲ計算スルトキハ

破産法(附家賃分設法)

本論 債權者 債權者ノ集會 債權者集會ノ決議方法

多額債權者ハ常ニ少額ノ債權者ヲ壓制シ去ルノ結果ヲ來スニ至ラシ是故ニ我商
法ニ於テハ債權者ノ數ト債權額トヲ折衷シテ其決議方法ヲ定メ以テ雙方ノ權衡
ヲ得セシメタルナリ此點ニ付テハ歐洲大陸ノ法律モ皆我法典ト同一ノ主義ヲ採
レリ唯々英國ニ在リテハ債權者集會ノ普通決議ハ債權額ノ半以上ニ當ル同意ヲ
以テ定ムルノ規定ヲ採ルニ過キス

第七章 協諧契約

協諧契約トハ各債權者カ財團ニ對シテ辨濟ノ延期ヲ與フルカ又ハ其請求權ノ一
部ヲ拋棄シ破産手續ノ配當ニ依ラスシテ其手續ヲ終了シ以テ破産者ニ其財産ノ
管理處分ノ權ヲ回復セシムルノ契約ナリ而シテ是レ亦債權者集會ニ於テ決議ス
可キ事項ノ一ニ屬ス此契約ハ破産者ト債權者總員ノ間ニ締結スルモノニシテ破
産者ニ惡意若クハ過失アルニ非ス不可抗力又ハ意外ノ事變ノ爲メニ破産宣告ヲ
受ケサル可カラサルニ至リタルトキ其營業ヲ續行セシムルノ方法ナリ故ニ此契
者ハ債務者ノ申出ニ因リ主トシテ其利益ノ爲メニスルモノナレトモ亦債權者ノ
利益トナル場合少シトセス何トナレハ破産宣告ヲ受ケタル者ノ總財産ヲ換價シ

協諧契約

テ債權者ニ配當スルトキハ實際各債權者ノ受ケル配當額ハ甚ク少ナルコト多
シ然ルニ破産手續ノ配當ニ至ラスシテ營業ヲ續行スルコトヲ得ンコハ破産者ハ
他人ノ補助ノ爲メ破産手續ニ依ル配當額ヨリモ却テ多額ノ配當ヲ爲シ得ルコト
アル可ク又縦令直チニ辨濟スルヲ得ストスルモ營業ヲ繼續スル以上ハ債務者ハ
或ハ其資産ヲ回復シ債權者ニ完全ナル辨濟ヲ爲シ得ルノ望ミアル可シト雖モ若
シ總テノ破産手續ヲ終リ財産ノ配當ヲ爲シタル上ハ後日ニ至ルモ到底斯ル望ヲ
容ル可キノ餘地ナカル可ケレハナリ

協諧契約ハ以上述ヘタルカ如ク破産者ノ利益タルハ勿論債權者ノ利益トモナル
可キモノナルヲ以テ一般經濟社會ノ爲メ此規定ヲ設クルハ實ニ緊要ノコトニ屬
ス故ニ何レノ邦ノ破産法ニ於テモ之ヲ認メサルハナシ然レトモ此協諧契約ヲ破
産手續ノ一ト爲スト否ラサルトニ付テハ各國法律ノ間ニ差異ノ存スルモノアリ
即チ歐洲大陸ノ法律ハ我破産法ト其規定ヲ同ウスト雖モ英國法律ニ依レハ第一
ノ債權者集會ニ於テ協諧契約ヲ承諾セサルカ若クハ之カ認可ヲ受ケルコト能ハ
サルトキニ於テ裁判所ハ始メテ其債務者ニ對シテ破産ヲ宣告シ此宣告ニ依リ破

産者ノ財産ハ債權者間ニ分割セラル可キモノトス從テ第一債權者集會ノ期日前ニ在リテハ債務者ハ前ニ述ヘタルカ如ク保管命令ノ下ニ在ルモ未タ破産者ニ非サルナリ加之破産宣告後ニ於テモ債權者集會ノ特別決議ニ依リ協諧契約ヲ承諾シテ裁判所ノ認可ヲ得ルトキハ既ニ爲シタル破産宣告ハ直チニ取消サル、モノトス然ルニ本邦及ヒ歐洲大陸ノ破産法ニ於ケル協諧契約ハ破産者カ其破産手續中ニ債權者ト締結スル契約ニシテ此契約ヲ爲スト否トハ破産者タルニ何等ノ關係ナク唯タ契約確定スルトキハ破産手續ヲ終結シタルト同一ノ地位ニ立ツニ過キ也但我破産法ニ於テハ後ニ述フルカ如ク支拂猶豫ナルモノヲ規定シテ債務者カ未タ支拂ヲ停止セサル以前ニ債權者ニ對シ支拂ノ猶豫ヲ請求スル機會ヲ與ヘ、ダリ然レトモ支拂停止以後ニ於テハ如何ナル事情アルモ其債務者ハ破産宣告ヲ免ル、コトヲ得ス反之英國法ニ於テハ右ニ述ヘタル規定ノ結果トシテ破産行爲アリタル後ト雖モ若シ協諧契約整フトキハ之ヲ破産者ト認メサルノ差異アルナリ

協諧契約提供ノ條件

第一節 協諧契約提供ノ條件

協諧契約ハ主トシテ破産者ノ利益ノ爲メニスルモノナルカ故ニ協諧契約ノ提供ヲ爲ス者ハ常ニ破産者ナリト雖モ破産者ハ何時ニテモ此提供ヲ爲シ得ルニ非ス蓋シ協諧契約ハ債權者ノ權利ヲ抑制シテ破産手續ヲ中途ニ終了セシムルモノナルカ故ニ各債權者ハ最モ債務者ヲ信用シ且ツ此契約ノ締結カ自己ノ利益トモナルトキニ非サレハ到底成立スルコトヲ得ス又其成立ノ望ナキニ拘ハラス濫リニ之カ提供ヲ許スカ如キハ徒ラニ債權者集會ノ紛雜ヲ來スノ材料タルニ過キス且ツ夫レ該契約ヲ提供スル債務者ニシテ誠實ナラサルトキハ良シヤ債權者集會ニ於テ此提供ヲ承諾スルモ其承諾ハ或ハ詐欺ノ手段ニ因リテ得タル如キ恐アルノミナラス假リニ其承諾ニ付テハ瑕瑾ナシトスルモ其提供タル管ニ一時ヲ糊塗セシカ爲メニシテ後日義務ヲ辨濟スルノ意思ナキトキハ其協諧契約ハ不履行ニ因リ遂ニ解除セラル、ニ至ル可シ斯ノ如キハ實ニ經濟社會ノ信用ト秩序トヲ紊亂スルモノタルヲ免レス故ニ法律ハ協諧契約ヲ提供スルニ必要ナル條件ヲ定メ之ヲ具備スルトキニ非サレハ之カ提供ヲ許サストセリ以下其條件ヲ説明ス可シ

(第一) 法律上ノ義務ヲ履行シタルモノナルコトヲ要ス 茲ニ所謂法律上ノ義務

破産法(附家資分散法)

本論 協諧契約 協諧契約提供ノ條件

トハ破産者カ破産法ニ因リテ負擔スル義務ナリ即チ支拂停止ノ届出破産管財人ノ補助調査會ノ出席ノ如キ破産法上當然爲サ、ル可カラサル行爲及ヒ破産主任官又ハ破産管財人ノ請求ニ因リ爲ス可キ事項ヲ云フ破産者ハ此等ノ義務ヲ誠實ニ履行スルニ非サレハ協諧契約ノ提供ヲ爲スコトヲ得ス何トナレハ既ニ破産宣告ヲ受ケ且ツ此等ノ義務ヲモ果サ、ル破産者ハ到底誠實ナル者ト看做ス可カラサレハナリ

(等二) 有罪破産ノ宣告ヲ受ケサルモノタルコトヲ要ス

(第三) 有罪破産ノ被告人ヲラサルコトヲ要ス

有罪破産トハ後ニ詳述スルカ如ク破産ヲ爲スニ當リ又ハ破産手續中ニ詐欺又ハ懈怠ノ行爲アリタルトキナ云フ斯ル場合ニ於テハ又之ヲ誠實ナル債務者ト看做スコトヲ得サルナリ

又此第二、第三ノ條件ハ有罪破産ノ場合ナルカ故ニ詐欺破産ノ場合タルト過怠破産ノ場合タルト問ハス之ヲ適用ス可キモノトス佛蘭西商法第五百十條ニ依レハ此二條件ハ單ニ詐欺破産ノ場合ノミニ限り適用ス可キモノト爲セリ從テ

過怠破産ノ罰ヲ受ケタル債務者ハ協諧契約ヲ提供スルヲ妨ケス斯ノ如ク我破産法ト佛國法トハ其規定ヲ同ウセサルモ立法上其規定ノ當否ハ未タ容易ニ之ヲ斷言スルコトヲ得サルナリ

以上述ヘタル三个ノ條件ヲ備フル破産者ニシテ始メテ協諧契約ヲ提供スルノ資格アリ然ラハ此資格ヲ有スル破産者ハ隨意ニ此契約ヲ提供シ得ルヤト云フニ之ヲ提供スルニ當リテハ先ツ破産主任官ノ認可ヲ受ケサル可カラス破産主任官ハ破産ノ事情ヲ調査シ右ニ講述シタル協諧契約ヲ提供スルノ資格アルヤ否ハ勿論尙ホ進メテ該契約ハ破産者ノ信用位置ニ照シ果シテ實行セラル可キモノナルヤヲモ考慮シテ其許否ヲ決ス可キモノトス若シ破産主任官カ其提供ヲ拒絕シタルトキハ破産者ハ破産裁判所ニ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ヘシ(商法第九百八十三條一項)

協諧契約提供ノ時期

第二節 協諧契約提供ノ時期

破産者カ協諧契約ヲ提供スルハ第一債權者集會ニ於テスルヲ要ス第一債權者集會トハ前ニ述ヘタルカ如ク破産決定書ニ定メタル債權者集會ノ期日ニシテ普通

破産法(附家資分數法)

本論 協諧契約 協諧契約提供ノ時期

ノ調査會ヨリ四週間ノ後ニ爲スモノナリ又協諧契約ノ申立書ハ少クモ債權者
 集會ノ二十日前ニ之ヲ裁判所ニ差出ス可キモノニシテ裁判所ハ之ヲ受ケタルト
 キハ公衆ノ展閱ニ供シ且ツ其旨ヲ公告ス可キモノトス(商法第二千三十條)此手續タル
 ヤ債權者ヲシテ豫メ協諧契約ノ提供セラレタルコトヲ知ラシメ以テ此契約ノ諾
 否ニ付キ熟慮スルノ機會ヲ得セシメントスルニ在リ而シテ我商法ノ明文ニ依レ
 ハ協諧契約ノ申立書ハ裁判所ニ差出ス可キモノナルニ債務者ハ其差出前ニ於テ
 破産主任官ノ認可ヲ受ケサル可カラズ(商法第一千三十條)從テ若シ債務者ニシテ之ヲ
 提供セント欲セハ集會開期ヨリ以前ニ充分ノ時日ヲ隔テ、破産主任官ノ認可ヲ
 求メサル可カラサルモノトス然ラサレハ破産主任官カ其申立ヲ審査スル内早ク
 既ニ集會開期ハ切迫シ來リ集會ノ二十日前ニ其申立書ヲ裁判所ニ差出スコト能
 ハサルノ不幸ニ陥ルコトアル可キナリ

協諧契約ハ前述ノ如ク第一債權者集會ニ於テ提供スルコトヲ通則トスレトモ若
 シ十分ノ理由存スルトキハ其以後ノ集會ニ於テモ亦之ヲ提供スルコトヲ得ヘシ
(商法第一千三十八條)所謂十分ノ理由トハ破産主任官ノ認可ヲ遅延シタル爲メ或ハ其

命令ニ對シテ抗告ヲ爲シタルカ爲メ期日ニ提供シ能ハザリシカ如キハ其最モ著
 ルシキモノナリ其他債務者カ不在中破産宣告ヲ受ケテ集會ノ開期ヲ知ラザリシ
 場合ノ如キモ勿論十分ノ理由ナル可シト信ス

協諧契約ヲ提供シテ一度拒絕セラレタルトキハ最早再ヒ之ヲ提供スルコトヲ得
(商法第一千三十八條)蓋シ協諧契約ノ提供ハ債務者カ赤心ヲ吐露シテ憐ナ債權者ニ
 請フモノナリ然ルニ若シ再三之ヲ提供シ得ヘキモノトセハ最初ハ先ツ債權者ニ
 利益少キ條件ヲ以テ諾否ヲ試ミ其拒絕セラレ、ニ及ヒ更ニ之ヲ變更シ他ノ條件
 ナ附シテ提供スルカ如キ惡弊ヲ生ス可シ故ニ法律ハ唯タ一回ノミノ提供ヲ許シ
 之ヲ拒絕セラレタル以上ハ更ニ之ヲ提供スルコトヲ許サ、ルナリ

第三節 協諧契約ノ承諾

協諧契約ハ破産者ノ提供ニ係リ債權者集會ノ承諾ヲ要スルモノナリ故ニ其申立
 アリタルトキハ債權者集會ハ先ツ之ヲ承諾ス可キヤ否ヤヲ決議セサル可カラズ
 而シテ其決議ハ所謂特別決議ニシテ普通決議ノ方法ニ比スレハ一層鄭重ノ手續
 ナ履踐セシム即チ商法第三千三十九條第一項ニ依レハ此契約ヲ承諾スルニハ出席

協諧契約
ノ承諾

破産法(附家資分散法)

本論 協諧契約 協諧契約ノ承諾

債權者ノ過半數ノ同意ヲ要スルノ點ニ於テハ普通決議ト同一ナルモ其過半數ノ債權者ハ議決權アル總テノ債權者ノ債權額ノ四分ノ三以上ニ該當スルコトヲ要ス換言セハ其集會ニ出席シタル債權者ノ全員カ協諧契約ノ承諾ニ同意スルモ其出席總員ノ債權額カ議決權アル總債權者ノ債權額ノ四分ノ三以上ナラサルトキハ其効ナシト云フニ在リテ結局議決權アル總債權額四分ノ三以上ノ債權者出席セザルトキハ到底協諧契約ヲ承諾スルノ途ナキナリ然ラハ何故ニ此場合ニハ普通決議ノ方法ニ依ラサルヤト云フニ協諧契約ハ前ニ述ヘタルカ如ク債權者ノ權利ノ實行ヲ抑制スルモノナルカ故ニ不贊成者ヲモ之ニ從ハシメテハ頗ル慎重ヲ加ヘサル可カラサルニ由ルナリ

債權者集會ニ於テ協諧契約ノ承諾ヲ議決シタルトキハ之ニ對シテ異議ヲ申立ツルヲ得ルヤト云フニ我商法第千三十九條第二項ニ依レハ破産管財人又ハ參加權アル債權者若クハ議決ノ後ニ至リテ債權ノ確定シタル債權者ハ議決後十日以内ニ破産裁判所ニ理由ヲ附シテ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトス此異議申立ノ理由トハ或ハ前ニ述ヘタル協諧契約提供ノ資格ヲ欠缺セルカ如キ或ハ後ニ

述フ可キ協諧契約棄却ノ原因アルカ如キコトヲ主張スルニ在リ
債權者集會ニ於テ協諧契約ヲ承諾スルモ其契約ハ直チニ効果ヲ生スルモノニ非スシテ尙ホ破産裁判所ノ認可ヲ要ス而シテ此破産裁判所カ下ス可キ認可又ハ棄却ノ決定ハ異議申立期間ノ満了シタル後ニ爲スモノニシテ之ヲ爲スニ當リテハ破産主任官ノ演述ヲ聞カサル可カラス又裁判所ノ協諧契約ヲ認可又ハ棄却スル決定ニ對シテ異議アルトキハ債務者及ヒ其異議申立ノ權アル者ヨリ即時抗告ヲ爲シテ之ヲ争フコトヲ得ヘシ(商法第千四十條)

第四節 協諧契約ノ棄却

協諧契約ハ以上述ヘタル如ク裁判所ノ認可ヲ要スルモノナルカ裁判所ハ如何ナル場合ニ於テ不認可即チ之ヲ棄却スルヤト云フニ商法第千四十一條ハ其棄却ス可キ四箇ノ場合ヲ列舉セリ而シテ裁判所ハ協諧契約ヲ修正スルノ權能ヲ有セサルカ故ニ其全部ヲ認可スルカ又ハ之ヲ棄却スルノ外ナキモノトス以下此四箇ノ場合ヲ説明ス可シ

(第一) 商法第千三十八條及ヒ第千三十九條ノ規定ヲ踐行セザルトキ

破産法(附家賃分散法)

本論 協諧契約 協諧契約ノ棄却

第一千三十八條ニ依レハ協諧契約ハ第一債權者集會ニ於テ提供ス可キモノニシテ且ツ其申立書ハ少クトモ集會ノ二十日前ニ裁判所ニ差出ス可キコトヲ規定セリ故ニ十分ノ理由ナキニ拘ハラズ此規定ニ依ラザリシトキハ債權者集會ノ承諾ヲ得タルトキト雖モ破産裁判所ハ之ヲ棄却ス可キモノトス又第一千三十九條ノ規定ハ特別決議ニ必要ナル議決方法タルカ故ニ此規定ヲ踐行セザルトキハ債權者集會ノ承諾ヲ得タルモノト云フ可カラズ故ニ破産裁判所ハ之ヲ認可ス可キ限ニ在ラサルナリ

(第二) 協諧契約ニ依リ或債權者カ其承諾ナクシテ偏頗ノ處置ヲ受ケ損害ヲ被フルトキ

既ニ述ヘタルカ如ク法律ハ協諧契約ノ承諾ニハ頗ル慎重ナル決議方法ヲ履踐セシムルモ尙ホ總債權ノ四分ノ一ニ該當スル債權者ノ同意ヲ經サルコトアルハ免カル可カラサル所ナリ斯ル場合ニ於テハ多數多額ノ債權者カ少數少額ノ債權者ノ利害ヲ顧ミスシテ擅ニ不當ノ決議ヲ爲スコトナント云フ可カラズ是レ畢竟一部債權者ノ權利ヲ蹂躪スルモノナルカ故ニ裁判所ハ亦其協諧契約ヲ

棄却セサル可カラズ

(第三) 協諧契約カ詐欺其他不正ノ方法ヲ以テ成リタルトキ

協諧契約ハ前ニ述ヘタルカ如ク信用アル債務者ニ對シ債務者カ其債權者ノ財産及ヒ負債ノ現況ヲ審査シタル上營業ヲ繼續スシムルコトヲ利益ト認メタルトキニ締結スルモノナリ然ルニ破産者ノ狡黠ナル從來自己ノ行ヒタル營業上ニ付キ虚偽ノ陳述若クハ記載ヲ爲シ實際有セザル財産ヲ恰モ有スルカ如ク假裝シ又ハ負擔スル債務ヲ隠蔽シ若クハ殊更ニ之ヲ増減スルノ行爲ヲ爲シ又或ハ債權者ニ賄賂ヲ贈リテ多數債權者ノ同意ヲ得ルカ如キ非行ヲ爲スコトアリ斯ル場合ハ全ク詐欺ニ因リテ協諧契約ヲ承諾セシメタルモノニシテ實ニ法律カ此契約ヲ認許スルノ精神ニ背馳スルモノナリ故ニ此場合ニ於テハ破産裁判所ハ其契約ヲ棄却セサル可カラズ加之若シ此理由ニシテ存在セシ平協諧契約ノ認可アリタル後ニ於テモ尙ホ之ニ對シテ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘク破産裁判所モ亦此申立ニ因リ其認可ヲ取消サル可カラズ(商法第千四十)

(第四) 協諧契約カ公益ニ觸ル、トキ

破産法(附家資分教法) 本論 協諧契約 協諧契約ノ棄却

協諧契約カ締結セラル、モ到底債務者之ヲ履行スルノ望ナキトキ又ハ其債務者ハ不注意ノ爲メ既ニ數回破産ノ宣告ヲ受ケタルカ或ハ又破産者ニ有罪行爲ノ疑アルカ如キ協諧契約ヲ許スハ公益ヲ害スルノ恐アル場合ナキニ非ス斯ル場合ニ於テハ債權者ハ或ハ此等ノ事情ヲ知ラサルカ爲メ又ハ事情ヲ知ルモ破産手續ヲ繼續スルノ煩累ヲ避ケンカ爲メ協諧契約ヲ承諾シタルニ拘ハラズ破産裁判所ハ公益上之ヲ棄却ス可キモノトス

協諧契約ノ停止及消滅

第五節 協諧契約ノ停止及消滅

協諧契約ハ裁判所ノ認可アレハ茲ニ確定スルモノトス然レトモ其確定後ニ至リ破産者カ有罪破産ノ行爲アリトシテ起訴セラレタルトキハ免訴又ハ無罪ノ宣告カ確定スルマテ其執行ヲ停止スルモノニシテ破産者ノ財産ハ依然破産管財人ノ占有管理ニ屬ス又若シ審問ノ末有罪破産ノ宣告ヲ受ケ其判決確定シタルトキハ協諧契約ハ當然消滅ニ歸スルヲ以テ直チニ破産手續ヲ再施セサル可カラズ是レ我商法第千四十二條第一項ノ規定スル所ナリ而シテ同條中ノ判決及ヒ宣告ト云フ文字ハ勿論確定シタルモノヲ意味スルモノト解セサル可カラズ

協諧契約ノ効果

第六節 協諧契約ノ効果

協諧契約カ裁判所ニ於テ認可セラレタル後之ニ對シテ抗告ヲ爲ス者ナキカ又ハ抗告ヲ爲シタルモ其抗告カ棄却セラレタルトキハ協諧契約ハ茲ニ確定スルニ至ルコト勿論ナリ而シテ協諧契約ナルモノハ既ニ前ニ説述セルカ如ク破産者ニ其財産ノ管理、處分ノ權ヲ回復セシムルヲ目的トスルモノナルカ故ニ此契約ニシテ確定ナルトキハ破産手續ハ茲ニ終了スルモノナリ從テ破産管財人ハ直チニ執務ヲ止メテ其日マテノ執務ニ付キ計算ヲ爲サ、ル可カラズ(商法第千四十二條第一項)協諧契約ノ目的ハ前述セルカ如ク破産者ニ財産權ヲ回復セシムルニ在ルカ故ニ若シ其契約ニ特別ノ條件ヲ定メサルトキハ破産者ハ其財産ヲ任意ニ管理及ヒ處分スルコトヲ得ルニ至リ破産管財人ハ其財産ヲ引渡サ、ル可カラサルナリ然レトモ協諧契約ノ條件トシテ破産者ノ財産ノ管理、處分ニ付キ特ニ監督者ヲ置キタル場合又ハ其管理、處分ノ行爲ニ付キ或制限ヲ設ケタルカ如キ場合ニ於テハ破産者ハ其條件ニ從テノミ財産ヲ管理、處分スルコトヲ得ルナリ(商法第千四十二條第二項)然レトモ破産管財人ノ職務ハ協諧契約ノ確定ト共ニ終了スルカ故ニ若シ其後ニ至ルモ、

破産法(附家資分散法)

本論 協諧契約ノ停止及消滅 協諧契約ノ効果

尙ホ管財人ヲシテ破産者ノ財産ノ管理若クハ處分ニ與ラシメントスルコトアルモ是レ破産管財人ノ資格ニ於テ爲ス可キモノニ非サルカ故ニ管財人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ルナリ又之ヲ拒マサル場合ニ於テモ法律上ノ管財人ノ職務トシテ爲スモノニ非スシテ唯普通一個人トシテ破産者及ヒ債權者ノ委任ニ因リ之ヲ爲スモノナリ

協諧契約ニシテ確定スルトキハ破産者ハ其契約ノ條項ヲ履行ス可キコト勿論ナリ然ルニ若シ之ヲ履行セザルトキハ一般ノ雙務契約ニ於テ義務者カ義務ヲ怠リタル場合ト同シク其契約ハ解除セラルモノトス故ニ協諧契約ニ於テ各債權者ニ何割宛ニ支拂フコトヲ約シ又ハ年賦ヲ以テ支拂フコトヲ約シ又ハ何年ノ後ニ支拂フ可キコトヲ約スル等ノ場合ニ於テハ債權者ハ嚴密ニ之ヲ履行スルコトヲ勉メサル可カラス而シテ協諧契約ナルモノハ裁判所ニ於テモ相當ト認メテ認可シタルモノナルニ拘ハラス後ニ債務者ニ於テ之ヲ履行セザルカ如キコトアルトキハ經濟社會ノ秩序ト信用トヲ傷クルモノト謂ハサル可カラス從テ之ヲ履行セシムルコト一般ノ利益ノ爲メ大ニ必要ナルニ因リ我商法ニ於テハ協諧契約ノ履

行ハ破産主任官之ヲ監督スルモノトセリ(商法第千四百三條第三項)

第七節 破産手續ノ再施

破産手續ノ再施

商法第千四百四條ノ規定ニ依レハ協諧契約ニ因リテ破産手續ヲ中止シタル後之ヲ再施ス可キ場合三個アリ即チ左ノ如シ

(第一) 協諧契約ノ棄却セラレタルトキ

此場合ハ既ニ前述セル裁判所カ協諧契約ニ認可ヲ與ヘサル場合ナリ

(第二) 協諧契約カ後ニ至リ消滅シ若クハ取消サレタルトキ

協諧契約ノ消滅スルハ是レ亦前述セルカ如ク破産者カ後ニ至リ有罪破産ノ刑ニ處セラレタルトキナリ又其取消サルハ詐欺其他不正ノ方法ニ因リテ債權者集會ノ承諾ヲ得タルトキナリ

(第三) 協諧契約ノ解除セラレタルトキ

是レ亦既ニ前述セルカ如ク破産者ニ於テ協諧契約上ノ義務ヲ履行セザル場合ニ起ルモノナリ

以上三個ノ場合ハ我商法ニ於テ破産手續ノ再施ヲ爲ス可キモノト定メラレタリ

其中第二及ヒ第三ニ就テハ別段ノ講説ヲ要スルモノナシ然レトモ第一ノ場合ニ就テハ頗ル疑義ノ存スルモノアリ即チ未ダ協諧契約ノ認可ヲ得サル前ニ破産手續ヲ中止スルコトアルヤ否ノコト是ナリ第二及ヒ第三ノ場合ハ協諧契約ノ確定後ニ其原因發生スルモノナルカ故ニ一旦終了シタル破産手續ヲ再施スルニ至ルハ勿論ノコトナリト雖モ第一ノ場合ハ協諧契約ノ棄却セラレタル場合ナルカ故ニ協諧契約ノ未ダ初ヨリ其効ヲ生セサルトキナリ而シテ未ダ其効ヲ生セサル協諧契約ノ破産手續ヲ終了スルモノニ非サルハ多言ヲ要セスシテ明カナル所ナリト信ス又手續ノ終了ナキ上ハ之カ再施ト云フコトアル可キニ非ス佛蘭西商法(第五百二十)白耳義商法(第五百二)等ニ於テハ我商法第千四十四條ニ掲ケル所ノ第二及ヒ第三ニ就テノ規定アリト雖モ其第一ノ場合ニ就テハ何等ノ規定アラサルナリ或ハ我立法者ハ協諧契約カ債權者集會ニ於テ承諾セラレタルトキハ破産手續ハ茲ニ中止セラル可キモノト思考セルヤモ知ル可カラスト雖モ別ニ明文ノ規定ナキナリ以テ此場合ニ於テ當然破産手續ヲ中止スルモノト謂フコトヲ得ス勿論協諧契約ノ提供アリタルトキハ管財人カ管理處分ヲ爲スニ當リ直チニ總テノ財産ヲ

換價スルカ如キコト之ナカル可シト雖モ之カ爲メニ破産手續ハ中止セラレタリト謂フコトヲ得ス何トナレハ協諧契約ノ提供アリタルヨリ其確定ニ至ルマテノ手續ハ尙ホ破産手續タルニ外ナラサレハナリ然ラハ我商法第千四十四條ニ協諧契約ノ棄却セラレタル場合ヲ破産手續再施ノ場合ト爲シタルハ其當ヲ得タルモノト云フヲ得サル可シ

破産手續ヲ再施スル場合ニ於テハ協諧契約ヲ提供スル以前ニ債權者タリシ者ハ勿論破産手續再施マテノ間ニ債權者ト爲リタル者モ亦其手續ニ参加スルコトヲ得ルナリ(商法第千四十四條第一項後段)其理由如何ト云フニ協諧契約ノ確定ハ破産手續ノ終了ナルカ故ニ之ヲ再施スルハ恰モ新ニ破産ヲ宣告セラルト同一ナリ從テ前手續ノ終了ヨリ再施ニ至ルマテノ間ニ債權ヲ得タル者ハ破産宣告以前ニ債權ヲ得タル者ト同一ニ看做サル可ケレハナリ

破産者カ協諧契約ヲ提供スルニ方リ其親戚若クハ知己カ債權者集會ニ於テ協諧契約ヲ承諾スルトキハ自カラ保證人トナリテ其契約ノ履行ヲ擔保スル場合アリ此保證人ハ協諧契約カ不履行ニ因リテ解除セラレタルトキハ其義務ヲ免ル、コ、

トテ得ルヤ否ヤ破産手續ノ再施ハ更ニ債權者ヲシテ財團ニ對シテ要求ヲ爲サシムルモノナルカ故ニ總テノ關係ハ協諧契約締結以前ノ地位ニ復シ保證人ハ何等ノ義務ナキカ如シト雖モ其實決シテ然ラス元來此保證ハ協諧契約ノ不履行ノ場合ニ於テ立テラレタルモノナルカ故ニ不履行ニ因リテ契約ノ解除セラルル場合ニ於テ其義務ヲ免ル、モノトセハ毫モ保證ヲ立テタルノ効之ナキニ至ラソ然ラハ協諧契約カ後ニ至リ消滅シ若クハ取消サル、カ或ハ又裁判所ノ認可ヲ得ルコト能ハサルカ如キ場合ニハ保證人ノ義務ハ如何ト云フニ協諧契約棄却ノ場合ハ元來契約ノ成立セザリシ場合ナルヲ以テ保證人ノ義務モ亦發生スルコトナキハ勿論ナリ又其契約ノ取消若クハ消滅ノ場合ニ於テモ契約自體カ既ニ消滅スルモノナルヲ以テ從ハ主ニ從フトノ原則ニ因リテ保證人ハ何等ノ義務ナキニ至ルモノナリ(民法第四百四十四條第二項)

第八節 共同義務者ニ對スル協諧契約ノ効力

共同義務者ニ對スル協諧契約ノ効力

債權者カ二人以上ノ共同義務者即チ數人ノ連帶債務者ヲ有スル場合ニハ其各自ニ對シテ全額辨濟ノ請求權アルハ茲ニ喋々スルノ要ナキナリ從テ縱令一債務者ノ破産手續ニ於テ届出テタル債權ト雖モ未ダ支拂ヲ受ケサル以上ハ他ノ共同義務者ニ對シテ其全額ヲ請求スルコトヲ得ルハ是レ連帶義務ノ通則ヨリ來ル當然ノ結果ナリ然レトモ茲ニ一ノ疑問ヲ生スルハ破産手續ニ於テ協諧契約整ヒタル場合ニ他ノ共同義務者モ亦其利益ヲ受クルヲ得ルヤ否ヤ是ナリ換言セハ連帶義務者ノ一人カ破産シタル場合ニ其破産手續ニ於テ各債權ニ對シ五割ノ辨濟ヲ爲スコトニ協諧契約整ヒタリト假定セシニ此場合ニ於テハ其破産者ノ保證人其他連帶債務ヲ負フ債務者ニ對シテモ亦單ニ其債權ニ付キ五割ノ辨濟ヲ請求シ得ルニ過キナル乎又ハ債權全額辨濟ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルヤ商法第千三十條ノ規定ニ依レハ連帶義務者一人ノ破産ニ於テ協諧契約整フコトアルモ他ノ共同義務者ニ對シテハ尙ホ全額ノ辨濟ヲ請求スルコトヲ得ルモノトセリ此規定ニ對シテハ大ニ異議ヲ唱フル者アリ其根據ハ連帶義務ノ通則ニ依レハ連帶義務者ノ一人ニ爲シタル債務ノ免除ハ他ノ連帶債務者ノ利益ニ於テモ亦其効ヲ生スルモノナリ又連帶義務者ノ一人カ債權者ニ全部ノ辨濟ヲ爲シタルトキハ他ノ連帶義務者ニ對シテ其償還ヲ請求スルコトヲ得ルモノナリ然ルニ今協諧契約ノ場合ニ於テ

破産法(附家賃分散法)

本論 協諧契約 共同義務者ニ對スル協諧契約ノ効力

財團ニ對シテハ各々債權ノ五割ノミヲ請求ス可シト約シナカラ他ノ連帶義務者ニ對シテハ全部ヲ請求スルコトヲ得ルモノトスルハ連帶義務ノ通則ニ反セリ況ンヤ商法第千三十條末段ノ規定ニ依レハ他ノ連帶義務者ハ財團ヨリ支拂ハサリシ部分ニ付キ更ニ財團ニ對シテ償還請求ヲ爲スコトヲ得サルニ於テヤト云フニ在リ此議論ハ一應理アルカ如シト雖モ之ヲ熟考スルトキハ決シテ商法ノ規定ヲ非難スルニ足ラサルモノナリ協諾契約ハ債權ノ一部ヲ拋棄スルモノ、如ク見ユルモ其實單ニ財團ニ對シテ一部ノ請求權ヲ拋棄スルモノニシテ債務者ニ免除ヲ與ヘタルモノトハ大ニ其趣ヲ異ニスルナリ勿論協諾契約整ヒタルトキハ其契約ニ於テ債權者ノ拋棄シタル部分ハ債務者ニ對シテ請求スルコトヲ得スト雖モ而モ債務者ハ普通ノ免除ノ如ク全然其債務ヲ免ル、モノニ非ス故ニ債務者カ復權ヲ得ントスルニハ協諾契約ノ整ヒタル場合ニ於テモ尙ホ元金及ヒ利息ノ全額ヲ支拂フニ非サレハ總テノ義務ヲ果シタルモノト謂フコトヲ得スシテ之ヲ皆濟シタル後ニ至リ始メテ復權ヲ得ルモノナリ由是觀之協諾契約ニ於テ請求ノ一部ヲ拋棄スルハ法律上恰モ債務者ノ財產ヲ盡シテ尙ホ辨濟ヲ得サリシモノト同一ニ看

做サル、ナリ即チ權利ハ依然權利トシテ存スルモ破産者ニ此權利ニ對シ辨濟ヲ爲スノ資力ナキヲ以テ之ヲ行使スルコトヲ得サルモノタルニ過キス斯ノ如キ理由アル上ハ協諾契約ノ整ヒタル場合ニ於テモ他ノ連帶義務者ニ對シテハ債權全額ノ辨濟ヲ請求スルヲ得セシムルコト決シテ連帶義務ノ通則ニ反スルモノト謂フ可キニ非ス

連帶義務者ノ一人カ債務ノ全額ヲ辨濟シタル場合ニ他ノ共同義務者ニ對シテ其負擔部分ノ償還ヲ請求スルヲ得ルノ規則ハ破産手續ニ於テモ尙ホ適用セラル、所ナリ故ニ主タル債務者カ破産シタル場合ニ於テ保證人カ債務ノ全額ヲ辨濟シタルトキハ保證人ハ財團ニ對シテ其償還ヲ請求スルコトヲ得又連帶義務者ノ總員カ各幾分ノ義務ヲ負擔スル場合ニ於テ其義務者中ノ一人カ全額ノ辨濟ヲ爲シタルトキハ他ノ破産宣告ヲ受ケタル共同義務者ニ對シテ其負擔部分ノ償還請求ヲ爲スコトヲ得ルモノトス然レトモ協諾契約ノ整ヒタルトキハ此通則ヲ適用スルヲ得ス例ヘハ主タル債務者カ破産シタル場合ニ其保證人カ債務ノ全額ヲ支拂ヒタルトキハ更ニ財團ニ對シテ償還請求ヲ爲スコトヲ得レトモ若シ其主タル債

務者ノ破産手續ニ於テ各債權ニ對シ五割ノ支拂ヲ爲スモノトシテ協諧契約整ヒタルニ因リ債權者ハ財團ヨリ五割ヲ受取リタル後保證人ニ對シテ殘額五割ノ請求ヲ爲シ保證人ニ於テ之ヲ辨濟シタリトスルモ保證人ハ其辨濟シタルモノニ付キ財團ニ對シテ償還請求ヲ爲スコトヲ得ス約言スレハ此場合ニ於テハ保證人モ亦協諧契約ノ効果ニ從ハサル可カラサルナリ今其理由如何ト云フニ協諧契約ニ於テ各債權ニ對シ五割宛ニ支拂フ可キコトヲ約シタルニ拘ハラヌ保證人モ亦自己ノ支拂ヒタル部分ニ付テ償還請求ヲ爲スコトヲ得ルモノトセハ財團ヨリハ其債權ニ對シ全額及ヒ五割ノ割合例ハ百圓ノ債權ニ對シテ百五十圓ノ割合ヲ以テ辨濟ヲ爲サ、ル可カラサルコト、ナル可シ斯ノ如キハ協諧契約ノ趣旨ト相容レサルモノナリ又他ノ點ヨリ考察スルモ此場合ニ於ケル保證人ノ權利ハ債權者ノ權利ニ代位スルモノナルヲ以テ債權者ハ財團ニ對シテ殘餘ノ五割ヲ請求スルコトヲ得サルモノト爲シタル以上ハ之ヲ支拂ヒタル保證人モ亦財團ニ對シテ償還請求ヲ爲スヲ得サルコト至當アリ而シテ是レ皆協諧契約ヲ締結シタル趣旨ヨリ來ル所ノ結果ナリ(商法第千三十一條後段)

配當

第八章 配當

第一節 一般ノ配當

一般ノ配當

配當ハ破産手續最終ノ目的ナリ而シテ此配當ハ素ヨリ金錢ヲ以テ爲スモノナルカ故ニ總テノ財團ヲ換價シタル後之ヲ爲ス至當トス然レトモ若シ財團ニ屬スル財産多數ナルトキハ數回ニ配當ヲ爲スヲ妨ケス此等ノ詳細ハ姑ク後ニ譲リ茲ニハ唯々一般ノ配當方法ヲ講述セン

配當ヲ爲スニ方リテハ先ツ第一ニ破産手續上ノ費用ヲ支拂ハサル可カラス此費用中ニハ裁判費用管理費用其他管財人ノ報酬破産者ノ報酬等ヲ含有ス(商法第千三十二條)又公ノ手数料及ヒ諸稅(同條)並ニ管財人カ財團ノ爲メニ負擔シタル義務ヨリ生スル債權(同條)ヲモ支拂ハサル可カラス加之破産者ノ財産ニ對シテ優先權ヲ有スル者アルトキハ其優先權ノ存スル財産ヨリシテ先ツ其債權者ニ支拂ヲ爲ス可キモノトス此優先權アル債權者トハ如何ナル者ナリヤ又其順序如何ト云フカ如キコトハ實體法ノ規定ニ依リテ確定スルモノナリ此等ノ債權者ニ支拂ヲ爲シタル後尙ホ殘額アルトキハ他ノ一般債權者ニ平等ノ割合ヲ以テ之ヲ配當スルモノト

破産法(附家賃分設法)

本論 配當 一般ノ配當

ス(商法第一千四十)即チ其債權ノ原因及體様等ニ拘ハラズ總テノ債權類ニ割當テ、配當ヲ爲スナリ此平等ノ配當ナルモノハ破産法ノ大目的トスル所ニマテ之ヲ爲スカ爲メニ前ニ説述セル所ノ辨濟期限ノ到達強制執行ノ禁止其他種々ノ規定ヲ生スルニ至レルナリ

第二節 各營業ノ債權者ニ對スル配當

商法第一千四十五條第二項ノ規定ニ依レハ破産者カ資本ヲ分テ數個ノ營業ヲ爲シタル場合ニハ各營業ニ對スル債權者ハ其營業ニ屬スル財團ヨリ優先權ヲ以テ辨濟ヲ受クルコトヲ得ルモノトセリ是レ破産者カ資本ヲ分テ數個ノ營業ヲ爲ス場合ニハ各營業ニ對スル債權者ハ主トシテ其營業ノ資本ヲ目的トシテ取引ヲ爲スモノナルカ故ニ從テ又各其營業ニ屬スル財團ヨリ優先ノ辨濟ヲ受ケシムルコト適當ナリト云フニ在リ此規定ノ結果トシテ各營業ニ屬スル財團ハ其營業ニ對スル總テノ債權者ニ辨濟ヲ爲シタル後ニ非サレハ之ヲ他ノ債務ノ辨濟ニ充ツルコトヲ得サルナリ立法論トシテ思考スルトキハ是レ亦一理アルモノナルコト疑ナシト雖モ斯ノ如キ規定ヲ設ケントセハ資本ヲ分テ營業ヲ爲ス場合ニ就テ更

各營業ノ債權者ニ對スル配當

ニ幾多ノ規定ヲ要ス可キモノト信ス即チ一ノ營業ニ於ケル資本ヲ登記公告シテ他ノ營業上及ヒ一身上ノ經濟トハ全ク獨立ト爲スカ如キ場合ニ於テハ斯ル規定ハ素ヨリ適當ナルモノナリ然レトモ資本ヲ分ツコトニ就キテハ我商法上何等公示ノ方法ヲモ定ムルコトナクシテ單ニ債務者ノ内部ニ於テ資本ヲ分テタルトキハ各營業ニ對スル債權者ハ其營業ニ屬スル財團ヨリ優先ノ辨濟ヲ受クルモノト爲スカ如キハ其結果債權者中偶然ノ利益ヲ得ル者ト意外ノ損失ヲ受クル者トト生シ經濟社會ハ之カ爲メニ却テ危險ヲ感スルニ至ル可シ故ニ今日ノ如ク他ニ資本ヲ分テテ營業ヲ爲スコトニ就キテ何等ノ規定ヲ爲サズ單ニ破産法ニ於テノミ斯ノ如キ規定ヲ設クルハ未ダ其適當ナルチ知ラサルナリ

商法第一千四十五條第二項ノ規定ニ因ル營業ニ對スル債權者ノ優先權ハ配當ニ付テノミノ優先權ナリ換言スレハ各營業ニ就テ各別ノ破産宣告アリタルトキノ如ク其營業ニ屬スル財團ヲ管理換價シ之ヨリ其營業ニ對スル債權者ニ他ノ一般債權者ニ優先シテ配當ヲ得セシムルト云フニ過キス故ニ此債權者ハ民法及ヒ商法上先取特權其他ノ優先權ヲ有スル債權者ノ如ク破産宣告後ト雖モ尙ホ強制執行

破産法(附家資分假法)

本論 配當 各營業ノ債權者ニ對スル配當

ヲ繼續スルノ權利若クハ後ニ述フル所ノ別除辨償ノ權利ヲ有スルモノニ非ス後
テ其營業ニ對スル總テノ債權者ハ第千四十五條ノ通則ニ從ヒ配當ヲ受ク可キモ
ノナリ

共同義務者ヲ有スル債權者ニ對スル配當

第三節 共同義務者ヲ有スル債權者ニ對スル配當

共同義務者ノ一人カ破産シタル場合ニ其債權者カ債權ノ全額ヲ以テ配當ニ加入
スルコトヲ得ルハ毫モ疑ナキ點ナリ然レトモ二人以上ノ共同義務者カ共ニ破産
シタル場合ニ其各財團ニ對シ幾何ノ金額ヲ以テ配當ニ加入ス可キヤハ大ニ研究
ヲ要スル問題ナリトス此點ニ關シ我商法第千三十一條ノ定ムル所ニ依レハ既ニ
講述セシカ如ク債權者ハ各義務者ノ財團ニ對シテ債權ノ金額ヲ届出ツルコトヲ
得ルモノナルカ故ニ其結果タル各義務者ノ財團ヨリ各全額ニ對スル配當ヲ受ク
ルコト、ナルナリ例ヘハ甲乙二人ノ共同義務者ニ對シテ千圓ノ債權ヲ有スル場
合ニ甲乙共ニ破産シタルトキハ甲ノ財團ヨリモ千圓ニ對スル配當ヲ受クルコト
ヲ得乙ノ財團ヨリモ千圓ニ對スル配當ヲ受クルコトヲ得而シテ其一ノ財團ノ配
當カ他ノ財團ノ配當ト同時ナルト又其時ヲ異ニスルトキ問ハサルナリ尙ホ詳言

スレハ甲ノ財團ヨリ千圓ニ對シテ既ニ五百圓ノ配當ヲ受領シタル後乙ノ財團ヨ
リ配當ヲ受クルモ甲ノ財團ヨリ配當ヲ受領セル殘額五百圓ニ相當スル配當ヲ受
クルニ非スシテ尙ホ千圓ノ債權者トシテ全額ニ對スル配當ヲ受クルモノトス故
ニ乙ノ財團ヨリ各債權者ニ爲ス配當ノ割合カ債權額ノ三割若クハ五割ナルトキ
ハ千圓ニ對シテ三百圓若クハ五百圓ノ配當ヲ受クルコトヲ得ルナリ

此商法第千三十一條ノ規定ハ佛蘭西商法第五百四十二條、白耳義商法第五百三十
七條ト同一ナリ而シテ我新民法第四百四十一條ニ於テモ連帶債務者一同又ハ其
中ノ數人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ債權者ハ其債權ノ全額ニ付キ各財團ノ
配當ニ加入スルコトヲ得トアリテ別ニ之ヲ制限スルノ法文アルヲ見ザルカ故ニ
亦現行商法ノ規定ト同一ナルモノト謂ハサル可カラス之ニ反シ舊民法債權擔保
編第六十九條ニハ何等ノ辨濟モ有ラサル前ニ總テノ連帶債務者又ハ其中ノ數人
ノ無資力ト爲リタル場合ニ於テ債權者ハ其債權ノ全額ニ付キ各清算ニ加ハルコ
トヲ得(第一項)然レトモ債權者カ清算ノ一ニ於テ配當金ヲ受取リタルトキハ他ノ清
算ニ於テ其債權ノ全額ニ從ヒ債權者ニ充テタル新配當金ハ以前ノ配當ニ於テ未

破産法(附家資分散法)

本論

配當

共同義務者ヲ有スル債權者ニ對スル配當

ヲ受取ラサルモノ、割合ニ應スルニ非サレハ債權者之ヲ受取ルコトヲ得ス(項二)
 トアリ此規定ニ依レハ前例ニ於テ千圓ノ債權ニ對シ甲ノ財團ヨリ五百圓ノ配當
 ナ受領セルトキハ乙ノ財團ヨリハ殘額五百圓ニ對スル配當ノミヲ受取ルコトヲ
 得從テ乙ノ財團ヨリ各債權者ニ爲ス割合カ債權額ノ三割若クハ五割ナルトキハ
 債權者ハ百五十圓若クハ二百五十圓ノミヲ受取ルコトヲ得ルナリ此規定タル起
 稿者ホアソナード氏カ佛國商法第五百四十二條ヲ非ナリトシ故ラコ之ヲ變更シ
 タルコ出テタルモノダリ商法ノ起稿者ロエスレル氏ハ其草案說明ニ於テ別コ此
 ホアソナード氏ノ意見ヲ排斥ス可キ理由ヲ示サス單ニ佛蘭西、白耳義等ノ商法ニ
 倣ヒテ此商法第一千三十一條ノ規定ヲ設ケタルカ如シ然レトモ新民法起稿者ハ勿
 論舊民法債權擔保編ノ規定ヲ排斥シテ其第四百四十一條ヲ設クルニ至リタルモ
 ノナラン

共同義務者カ共ニ破産シタル場合ニ債權者カ各財團ヨリ受取ル可キ割合ヲ如何
 コス可キヤハ學者間ニ議論アル問題タルコト上述セル所ニ由リテ明カナル事實
 ナリ然レトモ我國ニ於テハ商法ノ規定ト新民法ノ規定ト相一致スルカ故ニ今日

及ヒ將來ニ於テモ此場合ニ於テハ債權者ハ各財團ヨリ全額ニ對スル配當ヲ受ク
 ルコトヲ得ルモノトス然レトモ今立法論トシテ之ヲ思考スルトキハホアソナード
 氏ノ意見モ亦頗ル理由アルモノタルヲ感ス何トナレハ既ニ一ノ財團ヨリ債權
 ニ對スル一部ノ配當ヲ受ケタル債權者ハ他ノ財團ニ對シテハ未ダ受取ラサル部
 分ニ付テノミ請求スルノ權利アルコト當然ニシテ既ニ受取リタル部分ニ付テモ
 尙ホ請求權アル可キ理ナケレハナリ若シ先ツ共同義務者ノ一人カ破産シタル場
 合ナルトキハ其財團ヨリ受取ラザリシ部分ニ付テノミ他ノ債權者カ後ニ破産シ
 タル場合ニ其財團ニ對シテ請求スルコトヲ得ルハ何人モ疑團ヲ抱カサル所ナリ
 然ラハ二人以上ノ債權者カ共ニ破産シタル場合ニ於テモ既ニ一ノ財團ヨリ一部
 ノ配當ヲ受取リタル以上ハ他ノ財團ヨリハ其殘額ニ應シテノミ配當ヲ受クルコ
 ト至當ナルニ非スヤ或ハ商法及ヒ新民法ノ規定ヲ以テ舊民法債權擔保編ノ規定
 ニ優ルモノトシテ曰ク負債ノ償却ニ就テハ可成的債權者ニ多額ノ支拂ヲ爲スチ
 以テ法律上ノ原則ト爲サ、ル可カラス而シテ商法第一千三十一條及ヒ新民法第四
 百四十一條ノ規定ハ實ニ此原則ニ適フモノナリ何トナレハ總テノ財團ヨリ全額

ニ對スル配當ヲ受クルカ故ニ一ノ財團ヨリ受取ラザリシ部分ニ付テノミ他ノ財團ヨリ配當ヲ受クルヨリハ債權者ノ受領スル所多ケレハナリ例ハ千圓ノ債權ニ對シテ甲ノ財團ヨリハ五割ノ配當ヲ爲シタル場合ニ乙ノ財團ヨリモ五割ノ配當ヲ爲ストキハ其債權者ハ全額千圓ノ辨濟ヲ受クルコトヲ得ヘシ然ルニ舊民法於ケル規定ノ如クスルトキハ甲ノ財團ヨリ五割ノ配當ヲ爲シタルトキハ乙ノ財團ヨリハ甲ノ財團ヨリ受取ラザリシ殘額五百圓ニ對スル配當ノミヲ受ク可キカ故ニ乙ノ財團ヨリ五割ノ配當ヲ爲スニ方リ僅ニ二百五十圓ヲ受取ル可ク債權者ハ結局七百五十圓ヲ受取リテ二百五十圓ヲ損失スルニ至ル斯ノ如キハ可成的多額ノ支拂ヲ爲ストキハ原則ニ反スルモノナリト然リ債權者ニ可成的多額ノ支拂ヲ爲スハ法律上ノ原則タルニ相違ナシ而シテ多數ノ債權者アル場合ニ於テハ其總テノ債權者ニ可成的多額ノ支拂ヲ爲ス可キモノナリ單ニ一部ノ債權者ニノミ多額ノ支拂ヲ爲シテ他ノ債權者ノ配當額ヲ減却スルカ如キハ所謂可成的多額ノ支拂ヲ爲スノ原則ニ反スルモノナリ商法第三十一條ノ規定ニ依レハ共同義務者ヲ有スル債權者ハ多額ノ支拂ヲ受クルニ相違ナント雖モ之カ爲メ他ノ債權者ニ

對スル配當額ヲ減却スルコト疑フ可キニ非ス然ラハ舊民法債權擔保編ノ第六十九條ノ規定ノ如クスルトキハ其結果債權者カ共同義務者ヲ有スルノ利益ヲ失ハシムルモノナリヤト云フニ余ハ決シテ其然ラサルヲ信ス何トナレハ前例ニ於テ債權者カ若シ甲一人ノミヲ債務者ト爲シタルトキハ千圓ノ債權ニ對シテ單ニ五百圓ヲ受取ルニ過キサレ可キニ乙ヲモ連帶債務者ト爲シタルカ爲メ更ニ二百五十圓ノ配當ヲ受クルコトヲ得タリ其結果二人以上ノ共同義務者カ漸次ニ破産シタル場合ト全ク同一ナレハ之カ爲メニ共同義務者ヲ有スル利益ヲ失ハシムルモノト謂フ可カラサレハナリ

前述セルカ如ク我商法ノ規定ニ依レハ二人以上ノ共同義務者カ共ニ破産シタルトキハ債權者ハ各自ノ財團ヨリ債權ノ全額ニ付テノ配當ヲ受クルコトヲ得ヘシ然ルニ其共同義務者間ノ關係ハ前例ニ於ケル甲ハ主タル債務者ニシテ乙ハ其保證人タルニ過キサレカ或ハ甲ハ七分ノ債務ヲ負擔シ乙ハ三分ノ債務ヲ負擔ス可キ場合ナリシトセン乎甲ノ財團ヨリハ全額ニ對シテ五割ノ配當ヲ爲シ乙ノ財團ヨリモ亦全額ニ對シ五割ノ配當ヲ爲シタルトキハ乙ノ財團ヨリハ甲乙ノ關係上

破産法(附家賃(分數法))

本論 配當 共同義務者ヲ有スル債權者ニ對スル配當

實際義務ナキモノヲ辨濟シ若シハ負擔外ノ部分ヲ配當セルモノト謂ハサル可カ
 ラス然ラハ其配當金額若シハ超過セル配當額ヲ更ニ甲ノ財團ニ對シテ償還ヲ要
 求シ得ルヤ此點ニ關シ商法第一千三十一條第二項前段ハ其要求權ナキコトヲ明言
 セリ今其理由如何ト云フニ甲ノ財團ニ於テハ既ニ千圓ノ債權金額ニ對スル配當
 額ヲ爲シタルカ故ニ更ニ乙ノ財團ヨリ辨償シタル五百圓若シハ二百圓ニ對シテ配
 當額ヲ爲スコト、セハ千圓ノ債權ニ對シテ千五百圓若シハ千二百圓ノ債權ト同一
 ノ配當額ヲ爲スコト、ナル可シ斯ノ如キハ各債權者ニ平等ノ配當額ヲ爲スコト云フノ
 原則ニ抵觸スルモノナリ故ニ一般債權者ノ利益ヲ保護センカ爲メ一ノ財團ヨリ
 他ノ財團ニ對スル償還請求ヲ許サ、ルナリ

我商法ハ共同義務者ヲ有スル債權者ハ各財團ヨリ金額ノ配當額ヲ受クルコトヲ得
 ルモノト爲セルカ故ニ其結果トシテ總財團ノ配當額カ債權額ヲ超過スル場合ヲ
 生スルコトアリ例ヘハ甲ノ財團ヨリ六割ノ配當額ヲ爲シ乙ノ財團ヨリハ五割ノ配
 當額ヲ爲スカ如キ場合ニ於テハ千圓ノ債權ニ對シテ千百圓ノ配當額ヲ受クルコト、
 ナル可シ然ルニ債權者ハ如何ナル場合ニ於テモ自己ノ債權額ヨリ多クノ金額ヲ

利得スルコトヲ得サルモノナルカ故ニ殘額百圓ハ何レカノ財團ニ返還セサル可
 カラス然ラハ債權者ハ之ヲ何レノ財團ニ返還ス可キヤト云フニ我商法ハ之ニ答
 へテ償還請求權ヲ有スル財團ニ對シテ之ヲ返還ス可キモノトセリ(第一千三十一條)
 即チ破産手續ニ於テハ財團間ノ償還請求ヲ許サ、ルチ原則トスト雖モ總財團ノ
 配當額カ債權ノ總額ヲ超過スル金額アルトキハ其金額ハ一般ノ場合ニ於テ償還
 請求權ヲ有スル者ノ財團ニ屬スルモノトセルナリ

又我商法ニ於テハ債權總額ニ超過セル配當金ハ償還請求權ヲ有スル者ノ財團ニ
 歸スルコトノミチ規定スト雖モ縱令償還請求權ナキ場合ナルモ負擔ス可キ部分
 ヨリ多クテ配當シタルトキハ超過額ハ亦其財團ニ歸セシメサル可カラス例ヘハ
 千圓ノ債權ニ對シテ甲ハ七百圓乙ハ三百圓ヲ負擔ス可キ場合ニ甲ノ財團ノ配當
 ハ七割ニシテ乙ノ財團ノ配當ハ四割ナルトキハ亦千圓ノ債權ニ對シテ千百圓ノ
 配當アルコト、ナル可シ而シテ此場合ニ於テハ甲ノ財團ハ其負擔ス可キ部分ヲ
 悉ク支拂ヒタルモノナレハ乙ノ財團ハ甲ノ財團ニ對シテ償還請求ノ權利アルコト
 ナシト雖モ乙ノ財團ヨリハ其負擔以外ノ金額ヲ支拂ヒタルモノナルカ故ニ殘額

百圓ハ之ヲ乙ノ財團ニ歸セシメサル可カラス

配當ノ手

第四節 配當ノ手續

財團ノ配當ハ配當スルニ足ル金錢ヲ生シタル毎ニ之ヲ爲スモノナリ故ニ一ノ破産手續ニ於テ單ニ一回ナルコトアリ又數回ナルコトアリ而シテ其配當ヲ爲スハ普通ノ調査會ノ終リタル後ナリトス何トナレハ此會ニ於テ届出期間ニ届出テタル債權ヲ調査シ財團ヨリ支拂フ可キモノト否ラサルモノトヲ確定スルモノナルカ故ニ此會ノ終了以前ニハ配當ヲ爲シ得ヘキニ非サレハナリ又破産者カ僅少ノ財産ヲ所有スルニ過キサルトキハ其總テノ財産ヲ換價シタル後配當ヲ爲ス可キモ破産者カ多額ノ財産ヲ所有スル場合ニハ總テ之ヲ換價スルニハ長日月ヲ要スルカ故ニ從テ配當スルニ足ル金錢ヲ生スル毎ニ配當ヲ爲スモノトス

此配當ハ破産管財人ニ於テ配當案ヲ作り破産主任官ノ認可ヲ受ケタル後之ヲ爲スモノニシテ破産主任官ハ此配當案ニ署名シ公衆ノ展閱ニ供スルカ爲メニ之ヲ裁判所ニ備ヘ置キ且其旨ヲ公告スルモノトス此公告ニ依リ配當ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル者ハ配當案ニ相違ノ點ナキヤ否ヲ調査シ若シ之ニ對シテ異議アルト

キハ公告ノ日ヨリ十四日間ニ之ヲ裁判所ニ申立ルコトヲ得(商法第六十六條)此異議ノ申立ハ裁判所ニ於テ如何ニ之ヲ取扱フ可キヤニ付テハ我商法上何等ノ規定ヲ設ケルコトナシ故ニ此異議ノ申立ヲ受ケタル裁判所ハ之ニ對シテ如何ナル手續ヲ盡ス可キモノナリヤ又之ニ對シテハ決定ヲ以テ言渡ヲ爲ス可キカ將タ判決ヲ以テ言渡ヲ爲ス可キヤ等ノコトハ之ヲ知ルニ由ナシ然レトモ立法論トシテ考フルトキハ此異議ノ申立アリタルトキハ裁判所ニ於テ其異議ヲ申立テタル者及ヒ破産管財人ヲ召喚シ破産主任官ノ演述ヲ聽キタル上之ニ對シテ決定ヲ言渡シ其決定ニ對シテ不服ナル者ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得トスルカ如キ規定ヲ設クルノ至當ナルヲ信ス

公告セル配當案ニ對シテ異議ヲ申立ツル者ナキカ又ハ異議ノ申立アルモ既ニ落着シタルトキハ破産管財人ハ各債權者ヲシテ其債務證書ヲ提出セシメ之ニ毎回ノ支拂額ヲ記入シテ支拂ヲ爲スヲ通則トス然レトモ債務中ニハ當初ヨリ證書ナキモノアリ又當初ハ證書アリシモ後ニ至リ滅失スルコトモアルカ故ニ此等ノ事情ノ爲メ債權者カ債務證書ヲ提出スルコトヲ得サルトキハ破産管財人ハ破産主

破産法(附家賃分限法)

本論 配當 配當ノ手續

任官ノ許可ヲ得テ商法第千二十四條ニ依リテ作成セル債權表ニ基キ配當ヲ爲ス
コトヲ得而シテ債務證書ニ支拂額ヲ記入シテ支拂ヲ爲ス場合ト債權表ニ依リテ
支拂ヲ爲ス場合トヲ問ハス支拂ヲ受ケタル債權者ハ配當案ニ受取證ヲ記入スル
コトヲ要ス(商法第千四十七條)此手續ヲ要スル所以ハ破産手續ニ於ケル支拂ヲ確實ナラシ
メシカ爲メナリ

別除權

別除權ノ
性質及實行

第九章 別除權

第一節 別除權ノ性質及實行

破産手續ニ於テ債權者カ辨濟ヲ受クルハ上述セル配當手續ニ依ルヲ通則トス然
レトモ優先權ヲ有スル債權者ハ此普通ノ手續ニ依ラスシテ財團ヨリ辨濟ヲ受ク
ルコトヲ得即チ既ニ見タルカ如ク我商法第九百八十七條ニ依レハ普通ノ債權者
ハ破産宣告後ハ破産者ノ財産ニ對シテ強制執行ヲ爲スコトヲ得サレトモ優先權
ヲ有スル債權者ハ其特別擔保物ニ對シテ強制執行ヲ爲スコトヲ得又此強制執行
ノ手續ニ依ラサルモ既ニ見タル如ク商法第千四十五條第一項ノ規定ニ依レハ優
先權アル債權者ハ其特別擔保物ノ代價ヨリ優先ノ辨濟ヲ受クルコトヲ得ルナリ

斯ノ如ク優先權アル債權者ハ強制執行ニ依リ辨濟ヲ受クルコトヲ得ヘク又強制
執行ヲ爲サ、ルモ破産手續ノ終了スルマテノ間ニハ其特別擔保物ヨリ優先ノ辨
濟ヲ受クルコトヲ得レトモ強制執行ヲ爲スニハ民事訴訟法ニ依リ執行ヲ爲シ得
ル名義ナカル可カラズ又普通ノ破産手續ニ依ルトキハ辨濟ヲ受クルマテノ間長
日月ヲ待タサル可カラサルコトアリ然ルニ優先權アル債權者中ニモ強制執行ヲ
爲スノ名義ヲ有セサル者アリ又長日月間辨濟ヲ遅延セラル、カ爲メ大ニ迷惑ヲ
感スル者アリ斯ノ如キ場合ニ於テ其優先權ヲ有スル債權者ハ如何ナル手續ニ依
リテ辨濟ヲ受クルヤト云フニ我商法ノ規定ニ依レハ此債權者ハ管財人ニ對シテ
財團ヨリ其債務ヲ辨濟スルカ然ラサレハ其特別擔保物ヲ賣却シテ一般財團ニ係
ラス辨濟ヲ爲スコトヲ請求スルヲ得ルモノトス此規定ハ優先權ヲ有スル債
權ハ縱令破産手續ノ終了スルマテ辨濟ヲ猶豫スルモ究竟特別擔保物ノ價額ヨリ
優先ノ辨濟ヲ受クルモノナルヲ以テ先ツ此債權者ニ辨濟ヲ爲スコト一般財團ノ
利益ト爲ルモ決シテ其害ト爲ルコトナシト云フニ基因スルモノナリ而シテ優先
權アル債權者ノ此權利ハ一般財團ヨリ配當ヲ受クルノ手續ニ依ラス特別擔保物

破産法(附家資分設法)

本論 別除權 別除權ノ性質及實行

テ一般財團ヨリ別離シ之ヨリ辨濟ヲ受クルヲ以テ之ヲ名ツケテ別除權ト云フナ
 リ
 別除ノ辨償ヲ請求スル權利ハ破産者ノ財産ニ對シテ優先權ヲ有スル總テノ債權
 者ニ屬スルモノナリ故ニ民法上先取特權、質權、抵當權等ヲ有スル者ハ勿論商法及
 ヒ他ノ特別法ニ依リテ優先權ヲ有スル船舶債權者、國庫及ヒ地方自治體等モ亦皆
 法律ノ定ムル特別擔保物ニ對シテ別除ノ辨償ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス然
 レトモ此別除ノ辨償ハ財團ヨリ先ツ辨償ヲ受ケサルトキニ於テ爲スモノナルカ
 故ニ管財人ニ於テ其特別擔保物ヲ處分スルハ財團ノ爲メ不利益ト認メタルトキ
 ハ一般財團ヨリ此等ノ優先權アル債權者ニ辨償ヲ爲シ其擔保物ヲ賣却セサルコ
 トヲ得ルナリ(商法第九百九十七條)
 別除辨償ノ請求ハ特別擔保タル破産者ノ總テノ財産ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得
 ルモノナリ夫ノ民事訴訟法ニ依リ強制執行ノ爲メ差押フルコトヲ得サル物ノ如
 キハ普通之ヲ財團ニ加フルコトヲ得サルハ既ニ説述セルカ如クナルモ此等ノ物
 件ト雖モ或債權ノ特別擔保タル場合ニ於テハ其債權者ハ之ニ對シテ別除ノ辨償

ヲ請求スルコトヲ得其理由タル既ニ之ヲ債權者ノ特別擔保ニ供シタル以上ハ債
 務者自ラ法律ノ與ヘタル利益ヲ拋棄シタルモノナルヲ以テ法律モ亦之ヲ如何ト
 モスルコトヲ得サルニ在リ(商法第九百九十七條)
 別除辨償ノ請求權ハ優先權アル總テノ債權者ニ屬スルモノナリ從テ一ノ物件上
 ニ二个以上ノ優先權ヲ有スル債權者アルトキハ別除權ハ其各債權者ニ屬スルモ
 ノトス然レトモ此權利ハ單ニ特別擔保物ヲ一般財團ヨリ分離シテ之ヨリ辨償ヲ
 爲スコトヲ請求スルノ權利ニ過キササルヲ以テ此請求ヲ爲シタルカ爲メ優先權ノ
 順序ニ變更ヲ生スルコトナシ例ヘハ一ノ不動産上ニ甲乙二人ノ抵當債權者アリ
 ト假定シ甲カ一番抵當債權者アリ乙カ二番抵當債權者タルトキハ甲乙共ニ別除
 ノ辨償ヲ請求スルコトヲ得然レトモ乙カ別除辨償ノ請求ヲ爲シタルカ爲メ其特
 別擔保物ヲ賣却セラル、モ一番抵當債權者タル甲ニ對スル債務ヲ辨濟スルニ足
 ル金錢ヲ殘留シタル上ニ非サレハ乙ハ辨濟ヲ受クニコトヲ得ス之ヲ要スルニ優
 先權ノ順序ハ別除辨償ノ請求ニ因リテ變更ヲ生スルモノニ非サルナリ
 然ラハ優先權アル債權者間ノ順序如何及ヒ優先權ヲ有スル者ハ何人ナリヤト云

フニ此問題タル實體法ノ規定ニ依ル可キモノニシテ破産法ノ關スル所ニ非ス(第九百九十八條)又特別擔保物ヲ賣却シタル上其代價カ費用、利息及ヒ元金ノ全部ヲ支拂フニ足ラサルトキハ其何レヲ先ニ支拂フ可キヤト云フモ亦是レ實體法ノ規定ニ依ル可キモノナリ我商法草案起稿者ロエスレル氏ハ商法第九百九十七條ニ於テ優先權アル債權者ハ其擔保物ノ賣拂代金ヨリ費用、利息及ヒ元金ノ支拂ヲ受ケル爲メ別除辨償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ト規定セルカ故ニ此文字排列ノ順序ニ依リテ辨償ノ順序ヲモ定メタルモノナルカ如キコトヲ言ヘリ然レトモ語辭ノ排列ニ依リテ辨償ノ順序ヲ定メタルモノナリト言フカ如キハ決シテ許ス可キ解釋ニ非ス元來斯ノ如キハ破産法ニ於テ關係ス可キ事項ニ非スシテ第九百九十七條ニ規定スル所ハ單ニ債權者ハ債權全額ノ辨償ヲ受ケルカ爲メ別除辨償ノ請求權アルコトヲ定メタルニ過キサルナリ而シテ其賣却代金ノ中ヨリ第一ニ費用ヲ辨償シ第二ニ利息ヲ辨償シ最後ニ元金ニ及ホスカ如キハ實體法ニ於テ之ヲ規定スルモノトス(新民法第四百九十一條參照)

優先權アル債權者カ別除辨償ノ請求ヲ爲シ其特別擔保物ヲ賣却セシメタル場合

ニ其代金ヨリ債權全額ノ辨償ヲ受ケル能ハサルトキハ不足ノ部分ハ之ヲ如何ニス可キヤト云フニ此部分ニ付キテハ優先權ナキ債權者ト同シク財團ニ對シテ平等ノ配當ヲ要求スルコトヲ得ルモノトス(商法第九百九十九條)是レ亦實際法ノ規定ヨリ當然生スル結果ナリ蓋シ優先權アル債權者ト雖モ他ノ債權者ニ對シテ特別擔保物ヨリ優先ノ辨償ヲ受ケルノ權利ヲ有スルノミニシテ決シテ特別擔保物ノミヨリ辨償ヲ受ケ可キ性質ノモノニ非ス故ニ別除辨償ノ請求權ヲ行ヒタル場合ニモ特別擔保物ノ價額ヲ以テ辨償ヲ受ケルコトヲ得サリシ部分ニ付テハ普通債權者ト同等ノ地位ニ立テ財團ヨリ配當ヲ請求スルコトヲ得ルハ勿論ナリ

特別擔保物ノ賣却代金カ其債權者ニ辨償シテ尙ホ剩餘アルトキハ其剩餘金ハ勿論財團ニ歸スルモノナリト雖モ唯タ茲ニ一ノ注意ス可キハ此擔保物ノ買主ヨリ直ニ之ヲ財團ニ拂込ム可キコト(商法第九百九十七條)是ナリ即チ特別擔保物ノ買主ハ其買受代金ヲ債權者ニ支拂フコトヲ得ス又破産者ニ支拂フコトヲ得ス必ス之ヲ管財人ニ支拂ハサル可カラサルナリ若シ過テ之ヲ他人ニ拂渡ストキハ買主自ラ其責ニ任ス可キモノトス此事タル我商法ノ明文ヲ以テ規定スル所ニシテ一見甚

破産法(附家資分償法)

本論 別除權 別除權ノ性質及實行

買主ノ責任ヲ重クセルカ如シト雖モ其實決シテ然ラス蓋シ財團ニ屬スル物ヲ賣却スルハ管財人ノ職務タリ從テ其代金ハ之ヲ管財人ニ支拂フコト素ヨリ當然ノコトコシテ其代金ヲ以テ優先權アル債權者ニ辨濟スルニ足ルヤ否ハ買主ノ關係ス可キ所ニ非サレハナリ即チ買主カ其買受代金ヲ管財人ニ支拂ハサル可カラサルハ當ニ商法第九百九十七條末段ノ場合ノミナラス破産手續ノ總テノ場合ニ於テ斯ノ如ク爲サ、ル可カラス故ニ商法第九百九十七條末段ノ規定ハ之ヲ削除スルモ決シテ差闕ヲ生スルコトナシ

特別擔保物ノ賣却代金カ優先權アル債權者ニ辨濟シテ尙ホ剩餘アルトキ之ヲ財團ニ拂込ムコトハ民事訴訟法ニ依リ強制執行ノ爲メニ差押フルコトヲ得サル物ヲ賣却シタル場合ニモ尙ホ適用スルコトヲ得ルヤ否ヤ此等ノ物ハ其上ニ優先權ヲ設定セラレサル場合ニ於テハ勿論之ヲ財團ニ加フルコトヲ得サルモノナリ然レトモ既ニ其上ニ優先權ヲ設定セル以上ハ之ニ對シテ別除辨償ノ請求權ヲ生シ其結果トシテ之ヲ賣却セラル、コトアルハ到底免カレサル所タリ又既ニ其物件ニシテ賣却セラレタルトキハ法律カ其物件ヲ保護スルノ必要茲ニ消滅スルカ故

ニ其賣却代金ノ剩餘ハ一般ノ財産ト同シク之ヲ財團ニ歸セシム可キモノナリ(商法第千一條但書)

遺産債權者及受遺者ノ別除權

第二節 遺産債權者及受遺者ノ別除權

商法第千條ノ規定ニ依レハ債務者カ其支拂停止後ニ遺産ヲ取得シタルトキハ遺産債權者及ヒ受遺者ハ遺産トシテ尙ホ現存スル遺産物ヨリ又ハ未タ債務者ニ支拂ハレサル遺産ニ屬スル金錢ヨリ別除ノ辨償ヲ請求スルコトヲ得ルモノナリ此條文ニ所謂遺産ヲ取得シタルトキトハ破産者カ相續ヲ爲シ若シハ遺贈ヲ受ケタル場合ナリ又遺産ヲ取得シタルカ爲メ死者ノ義務ヲ負擔スルハ相續若シハ包括遺贈ノ場合ニ起ルモノナリ(舊民法財産取得編第三百九十二條參看)此遺産ヲ取得シタルカ爲メ取得者カ死者ノ債務ヲ負擔スル場合ニ於テ其取得者カ支拂停止後ニ之ヲ取得シタルモノナルトキハ遺産債權者及ヒ受遺者ハ其遺産トシテ現存スル物件及ヒ未タ取得者カ受取ラサル遺産ニ屬スル金錢ハ之ヲ一般財團ニ加ヘスシテ自己ノ債權ノ辨濟ニ充ツルヲ請求スルコトヲ得ルナリ此場合ニ於ケル別除辨償請求權ノ利益ハ那邊ニ在リヤト云フニ遺産取得者ハ既ニ支拂ヲ停止シテ破産

破産法(附家賃分設法)

本論 別除權 遺産債權者及受遺者ノ別除權

手續中ニ在ルモノナルカ故ニ許多ノ債務ヲ負擔スルコト普通ナリ然ルニ今此取得シタル遺産ヲ一般財團中ニ加フルトキハ遺産債權者及ヒ受遺者ハ取得者ノ總テノ債權者ト共ニ平等ノ配當ヲ受ケサル可カラサルカ故ニ到底多額ノ支拂ヲ受クルノ望ナシ之ニ反シテ遺産物ヲ取得者ノ一般財團ヨリ分離シテ遺産債權者及ヒ受遺者ニ支拂ヲモノトセハ取得者ノ債權者ト平等ノ分配ヲ爲サ、ルカ故ニ多額ノ支拂ヲ得ルコト言テ俟タス是レ遺産債權者及ヒ受遺者ニ取リテ非常ノ恩典ト謂ハサル可カラス然ラハ何カ故ニ此等ノ者ニ別除辨償ノ請求權ヲ與ヘタリヤト云フニ取得者ノ債權者ハ遺産ニ因リテ偶然財團増加ノ利益ヲ受クル者タルニ外ナラス之ニ反シテ遺産債權者及ヒ受遺者ハ元來遺産ヲ目的ト爲セル者ナルカ故ニ若シ之ヲ取得者ノ一般財團ニ加フルトキハ爲メニ損失ヲ被ムルヲ免カレヌ從テ遺産タルコト明晰ナル以上ハ先ツ其物件及ヒ金錢ヲ此等ノ者ニ支拂ハサル可カラスト云フニ在リ然レトモ其物件ニシテ既ニ形體ヲ變セルカ若シハ第三者ニ讓渡セラレタル等ニ因リ遺産トシテ現存セサルカ又遺産ニ屬スル金錢ニシテ既ニ取得者タル債務者ノ掌裡ニ歸シタル場合ニ於テハ遺産ニ屬スル部分ト他ノ

部分トテ分別スルコトヲ得サルカ故ニ最早別除辨償ノ請求權ヲ與フルコトヲ得サルナリ又債務者カ支拂ヲ停止シタル後遺産ヲ取得シタルトキニ限り遺産債權者及ヒ受遺者ニ別除辨償ノ請求權ヲ與フル所以ノモノハ債務者カ未ダ支拂能力ニ毫末ノ缺點ヲ示サ、ル時ニ得タルモノナラン乎一般ノ財産ト遺産トテ區別スルノ理由ナケレハナリ

前顯商法第千條ノ規定ハ其立法上ノ精神ニ於テハ毫モ異議ヲ挾ム可キ所ナシ又債務者カ僅少ノ遺産ヲ取得シタル場合ニ在リテハ其適用上何等ノ障礙ヲ感スルコトナシト雖モ債務者カ數多ノ遺産ヲ取得シタル場合ニ於テハ之カ爲メ頗ル破産手續上ノ困難ヲ惹起スルコトヲ免カレヌト信ス何トナレハ此條文ノ規定ニ依レハ管財人ハ他ノ破産手續ヲ措キ先ツ遺産ノ管理、換價ニ從事セサル可カラサルコト、ナル可シ然ルニ遺産ニ屬セサル債務者ノ財産中ニモ至急管理、換價ヲ爲サ、ル可カラサルモノアルコトアリ而シテ第千條ノ規定ハ前既ニ説述セルカ如ク遺産債權者及ヒ受遺者ヲシテ遺産ヨリ優先ノ辨濟ヲ受ケシメントスルノ目的ニシテ此等ノ債權者ニ限り特別早急ニ辨濟ヲ受ケシムルコトヲ目的トスルニ非ス

破産法(附家賃分設法)

本論 別除權 遺産債權者及受遺者ノ別除權

果シテ然ラハ第一千四十五條第二項ニ於テ破産者カ資本ヲ分チ數箇ノ營業ヲ爲シタル場合ニ在テハ各營業ニ對スル債權者ハ其營業ニ屬スル財團ヨリ優先ヲ以テ辨償ヲ受ク下規定セルノ例ニ倣ヒ遺產債權者及ヒ受遺者ハ遺產ニ對シ優先權ヲ以テ配當ヲ受クルモノトセハ別除權ヲ與ヘサルモ以テ此等ノ者ヲ保護スルニ十分ナル可シ

遺產カ遺產債權者及ヒ受遺者ニ辨償ヲ爲シタル上尙ホ取得者ノ財團ヲ増加スルコトアルト同時ニ數多ノ債務ヲ負擔セル遺產ヲ取得シタル場合ニ於テハ取得者ノ財産カ負擔スル債務ヨリモ遺產カ負擔スル債務ノ居多ナルコトナシトセズ斯ノ如キ場合ニハ取得者ノ債權者ハ取得者ノ財産ヲ遺產ヨリ分離シテ別除辨償ノ請求ヲ爲スチ得ルカ如シト雖モ我商法ニ於テハ之ヲ許サズ其故如何ト云フニ起稿者ロエスレル氏ハ説明シテ曰ク取得者ノ債權者ハ遺產ニ因リテ利益ヲ占ムルコト多シ若シ遺產ニシテ負債過重ナルトキハ取得者ハ遺產目錄ニ依リテ相續スルコトヲ得即チ自己ノ財産ヲ以テ遺產ノ負債ヲ償却スルチ拒絶スルコトヲ得ヘシ(商法草案第千五百四十四條說明)ト再言スレバロエスレル氏ノ説明ニ依レハ遺產カ數多ノ債務ヲ

負擔スルトキハ限定受諾ヲ爲スコトヲ得ルカ故ニ相續人ノ財産ヲ以テ遺產ノ債務ヲ支拂フカ如キ場合ヲ生スルコトナシ從テ相續人ノ債權者ニ別除辨償ノ請求權ヲ與フルノ必要ナシト爲セルナリ然レトモ現行法上限定受諾ナルモノ全ク之ナキカ故ニ現行法タル破産法ニ於テハ限定受諾ノ理由ヲ以テ相續人ノ債權者ニ別除辨償ノ請求權ヲ與ヘサルノ理由ト爲スコトヲ得ス且ツ又現行法上ニ限定受諾ナルモノナキモ商法制定ノ際立法者ノ考案中ニハ之ヲ入レシモノトスルモ限定受諾ハ債務者ニ於テ爲スモノニシテ債權者カ之ヲ爲スニ非ス從テ債務者カ限定受諾ヲ爲サ、ル以上ハ債權者ハ如何ニ不服ナルモ之ヲ如何トモスルコト能ハス斯ノ如ク限定受諾ヲ爲サシテ相續人ヲ爲スコトヲ得ルモノト爲ス以上ハ破産手續ニ於テ相續人即チ遺產取得者ノ債權者ニモ遺產債權者及ヒ受遺者ト同シク別除辨償ノ請求權ヲ與フルコト至當ナルニ非スヤ

第十章 終局計算及破産手續ノ終了

財團ニ屬スル總テノ物件ヲ換價シテ之ヲ債權者ニ支拂ヒ終リタルトキハ破産主任官ニ於テ最後ノ債權者集會ヲ開キ管財人ハ其集會ニ於テ終局ノ計算ヲ爲スモ

終局計算
及破産手續
ノ終了

破産法(附家資分設法)

本論 終局計算及破産手續ノ終了

ノトス而シテ此集會ニ於テ管財人ノ計算ニ付キ異議ヲ生セサルトキハ計算ハ茲ニ全ク濟了スルナリ既ニ計算濟了スルトキハ破産主任官ハ破産裁判所ニ向テ破産手續終結ノ申立ヲ爲シ破産裁判所ハ之カ決定ヲ爲シ以テ其決定ヲ公告スルモノトス(商法第千四百八十八條)斯ノ如クシテ破産手續全ク終了スルトキハ破産主任官及ヒ破産管財人等ノ職務モ亦茲ニ解クルモノトス

破産手續後ノ債權

第十一章 破産手續後ノ債權

破産宣告ハ支拂ヲ停止シタル者ニ對シテ爲スモノナルカ故ニ必スシモ債務者ノ借方カ貸方ニ超過スルトキニ起ルモノニ非ス從テ破産手續ニ於テ各債權者ニ債務ノ全額ヲ辨濟スル場合ナキニシモ非ス然レトモ斯ノ如キハ寧ロ稀有ノ事ニ屬シ多クノ場合ニ於テハ破産財團ヨリ各債權者ニ債務ノ全額ヲ辨濟スルコトヲ得ス破産手續終結ノ後ニ至リテモ破産手續ニ於テ確定セル債權ニシテ未ダ辨濟ヲ得サルモノ殘留スルコトアルヲ免カレス此等ノ債權者ハ如何ニシテ債務者ヨリ辨償ヲ受クルヤト云フニ既ニ説述シタルカ如ク破産手續中ハ債權者ハ共同シテ財團ヨリ配當ヲ受クルノ外強制執行ヲ爲スコトヲ得サルモノナレトモ破産手續

ノ終結ト同時ニ債權者間ノ聯結解消スルカ故ニ財團ヨリ辨償ヲ受クルコトヲ得サリシ部分ニ付テハ債權者ハ各自獨立シテ債務者ヨリ無限ニ之ヲ取立ツルコトヲ得ルモノトス而シテ此取立ニ付テハ別ニ民事訴訟法ニ因ル執行名義ヲ要セス破産手續ニ於テ確定セル債權名義ニ基キテ之ヲ爲スコトヲ得ルナリ(商法第千四百八十九條)其理由如何ト云フニ此債權ハ破産手續ニ於テ總テノ關係人ノ承認又ハ裁判所ノ裁判ニ依リテ確定セルモノナルヲ以テ再ヒ裁判所ノ判決ニ依リ之ヲ確定スルコトヲ要セサレハナリ

前述セルカ如ク我商法ニ於テハ破産手續ニ於テ確定セル債權ハ手續ノ終結後債務者ニ對シテ無限ニ之ヲ請求スルコトヲ得ルモノトシ而シテ我國ニ於テハ未ダ限定受諾ヲ以テ相續ヲ爲スコトヲ認メサルカ故ニ其結果破産手續ニ於テ辨濟スルコトヲ得サリシ債務ニ付テハ幾代後ノ相續人ト雖モ強制執行ヲ受ケサルヲ得サルコト、爲ルナリ是レ我國古來ノ法制ニシテ獨リ商法ノ上ニ於テ起ルコトニハ非ス之ニ反シテ彼ノ歐洲大陸諸國ノ法律ニ於テハ相續人カ被相續人ノ債務ヲ無限ニ負擔スルモノト爲サ、ルヲ以テ各國ノ法律上亦我商法第千四十九條ノ如

破産法(附家資分數法) 本論 破産手續後ノ債權

キ規定アルモ我國ニ於ケルカ如ク相續人ニ於テ債務ノ辨濟ヲ負擔セサル可カラサルニ非ス

茲ニ一言ス可キハ歐洲大陸諸國ノ法律ニ於テハ破産手續終結後ト雖モ破産手續ニ依リテ確定セル債務ニ對シテハ債務者無限ニ辨濟ノ責ヲ負擔ス可キモソト爲スコト我商法ノ如シ之ニ反シテ英國法ニ於テハ破産宣告カ債務ノ免除ノ原因トナルコトアリ是レ千八百八十三年ノ破産條例第二十八節以下ニ規定スル所ナリ今其規定ノ大要ヲ示セハ破産者ハ破産宣告後何時ニテモ裁判所ニ對シテ免除命令(Order of Discharge)ヲ請求スルコトヲ得而シテ此請求ヲ受ケタル裁判所ハ破産主任官ノ報告ヲ參看シタル後其命令ヲ與ヘ若クハ之ヲ拒絕シ又ハ特定ノ期限間命令ノ執行ヲ停止シ若クハ將來ニ取得ス可キ財産ニ對シ條件ヲ附シテ免除ノ命令ヲ與フ但破産條例又ハ債務者條例ニ定ムル犯罪アル者ニハ常ニ免除命令ヲ與フルコトヲ拒絕シ又破産條例ニ定ムル特別ノ事實アル者ニハ此命令ヲ拒絕シ若クハ特定ノ期間其執行ヲ停止シ或ハ條件ヲ附シテ之ヲ與フルコトヲ得而シテ其特定ノ事實トハ帳簿ノ正整ナラサル者支拂ノ能力ナキコトヲ知リツ、營業ヲ繼續

セル者支拂ヒ得ル望ナキ借財ヲ爲シタル者投機事業ヲ爲シ又ハ浪費ヲ爲シタル者ノ如キ總テ八項ニ分チテ定メラル其他不當ノ夫婦財產契約ヲ爲シタル者ニ付テモ亦或ハ此命令ヲ拒絕シ或ハ其執行ヲ停止シ或ハ又條件ヲ附シテ之ヲ與フモノトセリ然ラハ此免除命令ヲ得ルノ結果如何ト云フニ第一ハ破産手續ニ於テ届出テラレタル債務ヲ免除セラル、ニ在リ詳説スレハ免除命令ヲ得タル債務者ニ對シテハ債權者ハ財團ヨリ辨濟ヲ得ルノ外債務者ニ對シ無限ニ辨濟ヲ請求スルヲ得ス尤モ國庫ニ對スル債務ニ付テハ裁判所ノ命令ノ外尙ホ大藏省ヨリ免除ヲ爲スニ非サレハ免除セラル、コトナシ第二ハ破産手續ノ正確ナルコトノ證據ト爲ルニ在リ換言スレハ破産手續終結ノ後ニ至リ破産手續ニ於テ届出テラレタル債權者原因トシテ訴追セラル、トキハ債務者ハ免除命令ヲ提出シテ其債務ノ既ニ免除セラレタルモノナルヲ證明スルコトヲ得ルナリ

上述セル英國ノ破産條例ノ規定ハ大ニ其經濟社會ノ進歩セルコトヲ表彰スルモノニシテ未タ我國ノ如ク經濟社會ノ整頓セサル邦國ニ在テハ到底斯ノ如キ法律規定ヲ見ルコト能ハサルナリ蓋シ破産宣告ヲ受クル者ハ時トシテ不可抗力又ハ

意外ノ變ニ因リ此悲境ニ陥ルコトナシトセス從テ其人タル經濟社會樞要ノ人物ニシテ其人ヲシテ將來營業ノ途ヲ杜絶セシムルハ國家ノ經濟上却テ不利益ナルコトナシトセス斯ノ如キ事情アル場合ニ於テモ尙ホ破産手續ニ於テ辨償ヲ得ザリシ債權ハ其債務者ニ對シテ無限ニ之ヲ行フコトヲ得ルモノトセハ債務若ハ僅少ノ財産ヲ有スル毎ニ直チニ之ヲ債務ノ辨濟ニ供セサル可カラサルカ故ニ結局再ヒ事業ヲ營ムコト能ハサルニ至ル可シ是レ一般經濟社會ノ爲メ決シテ喜フ可キ顯象ニ非ス是ヲ以テ縱令破産宣告ヲ受クルコトアルモ全ク其人ノ過失怠慢ニ因ルニ非スシテ不可抗力又ハ意外ノ變ニ基ケルカ如キ場合ニハ右ノ如ク免除命令ヲ與ヘ破産者ヲシテ再ヒ經濟社會ニ立タシムルコト是レ正實ナル營業者ヲ保護スルニ付キ最モ至當ノ方法ニシテ且ツ一般經濟社會ノ利益ナリトス此規則ハ現時ハ唯々英國ニ於テ之ヲ見ルノミナリト雖モ今後經濟社會ノ進歩ニ伴ヒテ何レノ邦國ニモ之ヲ見ルノ時アラソコトヲ信スルナリ

英國ニ於テハ右ノ免除命令ヲ認メタル上尙ホ免除命令ヲ受クルコトヲ得サル破産者ニ付テハ再ヒ他人ノ信用ヲ得ル能ハサラシムルノ規定ヲ設ケタリ即チ免除

命令ヲ受クルコトヲ得サル破産者カ破産者ナル事實ヲ告ケスシテ二十「パウンド」以上ノ信用借ヲ爲シタルトキハ輕罪(Misdemeanor)ニ當ル非行トシテ千八百六十九年ノ債務者條例ニ依リ二年以上ノ重禁錮ニ處セラルコト、セリ此規定ノ結果トシテ過失怠慢若クハ不正ノ原因ニ由リ破産宣告ヲ受クルニ至リタル者ハ再ヒ經濟社會ニ立テ事業ヲ營ムヲ得サルコト、爲ルナリ

破産財團ヨリ債務全額ノ辨償ヲ得ザリシ債權者ハ破産手續終結ノ後債務者ニ對シテ無限ニ其債權ヲ行フコトヲ得ルハ法律ノ明定スル所ナリ然レトモ共同義務者ノ一人ノ破産ニ於テ確定セル債權ヲ以テ他ノ共同義務者ニ對シテ請求セントスルニハ民事訴訟法ニ從ヒテ執行名義ヲ得ルニ非ザレハ強制執行ヲ爲スコトヲ得サルコト亦明白ナル條理ナリ唯々茲ニ一ノ研究ス可キ問題ハ商事會社ノ破産シタル場合ニ其無限責任社員ニ對シテハ如何ナル手續ヲ以テ會社ノ債務ニ對シ辨償ノ責ニ任セシム可キヤトノコト是ナリ我商法第百十二條ニ依レハ合名會社ノ義務ニ付テハ先ツ會社財產之ヲ負擔シ次ニ各社員其全財產ヲ以テ連帶ニテ之ヲ負擔スルモノトセリ故ニ合資會社ノ無限責任社員若クハ業務擔當社員又ハ株式

會社ノ定款ニ依リ無限責任ヲ負擔ス可キモノト定メラレタル取締役ノ責任ノ如キモ亦皆會社財産ヲ以テ辨償スルコトヲ得サリシ部分ニ付キ無限責任ヲ負擔スルモノト謂ハサル可カラズ斯ノ如クナルトキハ會社ノ義務ニ付キ無限責任ヲ負擔スルハ恰モ保證人カ本人ノ義務ニ對シテ無限責任ヲ負擔スルト同一ニシテ會社ニ對スル破産手續ニ於テ辨償ヲ受クルコトヲ得サリシ債權者カ其無限責任社員ヨリ辨償ヲ得ント欲セハ更ニ民事訴訟法ニ依リ執行名義ヲ得サル可カラサルコト、爲ルナリ然ルニ我商法ニ於テハ既ニ前述セルカ如ク其第一千二條第二項ニ於テ會社カ破産宣告ヲ受ケタルトキハ連帶無限ノ責任ヲ負ヘル總社員ノ動産ヲ封印スルコトヲ規定シ第一千五十四條ニハ破産シタル會社ノ無限責任社員ニ付キ自ラ破産宣告ヲ受ケタルト同一ノ身上ノ結果ヲ生スル旨ヲ規定セリ今此等ノ條文ニ由リテ觀察スレハ會社ニ對スル破産手續ノ終結後更ニ民事訴訟法ニ從ヒ執行名義ヲ得ルニ非サレハ其無限責任社員ニ對シテ辨償ヲ請求スルヲ得サルモノトハ見ルコトヲ得サルナリ然ラハ如何ナル手續ニ依リテ此等ノ社員ニ辨償ヲ請求ス可キヤト云フニ商法上更ニ何等ノ方法モ之ナキモノト謂ハサル可カラズ想

フニロニスレル氏カ商法草案ヲ起稿スルニ方リテハ既ニ會社法ノ講義ニ於テ説述セルカ如ク合名會社及ヒ合資會社ヲ法人ナリト斷言スルコト能ハサリシヲ以テ此二種ノ會社ニ在リテハ會社ノ破産ハ即チ社員ノ破産ト看做シタルヤモ知ル可カラズ若シ然ラハ商法第一千二條第二項ノ規定及ヒ第一千五十四條ノ規定ヲ俟タス會社カ破産宣告ヲ受ケタルト同時ニ其總社員ニ對シテモ亦破産手續ヲ開始スルモノト爲サ、ル可カラズ然レトモ第一千二條及ヒ第一千五十四條ノ規定アルヨリ推セハ會社ノ破産ハ即チ無限責任社員ノ破産ナリトモ看做サ、ルカ如シ要スルニ此點ニ關シテハ我商法ノ規定甚タ明確ヲ欲シモノト謂ハサルヲ得ス佛蘭西、白耳義等ノ破産法ニ於テモ亦此點ニ關スル明確ノ規定アルコトナシ英國ノ會社法ニ於テハ裁判所カ會社ノ清算ヲ爲ス場合ノ中ニ會社破産ノ場合ヲ包含シ此場合ニハ會社ノ清算ヲ爲スノ間ニ於テ裁判所ハ其職權ヲ以テ會社ノ義務ヲ負擔ス可キ社員ニ對シ資金徵收ノ命令ヲ發スルコトヲ得而シテ之ヲ發スルニ方リテハ他ノ社員ノ支拂能力ヲ斟酌シ會社ノ總債務ヲ辨濟スルニ足ルト認ムル金額ノ差出ヲ命スルヲ得ルモノトス且ツ此命令ハ強制執行ヲ爲スコトヲ得ルモノナルカ

故ニ社員ノ總財産ヲ盡シテ取立ツルコトヲ得ルナリ(Companies Acts, 1862, s. 102) 即チ英國會社法ニ依レハ會社カ資力ナキ爲メニ破産スルトキハ其清算中ニ既ニ社員ヨリ會社ノ債務ヲ辨濟スルニ足ル金額ヲ取立ツルモノトス此英國法ノ規定ハ無限責任社員ニ會社ノ義務ヲ負擔セシムルニ付キ頗ル適當ナルモノト信ス我商法ニ於テ會社破産ノ場合ニ在リテ其無限責任社員ニ對シ債務辨償ノ請求ヲ爲ス手續ヲ定メサルハ或ハ英國法ノ如ク會社ノ破産手續中ニ此等ノ社員ヨリ會社ノ債務ヲ辨濟スルニ要スル資金ヲ徵收スルノ趣旨ニ出テタルモノナランカトモ思惟セラルレトモ法文ノ明規ナキカ故ニ當然斯ノ如ク爲スモノト云フヲ得ス從テ今日ニ在テハ我國ニ於ケル普通ノ法理ニ依リ會社ニ對スル破産手續ノ終結後更ニ民事訴訟法ニ從ヒ執行名義ヲ得タル上ニ非サレハ無限責任社員ニ對シテ會社債務ノ辨償ヲ請求スルコトヲ得サルモノトスル外ナラン

破産ニ關スル犯罪

第十二章 破産ニ關スル犯罪

破産ニ關スル犯罪ハ一般ノ犯罪ト同シク刑法ニ於テ規定スルコト當然ナリ然ルニ破産法ヲ特別法トセル邦國ニ在リテハ刑法ニハ單ニ民事ノ家資分散ニ關スル

犯罪ノミチヲ掲ケテ破産ニ關スル犯罪ニ付テハ之カ規定ヲ掲クルコトナシ蓋シ破産ノコトタルヤ商業社會ノ信用ト秩序トニ關係スルコト最モ重大ナル事項ナルヲ以テ立法者ハ特別ニ破産法ナルモノヲ設ケ之ニ處スルノ規則ヲ定メ又同一理由ニ因リ破産ニ關スル犯罪ハ普通民事ノ家資分散ニ關スル犯罪ヨリモ重ク之ヲ處罰スルコト各國立法上ノ常態ナリ是レ刑法ニ於テ家資分散ニ關スル犯罪ノ規定アルニ拘ラス商法ニ於テ更ニ破産ニ關スル犯罪ノ規定ヲ設クル所以ナリ若シ破産法ヲ特別法ト爲サスシテ之ヲ一般法ト爲サン乎破産法ニ於テ特別ニ犯罪ニ關スル規定ヲ設クルノ基礎消滅スルヲ以テ破産ニ關スル犯罪モ亦之ヲ刑法ノ規定ニ讓ル可キコト勿論ナリトス我商法ハ刑法ノ後ニ制定セラレタルノミナラス商事上ノ債務ヲ履行セサル者ノミニ對シテ破産法ヲ適用スルモノトセルカ故ニ商法第三編第九章有罪破産ノ下ニ破産ニ關スル犯罪ノコトヲ規定セリ然レトモ新民法ニ依レハ破産法ハ一般法ト爲スコト、ナリタルカ故ニ破産法ヲ改正スルト同時ニ現行商法第三編第九章ニ規定セラル、事項ハ遂ニ刑法ノ一部ト爲ルニ至リ破産法中其痕跡ヲ留メサルニ至ラザル理論上ニ於テモ亦其當ニ然ル可キヲ信

破産法(附家資分散法)

本論 破産ニ關スル犯罪

スルナリ然レトモ現行商法ニ於テハ破産法中ニ有罪破産ナル事項ヲ規定セルヲ以テ茲ニ其規定ノ要領ヲ説明セント欲ス

我商法カ破産ニ關スル犯罪トシテ規定スルモノハ第一ニ有罪破産ナリ有罪破産トハ破産者ニ詐欺若クハ怠慢アリタルカ爲メニ破産ニ至レルカ又ハ破産宣告ヲ受クルニ方リテ詐欺若クハ怠慢ノ所爲アリタルトキ之ヲ處罰スルノ規定ナリ前既ニ説述セルカ如ク破産ハ經濟社會ノ信用及ヒ秩序ヲ紊亂スルコト甚シキモノナルカ故ニ法律ハ可成的破産ノ狀況ニ陷ル者ナカラシメンコトヲ期シ若シ破産者ニ詐欺若クハ怠慢ノ所爲アルトキハ毫モ容赦スルコトナク之ヲ嚴罰シテ以テ斯ル行爲ヲ爲ス者ノ生ゼンコトヲ防遏スルナリ

有罪破産ハ之ヲ二種ニ區別ス詐欺破産及ヒ過怠破産即チ是ナリ

(第一) 詐欺破産 詐欺破産トハ商法第千五十條ニ規定スル所ノモノニシテ支拂停止又ハ破産宣告ノ前後ヲ問ハス左ノ行爲ヲ爲シタル場合ヲ云フ

(一) 履行スル意ナキ義務又ハ履行スル能ハサルコトヲ知リタル義務ヲ負擔シタルトキ 此場合ハ普通刑法ニ依ルトキハ詐欺取財ノ罪ニモ該當ス可キ所

爲ナリ蓋シ初ヨリ償還スルノ意思ナシテ義務ヲ負擔スルモノナルカ故ニ債權者ヲ欺罔スルモノナルコト明カナレハナリ然レトモ商事ニ關シテ斯ノ如キ欺罔ノ所爲アルトキハ信用及ヒ秩序ヲ紊亂スルコト最モ甚シキヲ以テ更ニ詐欺破産トシテ之ヲ嚴罰スルコト、爲シタルナリ而シテ茲ニ所謂義務ヲ負擔スルトハ債權者ノ損害ト爲ルコトヲ知リツ、義務ヲ負擔スルコトナルカ故ニ其義務タル有償ノ義務ナラサル可カラス夫ノ終ニ履行スルノ意ナクシテ無償ノ贈與ヲ爲スノ契約ヲ締結スルカ如キコトアルモ此條ニ依リ詐欺破産トシテ罰セラル、モノニ非ス何トナレハ此等ノ所爲ハ債權者ニ損害ヲ加フルモノニ非サレハナリ

(二) 債權者ニ損害ヲ被ラシムルノ意思ヲ以テ貸方財産ノ全部若クハ一部ヲ藏匿シ、轉匿シ若クハ脱漏シタルトキ 此事タル最モ破産ニ伴ヒ發生シ易キコトタリ而シテ此弊害ヲ防クコト甚タ必要ナルカ故ニ若シ此所爲アルトキハ詐欺破産トシテ之ヲ嚴罰スルナリ

(三) 債權者ニ損害ヲ被ラシムルノ意思ヲ以テ借方現額ヲ過度ニ掲ケタルト

キ 此法文ハ文辭頗ル難澁ナリト雖モ畢竟無實ノ負債ヲ假裝シテ債權者ノ配當額ヲ減少セントスル場合ヲ規定セルモノナリ而シテ其債權者ヲ害スルノ點ニ至リテハ貸方財産ヲ藏匿、轉匿若クハ脱漏スルト同一ノ結果ヲ生スルモノトス

(四) 債權者ニ損害ヲ被ラシムルノ意思ヲ以テ商業帳簿ヲ毀滅シ、藏匿シ若クハ偽造、變造シタルトキ 商業帳簿ハ債務者財産ノ現況ヲ知ルニ於テ最モ要用ナル證據ナリ故ニ若シ之ヲ毀滅シ、藏匿シ若クハ偽造、變造スルカ如キコトアルトキハ債務者ノ負債及ヒ財産ノ高チ知ルコトヲ得サルカ故ニ財産ヲ隱匿セラレ又ハ無實ノ負債ヲ掲ケラル、コトアルモ之ヲ發見スルコト能ハス即チ商業帳簿ヲ變更若クハ藏匿スルハ財産ノ實況ヲ晦マシテ債權者ヲ害セントスルノ所爲ナリ其結果タル所有財産ノ一部ヲ藏匿、轉匿又ハ脱漏スルヨリモ却テ甚シキ損害ヲ債權者ニ加スルコトアリ故ニ是レ亦詐欺破産トシテ嚴罰スルノ必要アル所以ナリ

以上列叙セル四个ノ所爲ハ所謂詐欺破産ニシテ之ニ該當スル者ハ輕懲役ニ處

セラル可シ(明治二十三年法律第一百一十號)

(第二) 過怠破産 過怠破産トハ破産宣告ヲ受ケタル債務者カ支拂停止又ハ破産

宣告ノ前後ヲ問ハス商法第千五十一條ニ列記スル行爲ヲ爲シタル場合ヲ云フ

(一) 一身又ハ一家ノ過分ナル費用、博奕、空取引又ハ不相應ノ射利ニ因リテ貸方財産ヲ甚シク減少シ若クハ過分ノ債務ヲ負ヒタルトキ 此法文ニ該當スル債務者ハ縱令債權者ヲ害スル積極ノ意思ナシトスルモ其重大ナル過失タルハ免カル可カラサル所ナリ即チ斯ノ如キハ正整ナル商人ノ爲ス可カラサル行爲ナルカ故ニ之カ爲メ破産宣告ヲ受クルニ至リタルトキハ法律ハ之ヲ過怠破産トシテ處罰スルナリ

(二) 支拂停止ヲ延ハサンカ爲メ損失ヲ生スル取引ヲ爲シテ支拂資料ヲ調ヘタルトキ 是レ亦自家ノ經濟困難ナルニ至リタル場合ニ極メテ起生シ易キコトナリ即チ例ヘハ支拂停止ヲ延ハサンカ爲メニ一時金錢ヲ得ントシテ高價ノ物件ヲ廉價ニ賣拂ヒ又ハ高利ヲ出シテ金錢ヲ借入ル、カ如キコト是ナリ此等ノ行爲モ亦債務者ニ惡意アルニ非スト雖モ其一般債權者ノ損害ト爲ル

可キモノナルヲ以テ之ヲ過怠破産トシテ處罰スルモノトス

(三) 支拂停止ヲ爲シタル後支拂又ハ擔保ヲ爲シテ或債權者ニ利ヲ與ヘ財團ニ損害ヲ加ヘタルトキ 支拂停止ヲ爲シタル後ハ總テノ債權者ニ衡平ノ配當ヲ爲ス可キコト當然ニシテ一部ノ債權者ニノミ支拂ヲ爲シ又ハ擔保ヲ供シ以テ他ノ債權者ノ損害ト爲ルカ如キコトヲ爲スカラサルハ勿論ナリ若シ此支拂又ハ擔保ヲ受ケタル債權者ニシテ支拂停止ノ情ヲ知ル者ナルトキハ商法第九百九十一條ニ依リ他ノ債權者ヨリ異議ヲ述ヘテ之ヲ取消サシムルコトヲ得ト雖モ其債權者ニシテ支拂停止ノ情ヲ知ラサルトキハ財團ノ損害タルヲ免カレス且ツ又其債權者カ支拂停止ノ情ヲ知ル場合ニ於テモ支拂ヒタルモノヲ取戻スコトヲ得サル場合ナシトセス要スルコト一部ノ債權者ニ支拂ヲ爲シ又ハ擔保ヲ供スルカ如キハ一般債權者ヲ害スルモノナルカ故ニ法律ハ亦之ヲ一ノ犯罪行爲トシテ禁止スルナリ

(四) 商業帳簿ヲ秩序ナク記載シ、藏匿シ、毀滅シ又ハ全ク記載セサルトキ 此法文ニ該當スル行爲ハ其結果ヨリ觀ルトキハ詐欺破産ノ(四)ノ行爲ト同一ノモ

ノモノナリ然レトモ此場合ハ債權者ニ害ヲ被フラシムルノ意思ナキモノナルカ故ニ之ヲ過怠破産トシテ罰スルニ過キス

(五) 破産者カ第三十二條第九百七十九條又ハ第一千三條第三項ニ規定シタル義務ヲ履行セサルトキ 即チ商業者カ調製ス可キ義務アル財産目錄、貸借對照表ヲ作ラス、支拂停止ヲ爲シナカラ之ヲ届出テス又ハ破産宣告ヲ受ケタル後裁判所ノ許可ヲ受ケスシテ其住地ヲ離ル、カ如キ所爲ヲ爲セル場合ナリ此等ハ皆法律上ノ義務ヲ怠レルモノナルノミナラス其結果トシテ破産手續ヲ遲延セシメ又ハ債權者ノ損害ヲ來スコトアルヲ以テ亦之ヲ過怠破産トシテ罰スルナリ

以上五個ノ所爲ハ亦法律上ノ刑罰ヲ免カレスト雖モ此等ハ債權者ニ損害ヲ被フラシムルノ意思ナキモノナルカ故ニ前ノ詐欺破産ノ場合ニ比スレハ其輕重ノ差異アルコト勿論ナリ從テ之ヲ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處スルモノトス(明治二十三年法律第一百一號)

會社カ破産シタル場合ニ詐欺破産若クハ過怠破産ヲ以テ罰ス可キ行爲アルトキ

破産法(附家賃分數法)

本論 破産ニ關スル犯罪

ハ其業務擔當社員若クハ取締役及ヒ清算人其刑罰ヲ受ケサル可カラス(商法第千五百十二條)何トナレハ有罪破産タル可キ行爲ハ會社ノ業務ヲ行フ人ノ爲ス行爲ニシテ會社自身之ヲ爲ス能ハサルコト明カナレハ縱令會社ノ爲メニ爲シタル行爲ト雖モ其行爲者自ラ責任ヲ負フ可キコト當然ナレハナリ然レトモ此場合ニ於テモ亦一般ノ犯罪ト同シク行爲者刑ニ處セラル、モノナルカ故ニ同一會社ノ取締役若クハ清算人等ニ犯罪ノ行爲アリトモ其行爲ニ關係ナキ他ノ取締役若クハ清算人等ハ刑罰ヲ受ク可キモノニ非サルコト一般刑法ノ原則ト異ナルコトナキナリ

破産管財人カ破産手續ヲ行フニ方リテ或ハ財産ヲ隱匿シ或ハ商業帳簿ヲ毀滅シ其他詐欺破産若クハ過怠破産ト爲ル可キ行爲ヲ爲シタルトキハ破産者自ラ之ヲ爲シタルト同一ノ罰ニ處セラル、モノトス又一一般人ニ在リテモ破産者カ詐欺破産若クハ過怠破産ニ該當スル行爲ヲ爲スノ際之ヲ幫助シ又ハ破産者ノ利益ノ爲メニ詐欺破産若クハ過怠破産ト爲ル可キ行爲ヲ爲シタル者ハ亦破産者自ラ之ヲ爲シタルト同一ノ刑ニ處セラル、ナリ(商法第千五百十二條後段)若シ又破産者ノ利益ノ爲メニ非スシテ財團ニ屬スル物ヲ隱匿シ若クハ商業帳簿ヲ變更スルカ如キ行爲ヲ爲ス

者アルトキハ刑法ニ從ヒ竊盜若クハ證書偽造變造ノ罪トシテ之ヲ處罰ス可キモノトス

上述セル所ハ我商法ニ所謂有罪破産ナリ此他尙ホ破産法ニ規定スル所ノ犯罪アリ即チ商法第千五十三條ニ規定スル所ノモノニシテ債權者集會ニ於ケル議決ヲ左右スルカ爲メニ債權者ニ賄賂ヲ贈リタル行爲是ナリ若シ此行爲ニ因リ債權者集會ノ議決ニ影響ヲ及ホシタルトキハ他ノ債權者ハ之ニ對シ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘシ而シテ裁判所ハ其議決ヲ棄却シ又ハ既ニ與ヘタル認可ヲ取消スヲ以テ其議決ハ無効ニ歸スルモノナリ然レトモ單ニ其議決ヲ無効トスルノミニテハ此不正ノ行爲ヲ防遏スルコト能ハサルカ故ニ我商法ニ於テハ贈賂者ト受賄者ト共ニ二年以下ノ重禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處スルナリ而シテ賄賂ヲ贈ル者ハ債務者ナルモ又ハ第三者ナルモ其刑罰ニ於テ異ナル所ナキモノトス

以上ハ我商法ニ規定スル所ノ破産ニ關スル犯罪ナリ而シテ何レノ邦國ニ於テモ皆破産ニ關スル犯罪ヲ豫防スルカ爲メニ精密ナル規定ヲ設クルチ常トス然レトモ既ニ説述シタルカ如ク其詳細ハ刑法ノ講義ニ屬ス可キ事項ナルカ故ニ茲ニ省

破産ヨリ
生スル身
上ノ效果

署ス可シ尤モ此點ニ關シテハ佛國商法第五百八十五條第五百八十六條第五百九十一條及ヒ第五百九十三條獨逸破産法第二百九條乃至第二百十三條並ニ一千八百六十九年ノ英國債務者條例第十一節乃至第十四節ヲ參照セラレシコトヲ望ム

第十三章 破産ヨリ生スル身上ノ效果

破産カ經濟社會ノ秩序ヲ紊亂スルコトハ既ニ屢々説述セルカ如シ而シテ破産宣告ヲ受ケタル人ノ信用ヲ置クニ足ラサルモノタルコトモ亦甚々明カナル所ナリ故ニ各國ノ法律ハ一方ニ於テハ破産宣告ヲ受クルカ如キ者ヲ懲戒センカ爲メ又一方ニ於テハ社會ノ信用ヲ維持スルカ爲メ信用アル者ニ非サレハ享有スルコトヲ得セシム可カラサル位地ハ之ヲ破産宣告ヲ受ケタル者ニ享有セシメサルモノトセリ此理由ニ因リ我國ニ於テモ從來衆議院議員選舉法第十四條第二號市町村制第九條第二項辯護士法第三條第四號公證人規則第二十條第三號等ニ於テハ皆家資分散者若クハ破産者ノ公權ヲ停止スル旨ノ明文ヲ掲ケタリ而シテ此等ノ法律ハ素ト公法ナルカ故ニ獨リ公權ニ關スル事項ヲ規定スト雖モ破産法ニ於テハ右ノ外商事ニ關スル地位ニシテ衆人ノ信用ニ依リテ職務ヲ執ラサル可カラサル

モノハ破産者之ヲ享有スルコトヲ得サルモノトセリ其事項即チ左ノ如シ

(第一) 取引所ニ立入ルコト 取引所ニ立入ルトハ取引所ノ會員ト爲リ取引所ニ於テ賣買ヲ爲スコトヲ云フ取引所ナルモノハ法律カ公共ノ場所ト看做スモノナルカ故ニ社會ノ信用ヲ有セサル所ノ破産者ハ之ニ臨ムコトヲ得セシメサルナリ明治二十六年法律第五號取引所法第十一條第二項ニ於テモ復權ヲ得サル破産者ハ取引所ノ會員ト爲ルコトヲ得サル旨ヲ規定セリ

(第二) 仲立人ト爲ルコト 仲立人トハ商法第一編第八章第三節及ヒ第四節ニ規定スル所ノモノニシテ當事者雙方ノ代理人ト爲リテ取引ヲ爲スモノナレハ最モ信用ヲ有スル者ヲラサル可カラサルハ素ヨリ言テ俟タズ現行取引所法第十一條第三項ニハ復權ヲ得サル破産者ハ仲買人ト爲ルコトヲ得ストアリ同法ニ所謂仲買人ハ商法ノ所謂仲立人ナリトス

(第三) 合名會社若クハ合資會社ノ社員ト爲リ又ハ株式會社ノ取締役ト爲リ及ヒ清算人ト爲ルコト 合名會社合資會社ノ社員破産宣告ヲ受クルトキハ退社ノ原因ト爲ルコト商法第二百一十一條第三號ノ規定スル所ナリ斯ノ如ク既ニ社員

タル者ニ於テ退社ノ原因ト爲ル以上ハ破産宣告ヲ受ケタル者ノ新ニ社員ト爲ルコトヲ得サルモ亦當然ノ結果ト云ハサルヲ得ス又株式會社ノ取締役及ヒ清算人ハ專ラ社員ノ信用ニ依リテ會社ノ業務若クハ清算事務ヲ執行スル者ナルカ故ニ破産宣告ヲ受ケタルカ如キ不信用ノ者ヲシテ此任ニ當ラシムルヲ得サルヤ固ヨリナリ

(第四) 破産管財人ト爲ルコト 破産管財人ハ其選任方法ノ如何ニ拘ハラズ信用アル人ノ爲ス可キ職務タルハ何人モ疑テ容レサル所ナリ從テ破産者ノ如キ信用ヲ失シタル者ハ此職務ニ當ラシムルコトヲ得サルヤ論ヲ俟タス

(第五) 商事代人ノ職ヲ執ルコト 商事代人ノ職ヲ執ルトハ商業上ノ代理ヲ爲スコトヲ職業ト爲スヲ云フ即チ代辨人仲立人及ヒ仲買人ノ如キ是ナリ此等ノ職業ハ勿論取引ヲ爲ス者ノ最モ信用ヲ置ク可キモノナルカ故ニ之ニ當ル者ハ宜シク其雙肩ニ信用ヲ負フ者ナラサル可カラス從テ破産者ノ如キ信用ヲ喪失シタル者ハ其職ヲ執ルコトヲ得サルナリ然レトモ本號ニ定ムル所ハ商事代人ノ職務ヲ執ルヲ得スト云フニ在ルカ故ニ彼ノ商業使用人若クハ普通代理人ト爲

リテ他人ヲ代理スルカ如キハ茲ニ禁止スルノ限ニ在ラス蓋シ此等ハ亦委託者ノ信用ニ因リテ成ルモノナリト雖モ世人ニ對シテ公然代理ノ業務ヲ執ルモノニ非サレハナリ

(第六) 商業會議所ノ會員ト爲ルコト 商業會議所ノ會員ハ商業上最モ名譽アル地位ナルカ故ニ破産者ノ如キ名譽ト信用ヲ失ヒタル者ヲシテ此地位ヲ得セシム可カラサルヤ論ヲ俟タス而シテ現行商業會議所條例第八條ニ依レハ財産ニ對スル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレ滿期後又ハ赦免後三箇年ヲ經サル者ハ會員タルコトヲ得サル旨ヲ定ムルモ未タ復權セサル破産者ハ會員タルコトヲ得サルノ明文ナシ故ニ有罪破産ヲ以テ罰セラレサル限りハ破産者ト雖モ會員タルニ妨ケナシトス從テ我商法ニ於テ總テ破産者ハ商業會議所ノ會員タルコトヲ得サルノ規定ヲ設ケタルハ商業會議所條例第八條ノ制限以外ニ於テ更ニ會員ノ被選權ニ制限ヲ加ヘタルモノト云ハサル可カラス

(第七) 其他商業上ノ榮譽職ニ就クコト 商業上ノ榮譽職ノ何タルヤハ素ヨリ一定セズ然レトモ試ニ其一例ヲ舉クレハ商業ニ關スル組合ノ名譽職役員其他商

業者ヲ代表スル地位ヲ占ムルコトヲ得サルカ如シ
 右ニ列記シタル七個ノ地位ハ皆商業上信用厚キ者ニシテ始メテ之ヲ占ム可キモ
 ノナレハ信用ヲ失墜シタル破産者ニハ此地位ヲ占ムルコトヲ許ス可キモノニ非
 ス然レトモ總テノ破産者ハ此等ノ地位ヲ占ムルヲ得サルヤト云フニ亦多少ノ例
 外アリテ存ス即チ商法第五十五條第三項ニ依レハ協議契約ノ調ヒタルトキハ
 從令復權ヲ得サル破産者ト雖モ取引所ニ立入ルコトヲ得ヘク即チ失權第一ノ例
 外タル可キモノナリ詳言スレハ此場合ニ於テハ破産者ハ取引所ノ會員ト爲リテ
 自ラ賣買取引ヲ爲スヲ妨ケスト云フニ在リ但取引所ノ仲立人ト爲ルコトハ第二
 ノ場合ニ該當スルモノナルカ故ニ破産者ハ此職ヲ執ルコトヲ得サルモノトス然
 レトモ此點ニ關スル商法ノ規定ハ現行取引所法ト相抵觸スルノ議ヲ免カレス何
 トナレハ明治二十六年法律第五號ヲ以テ發布セラレタル取引所法第十一條ニ依
 レハ復權ヲ得サル破産者ハ全然其會員タルコトヲ得サル旨ヲ規定シ敢テ協議契
 約ノ調ヒタルト否トヲ問ハサレハナリ然ラハ此兩者ノ規定中果シテ其執レニ從
 フ可キモノナルヤト云フニ取引所法ハ明治二十六年十月ヨリ實施セラレテ商法

ノ實施ニ後ル、モノナレハ取引所法ハ商法ニ對シテ効力上優等ノ地位ニ立ツモ
 ノト云ハサル可カラス從テ商法ノ規定ハ今日ニ於テ其効力ナキモノト信ス此他
 破産者ノ失權ニ付キ尙ホ一ノ例外アリテ存ス即チ會社ノ無限責任社員ニ對スル
 場合ナリ此場合ニ關スル詳細ノ説明ハ後段ニ讓ル可シ
 我商法第五十五條第三項ハ右ニ述ヘタルカ如ク破産者ノ失權ニ關スル例外ヲ
 定メタリ然ルニ同條ハ第一項及ヒ第二項ニ於テ復權ノ申立ノ證明ニ關スル事項
 ナ規定シ其第三項ヲ以テ直チニ申立ニ必要ナル證明ヲ爲サスシテ爲シ得ヘキ事
 項ヲ規定シタレハ同項ハ恰モ前項復權申立證明ノ例外ニ屬スルモノ、如ク見ユ
 然レトモ是レ立法者ノ不注意ニ起因スルモノニシテ同條第三項ノ規定ハ復權申
 立ノ證明ニ關スルモノニ非ス復權ヲ得スシテ爲シ得ヘキ事項ナリ故ニ第五十
 四條ノ例外タル可キモノナレハ同條ノ第二項トシテ協議契約ノ場合ニ於テ斯ル
 例外アルコトヲ規定ス可キ筈ナルニ誤テ次條ニ混入シタルモノタルニ外ナラス
 上來述ヘタル所ハ一個人カ破産宣告ヲ受ケタル場合ニ於ケル我商法ノ規定ナリ
 然ラハ會社カ破産シタル場合ニ於テハ其破産ヨリ生スル身上ノ結果ハ何人カ之

ヲ受ク可キヤト云フニ我商法ハ破産シタル會社ノ無限責任社員ハ皆自ラ破産シタルトキト同一ノ身上ノ結果ヲ受ク可キモノトセリ(商法第五十五條)是レ余ノ了解スル能ハサル所ナリ此規定タル我立法者カ會社ニ對シテ破産宣告ヲ爲シタル場合ニ其宣告ハ無限責任社員ニ如何ナル効果ヲ及ホスヤニ付キ明確ナル一定ノ思想ヲ有セカリシ證據ナリ蓋シ商法第五十四條ノ規定ニ從フトキハ會社ニ對スル破産宣告ハ即チ其無限責任社員ニ對シテ爲スモノト云ハサルヲ得ス然レトモ我商法ニ於テハ他ニ別ニ斯ル明文ヲ掲ケサルノミナラス會社ノ破産シタルトキ保全處分トシテ連帶無限責任ヲ負ヘル總テノ社員ノ動産ニ對シテ封印ヲ命スルコトヲ定ムルノ外他ニ無限責任社員ヲ破産者ト看做シタルノ規定アルヲ見ス然ルニ破産ヨリ生スル身上ノ結果ヲ定ムルニ當リテ突然會社ノ無限責任社員ニ自ラ破産シタルト同一ノ身上ノ結果ヲ受ケシムルモノト爲スハ頗ル奇怪ナリト云ハサル可カラス今立法論トシテ之ヲ考フルモ會社カ破産宣告ヲ受ケタルノ一事ヲ以テ其無限責任社員ニ破産者ト同一ノ身上ノ結果ヲ受ケシムルハ甚ダ酷ニ失スルモノニシテ其當ヲ得タリト云フヲ得ス何トナレハ會社カ破産宣告ヲ受ケタレハ

トテ必スシモ無限責任社員カ會社破産ニテ償却シ得サル會社ノ債務ヲ支拂フノ資力ナシト認定ス可キニ非ス然ルニ若シ一ノ會社ノ無限責任社員タルカ爲メ會社ノ破産スルト同時ニ之ヲ破産者ト認ムルモノトセンカ其社員ハ豫メ自己ノ財產ヲ以テ會社ノ債務ヲ支拂ハサレハ常ニ危險ノ地位ニ立タサルヲ得ス加之今日ノ社會ニ於テハ一會社ノ無限責任社員ニシテ同時ニ他ノ會社ノ社員ト爲リ又ハ役員ト爲ルコトアリ斯ル場合ニ於テ其社員カ無限ノ責任ヲ負フ會社ニシテ破産宣告ヲ受クルトキハ其社員ハ他ノ會社々員ト爲ルコトヲ得ス又株式會社ノ取締役及ヒ清算人ト爲ルコトヲモ得ストセハ此事項ハ合名會社、合資會社ニ在リテハ退社ノ原因中ニ定メサル可カラス又株式會社ニ在リテハ當然其取締役及ヒ清算人退社ノ原因トナラサル可カラス然ルニ我商法ニ於テハ斯ル退社、退役ノ原因ヲ掲ケス又合資會社ノ無限責任社員ノ如キハ株式會社ノ株主ト殆ント異ナル所ナキニ他ノ無限責任ヲ負ヘタル會社カ破産宣告ヲ受クルトキハ未ダ其社員カ自己ノ財產ヲ以テ償却ス可キ負債アルヤ否ヤ分明ナラサルニ當リ疾ク既ニ合資會社ノ社員タル位置ヲモ退カサル可カラスト爲スハ實ニ不當ノ規定タルヲ免カレス

破産法(附家資分散法)

本説 破産ヨリ生スル身上ノ效果

要スル我商法カ破産シタル會社ノ無限責任社員ヲシテ自己カ破産シタルト同一ナル身上ノ結果ヲ受ケシムルハ立法上其理由ナキモノト云ハサルヲ得ス
 會社ノ無限責任社員カ會社破産ノ場合ニ受クル身上ノ結果ハ其會社ノ破産ニ就テ協諾契約ノ整ヒタルトキハ一ノ例外ヲ認メサル可カラス是レ即チ商法第千五百條第三項末段ニ規定スル所ニシテ此場合ニ在テハ其無限責任社員ハ復權ヲ得スシテ會社ヲ繼續スルコトヲ得ヘシ此事柄タル協諾契約ノ性質ヨリ自然ニ生スル結果ナリ何トナレハ協諾契約ハ一個人ノ場合ナレハ其人ノ營業ヲ繼續セシムル爲メナルカ故ニ會社ノ場合ニ在テモ會社ヲ存續シテ營業ヲ繼續セシムルコトヲ目的トスレハナリ從テ若シ會社ノ破産ニ就テ協諾契約ノ整ヒタルトキト雖モ尙ホ復權ヲ得サレハ會社ヲ繼續スルコト能ハサランカ到底協諾契約ノ目的ヲ達スルコトヲ得サル可シ然レトモ我商法ニ依レハ前述ノ如ク破産宣告ヲ受ケタル會社ノ無限責任社員ハ合名會社若クハ合資會社ノ社員ト爲リ又ハ株式會社ノ取締役ト爲リ若クハ清算人ト爲ルコトヲ得サルヲ以テ其破産ニ就キ協諾契約ノ整ヒタルトキト雖モ唯々其會社ヲミ繼續スルヲ得ルモノニシテ他ノ會社ノ社

員ト爲リ取締役ト爲リ又ハ清算人ト爲ルコトヲ得サルモノト謂ハサル可カラス又其結果トシテ破産シタル會社ノ無限責任社員ハ縱令協諾契約ノ整ヒタルトキト雖モ他ノ會社ノ社員取締役若クハ清算人ノ位置ヲ退カサル可カラサルナリ茲ニ至テ會社ノ無限責任社員ニ破産者ト同一ノ結果ヲ受ケシムルノ其當ヲ得サルコト益々明瞭ナリトス
 以上講述スル所ハ破産宣告ニ因リ生スル身上ノ結果ナリ此結果ハ之ヲ免カルノ方法アリヤ否ヤト云フニ復權許可ノ決定アルトキハ之ヲ消滅セシムルコトヲ得ルモノトス依テ是ヨリ復權ニ關スル規定ニ就キ講述スル所アル可シ
 復權ヲ得ルニハ破産者ヨリ總テ債權者ニ元債利息及ヒ費用ノ全額ヲ辨償シタルコトヲ受取證其他ノ證據物ニ依リテ證明シ又若シ所在ノ分明ナラサルカ爲メ未ダ辨償ヲ受ケサル債權者アルトキハ之ニモ全額ヲ辨償スルノ資力アルコトヲ證明シテ破産裁判所ニ復權ノ申立ヲ呈出セサル可カラス(商法第千五百條)然ルニ茲ニ辨償ニ就テ一問題アリ他ナラス所謂辨償トハ事實上ノ辨償即チ辨償相殺其他實際上權利ヲ消滅スルニ足ル可キ報酬ヲ以テ債權者ヲ満足セシメタルコトヲ云フ乎或

ハ法律上ノ辨償即チ債權者ヨリ免除ヲ得タルカ又ハ時効ニ因リ義務ヲ免カレタルコトヲモ包含スルヤ否ヤノ點是ナリ我商法草案ノ起稿者ロエスレル氏ハ草案第千百九條(確定法文第五十五條)ノ説明ニ於テ茲ニ辨償ト謂フハ事實上ノ辨償ノミナリト述ヘタルカ故ニ從テ法典編纂ニ干與シタル人々モ亦同一ノ説明ヲ注釋書ニ掲ケタリ然レトモ余ノ考フル所ニ依レハ商法第千五十五條ニ辨償ト謂フハ法律上辨償ス可キ義務ヲ辨償スルコトヲ指示セサルモノナルコト疑チ容レサル所ナリ彼ノ免除ノ如キハ債務ヲ消滅セシムルモノナルカ故ニ之ニ對シテ辨償ヲ爲ス可キ筈ナク又時効ニ罹ルト云フモ新民法ニ於テハ義務消滅ノ原因ト爲リ又舊民法ニ於テモ法律上既ニ辨償シタルモノト看做サ、ルモノコシテ辨償ノ義務アルモ之ヲ宥恕スト云フニ非ス然ラハ債務ナキ場合又ハ辨償シ終リタル場合ニ尙ホ辨償ヲ爲サ、ルヲ得ストハ眞ニ意味ナキコト、謂ハサル可カラス從テ余ハ債務ノ免除及ヒ時効ニ罹リタルコト等モ無論復權ノ申立ニ妨ケナキ事實ナリト信ス復權ヲ申立ツルニハ先ツ債權者ニ元金及ヒ利息ノ全額ヲ仕拂フ可シトノ規定ハ協諾契約ノ整ヒタルトキニモ尙ホ適用スルモノナルヤ否ヤ協諾契約ナルモノハ

多クハ債權者カ其債權ノ或部分ヲ財團ニ對シテ請求セサルコトヲ約スルニ因リテ成ルモノナリ然ラハ其請求セサル部分ニ對シテハ辨償ヲ爲サ、ルモ復權ヲ受クルコトヲ得ルヤ換言スレハ協諾契約ヲ履行シ了ルトキハ復權ノ申立ヲ爲スコトヲ得ルヤト云フニ決シテ然ラス何トナレハ前ニ述ヘタル如ク協諾契約ニ於テハ債權者カ財團ニ對シテ其債權ノ或部分ヲ主張セサルコトヲ約スルハ普通ノ免除又ハ拋棄ト同シカラス唯タ破産者ヲシテ其營業ヲ續行セシムルノ必要ヨリシテ財團ニ對シ之ヲ主張セサルコトヲ約シタルコト止マレハナリ從テ保證人其他連帶義務者ニ對シテハ全額ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス且ツ債權者中ニ不同意ノ者アルモ尙ホ此契約ヲ承認スルコトヲ得ルハ既ニ述ヘタル所ノ如ク既ニ然ラハ破産者ニ於テ復權ヲ得再ヒ商業上ノ信用ヲ回復セシムルハ先ツ總テ債權者ヲ満足ス可キ辨償ヲ爲スコトヲ要ス彼ノ協諾契約ニ參與シタル債權者ハ決シテ満足セラル辨償ヲ得タルモノニ非ス唯タ止ムコトヲ得ス財團ニ對シテ其權利ヲ主張セサルノミ從テ破産者カ債權者ヨリ免除ヲ得タル場合トハ全ク相異ナレリ前ニ述ヘタル復權申立ノ條件ヲ具備シ破産者ヨリ復權ノ申立アリタルトキハ裁

破産法(附家資分散法)

本論 破産ヨリ生スル身上ノ效果

判所ハ其揭示場及ヒ取引所ニ其旨ヲ揭示シ且ツ見込ニ因リ新聞紙ヲ以テ之ヲ公
 告シ又許可ス可キ條件ヲ備フルヤ否ヤヲ調査考覈セシメンカ爲メ復權ノ申立ヲ
 檢事ニ通知スルモノトス復權ニ對シテ異議ヲ申立テント欲スル者ハ揭示ノ日ヨ
 リ二个月内ニ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ(商法第一千五百六十一項)裁判所ハ異議申立期間ノ滿了
 後檢事ノ意見ヲ聞キ復權ノ申立ヲ許可スルヤ否ヤヲ決定ス此決定ニ對シテハ即
 時抗告ヲ爲スコトヲ得ヘシ又決定確定シタルトキハ之ヲ公告スルモノナリ而シ
 テ復權ノ申立棄却セラレタルトキハ其後一箇年ヲ經過スルニ非サレハ更ニ之ヲ
 申立ツルコトヲ得ズ是レ破産者ノ輕率ナル申立ヲ防止センカ爲メナリ(商法第一千
 五百六十二項及
 五百六十三項)

復權ノ申立ハ何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得ルハ敢テ疑ヲ存セサルモ我商法第千
 五十七條ニハ債務者ノ死亡後ト雖モ復權ヲ許スコトヲ定メタリ此規定ハ佛蘭西
 商法第六百十四條白耳義商法第五百八十六條及ヒ普魯西破産法第三百十七條ニ
 モ掲ケラル、所ナリ然レトモ余ハ此規定ヲ以テ毫モ意義ナキモノト信ス元來復
 權ナルモノハ商法第千五十四條ニ依リ失ヒタル權利ヲ回復スルニ在リ然ルニ死亡

六二

シタル者ハ到底權利ヲ回復スルコト能ハス我商法第千五十七條ノ規定ハ死亡シ
 タル債務者ニ復權ヲ許スノ意味ナルコトハ商法草案第千百一十一條ノ下ニ於テロ
 エスレル氏カ説明スル所ニ依ルモ明瞭ナリ然ルニロエスレル氏ハ獨逸刑法第百
 八十九條ヲ援用シ死者ノ名譽ハ刑法ニ於テモ之ヲ保護スルモノナルカ故ニ破産
 ノ場合ニ於テモ死者ノ名譽ノ爲メ復權ヲ許スコト云ヘリ成程我刑法第三百五
 十九條ニ於テモ死者ヲ誹毀セル者ヲ罰スト雖モ刑法ハ私權ヲ保護センカ爲メノ
 規定ノミヲ掲クルモノニ非サルヲ以テ刑法ニ死者ヲ誹毀シタル者ヲ罰スルノ規
 定アリタリトテ直チニ之カ爲メニ死者ノ名譽權ヲ認メタルモノト云フヲ得ス蓋
 シ刑法ニ於ケル此規定ハ死者ノ親戚知人ノ名譽ヲ保護シ其憤怒ヲ慰ムルカ爲メ
 ニ定メタルモノニシテ決シテ死者ノ權利ヲ保護シタルニ非ス又ロエスレル氏ハ
 死者ニ復權ヲ許スハ屋號ノ榮譽ヲ回復スルカ爲メナリト説明スレトモ或屋號ヲ
 有シテ營業ヲ爲シタル者カ嘗テ破産宣告ヲ受ケタルコトアルトキ其屋號ノ相續
 人ニ於テ榮譽ヲ回復セント欲セハ其死亡者カ償却スルコト能ハサリシ債務ヲ償
 却シテ之ヲ公告スルモノ可ク復權ノ外ニ他ニ適當ナル規定ヲ設クルノ至當

破産法(附家資分散法)

本論 破産ヨリ生スル身上ノ效果

ナルヲ信ス復權ナルモノハ素ト一旦失ヒタル能力ヲ回復スルニ在リ即チ其能力
 ナ回復スレハ從前ノ位置ヲ享有スルコトヲ得ル人ニ對シテ之ヲ爲スモノナルカ
 故ニ現在世ニ生存セサル人ニ對シテ之ヲ許與スルカ如キハ到底爲シ能ハサル所ナ
 リ從テ商法第千五十七條ハ當然削除ス可キモノタルヲ疑ハス
 破産者ハ何時ニテモ復權申立ヲ爲スコトヲ得ルモノナレトモ或破産者ハ此申立
 チ爲スノ權ヲ有セス即チ(第一)詐欺破産ノ宣告ヲ受ケタル者(第二)重罪、輕罪ノ爲メ
 ニ公權剝奪若クハ公權停止中ノ者はナリ(商法第千五十)此兩件ノ一ニ當ルモノハ
 到底社會ニ信用ナキモノタルコト明カナレハ破産宣告ニ因リテ生シタル身上ノ
 結果ヲ取消スコトヲ得サルモノナリ
 商法第千五十八條第二項ニハ過怠破産ノ場合ニ在テハ復權ハ刑ノ滿期ト爲リ又
 ハ恩赦ヲ得タル後ニ非サレハ之ヲ許サストノ明文アレトモ余ハ寧ロ蛇足ノ法文
 タルニ過キスト思考ス何トナレハ過怠破産者ハ前述ノ如ク明治二十三年法律第
 百一號ニ依リ輕罪ノ刑ニ處セラル、者ナルカ故ニ未ダ刑ノ滿期ニ至ラス又ハ恩
 赦ヲ得サル者ハ商法第千五十八條第一項ニ輕罪ノ爲メニ停止公權ヲ受ケテ其期

間中ニ在ル者ト云ヘルニ該當スルニ依リ結局同條第二項ハ重複ヲ免カレサレハ
 ナリ(刑法第三) 家資分散者ハ其宣告ヲ受ケタル日ヨリ選舉權及ヒ被選舉權ヲ失フモノトス又復
 權ニ付テハ商法第千五十五條以下ノ規定ヲ準用ス(家資分散) 法第四條

支拂猶豫

第十四章 支拂猶豫

支拂猶豫ノ事項ハ之ヲ破産法中ニ規定スレトモ是レ破産者ニ適用スル所ノ規則
 ニ非スシテ破産宣告ヲ受ケサルノ方法ヲ定メタルモノナリ前既ニ縷述セルカ如
 シ支拂停止ノ狀況ニ立チ至ルハ必スシモ債務者ノ責ニ歸ス可キ事實ヨリ發生ス
 ルニ非スシテ或ハ地震、洪水ノ如キ天災ノ爲メ或ハ第三者ノ破産相場ノ劇變等ノ
 不可抗力若クハ意外ノ變ノ爲メニ支拂ヲ停止セサル可カラサルノ止ムヲ得サル
 コトアリ斯ノ如キ場合ニ於テモ破産法ノ規定ニ依レハ苟モ支拂停止ノ事實アレ
 ハ其原因ノ何タルヲ問ハス破産宣告ヲ受ケサル可カラサルモノナリ而シテ破産
 宣告ヲ受ケタルトキハ上來説述シタル方法ニ依リテ財團ノ配當ヲ爲サ、ル可カ
 ラサルノミナラス破産者ハ商業上極メテ不名譽ノ地位ニ立タサル可カラス又幸

破産法(附家資分散法)

本論 支拂猶豫

ニシテ協諧契約整フコトアルモ一時營業上著シク障礙ヲ受クルコトヲ免カレヌ然ルニ經濟社會全般ノ上ヨリ觀察スルトキハ破産者ノ生スルハ其社會ノ秩序ヲ紊亂スルモノニシテ決シテ喜フ可キ現象ニ非ス且ツ不可抗力若クハ意外ノ變ニ因リテ支拂停止ノ狀況ニ陥リタル者ノ如キハ之ニ假スニ多少ノ時日ヲ以テセハ商業上ノ秩序ヲ回復シ財政ヲ整理シ以テ債權者ニ完全ナル辨濟ヲ爲スノ望ナシトセス斯ノ如キ場合ニ破産宣告ヲ受ケシムルハ其人ノ爲メ不利益ナルコトハ勿論債權者及ヒ一般經濟社會ノ利益ヨリ謂フモ決シテ得策ニアラサルナリ於是乎各國商法ハ自己ノ過失ニ因ラスシテ支拂停止ヲ爲スニ至リタル者ニ支拂猶豫ヲ與フルノ規定ヲ設ケ以テ一般經濟社會及ヒ總テノ利害關係人ノ利益ヲ保護セントセリ我商法ニ於テモ亦同一ノ精神ニ基キ破産手續ヲ規定シ了リタル後ニ支拂猶豫ノ規定ヲ設ケタリ

支拂猶豫トハ其文字ノ示ス如ク債務者カ債權者ヨリ債務ノ支拂ニ付キテ猶豫ヲ受クルコトナリ而シテ此猶豫ヲ受ケントスルニハ債務者ヨリ其營業所若クハ住所ノ裁判所ニ申立テ、債權者集會ノ議決及ヒ裁判所ノ認可ヲ受ケサル可カラズ

又此申立ヲ爲ス者ハ素ヨリ自己ノ過失ニ因ラスシテ支拂ヲ中止セサル可カラサルニ至リタル者ナラサル可カラサルカ故ニ從テ此申立ニハ支拂ヲ中止セサル可カラサルニ至レル理由ト及ヒ支拂ノ猶豫ヲ受クルニ於テハ其猶豫期限内ニ財政ヲ整理シ總テノ債權者ニ辨濟ヲ爲シ得ヘキコト、ヲ明瞭ナラシメサル可カラズ即チ此目的ノ爲メニ支拂猶豫ノ申立ニハ左ノ諸件ヲ添附スルコトヲ要ス

第一、支拂中止ノ事由ノ完全ナル明示

第二、貸借對照表、財産目錄及ヒ住所ト債權額トヲ明示シタル債權者名簿

第三、債權者ニ主タルモノ及ヒ從タルモノ、完全ナル辨償ヲ爲シ得ル方法、期間及ヒ之カ爲メ供スルコトヲ得ル擔保ノ證明

右ノ三件ハ皆支拂ヲ中止セサル可カラサルハ不可抗力若クハ意外ノ變ニ因ルモノナルコト、及ヒ支拂ノ猶豫ヲ受クルトキハ其猶豫期間内ニ完全ナル辨償ヲ爲スコトヲ得ルヲ明カニスルカ爲メ必要ナルモノナリ此申立ニシテ債權者集會ノ承諾及ヒ裁判所ノ認可ヲ得タルトキハ其猶豫期間内ハ債權者ヨリ辨濟ヲ請求セラル、コトナシ從テ又破産法ニ依リ破産宣告ノ原因ト爲ル所ノ支拂停止ヲ生ス

ルコトナキナリ而シテ此猶豫期間ハ一个年ヲ以テ原則トス其理由トスル所ハ斯ノ如キ事變ノ爲メニ支拂ヲ中止セサル可カラサルニ至リタル者ハ一个年ノ猶豫アルトキハ能ク其財政ヲ整理スルコトヲ得ントノ推定ニ出テタルモノナリ(商法第五十九條及ヒ)

支拂猶豫ノ申立アルトキハ其申立及ヒ添附書類ハ公衆ノ展閱ニ供スル爲メ之ヲ裁判所ニ備置キ且ツ債權者ノ集會期日ヲ定メテ之ト共ニ其備置キタル旨ヲ公告スルコトヲ要ス此手續ヲ了リタルトキハ其定メタル期日ニ債權者集會ヲ開キテ其議決ヲ經然ル後裁判所ノ認可ヲ受クルモノトス然ルニ支拂猶豫ノ申立ヨリ此裁判所ノ認可ヲ受クルニ至ルマテニハ多少ノ時日ヲ要シ而シテ其時日ハ未ダ支拂猶豫ヲ得サル間ナルカ故ニ債權者ヨリ辨濟ノ請求ヲ受クルコトアル可キハ勿論ノコトナリ然レトモ既ニ支拂ヲ爲スコトヲ得サルカ爲メ支拂猶豫ヲ申立ツル場合ナルヲ以テ辨濟ノ請求ニ應スルコト能ハサルヤ明カナリ而モ尙ホ辨濟ノ請求ニ應シテ支拂ヲ爲ス可キモノトセハ茲ニ支拂停止ヲ惹起シ遂ニ破産宣告ヲ受ケサル可カラサルニ至ラノ即チ支拂猶豫ノ申立ヲ爲シ居ルニ拘ラス其申立ニ付

キ未ダ承諾及ヒ認可ヲ得ルノ有無確定ナラサル以前ニ破産宣告ヲ受ケサル可カラサルコト、爲ルナリ斯ノ如キハ法律カ支拂猶豫ナルモノヲ認メタルノ精神ニ反ス故ニ我商法ニ於テハ裁判所ハ假リニ支拂猶豫ヲ許可スルコトヲ得ルモノトセリ即チ裁判所ニ於テ支拂猶豫ヲ得ヘキ正當ノ理由アリト認メタルトキハ債權者集會ノ期日ニ至ルヲ俟タスシテ假リニ支拂猶豫ヲ與ヘテ破産宣告ヲ免カレシムルコトヲ得ルナリ(商法第六十條)此裁判所ノ許與スル假ノ支拂猶豫ハ債權者集會ニ於テ支拂猶豫ヲ承諾セサルトキ又ハ裁判所ニ於テ支拂猶豫ヲ認可セサルトキハ當然消滅ニ歸スルモノトス

前述セル裁判所カ定メタル期日ニ於テ債權者集會ハ開カル、ナリ此集會ヲ爲スニハ裁判所ノ公告アルノミナラス又裁判所ヨリ各債權者ニ對シテ各別ノ通知ヲ爲スモノトス而シテ此等ノ手續ハ總テ破産手續ニ於テ債權者集會ヲ開クト畧ホ同一ナリト雖モ此場合ニ於テ招集セラル、所ノ債權者ト破産手續ニ於テ参加スル所ノ債權者トノ間ニハ一ノ著シキ差異アルヲ記憶セサル可カラズ即チ破産手續ニ於ケル債權者ハ債務者ニ對スル總テノ債權者ニシテ商事上ノ債權者タルト

否トナ問ハス然ルニ支拂猶豫ノ申立アルニ際シ召集セラル、所ノ債權者ハ商事上ノ債權者ノミニシテ其他ノ債權者ハ之ニ與カラサルナリ蓋シ支拂猶豫ハ破産宣告ヲ防止スルノ手段ニシテ破産宣告ナルモノハ商ヲ爲スニ當リテ支拂ヲ停止セル者ノ受ク可キモノナルヲ以テ商ヲ爲スニ因リテ生シタル債務ヲ怠ルニ非サレハ破産宣告ヲ受クルコトナシ從テ商ヲ爲スニ因リテ生シタル債務ニ付テ支拂ノ猶豫ヲ受クルトキハ破産宣告ヲ受クルコトナキナリ是故ニ我商法ニ於テハ支拂猶豫ヲ與フルハ商事上ノ債權者ニ過キサレモノトシ其他ノ債權者ハ之ニ付キ何等ノ關係ヲモ有セサルモノトセリ既ニ何等ノ關係ヲ有セサルモノトセンカ其債權者集會ニ出席スルノ要ナク又召集ヲ受ク可キノ理由ナケレハナリ

債權者集會ノ期日ニ於テハ裁判所ヨリ任セラレタル主任判事ノ上席ヲ以テ債務者ト債權者トノ間ニ支拂猶豫ニ付テ辯論ヲ爲ス即チ債務者ヨリハ支拂ヲ中止セサル可カラサルニ至レル原因ノ詳細ヲ證明シ及ヒ其債務ヲ完済スルニ付テノ方法ヲ説明シ以テ支拂猶豫ノ申立ノ止ム可カラサルコトヲ明カニシ之ニ對シテ債權者ヨリハ更ニ疑義アル點ヲ質問シ又ハ事情ノ調査ヲ爲シ且ツ此申立ヲ承諾ス

流

ルヤ否ニ付キ各其意見ヲ開ハスナリ而シテ此申立ヲ承諾スルノ決議ヲ爲スニハ出席債權者ノ過半数ニシテ出席債權者ノ有スル債權額ノ半ヨリ多キ額ニ當ル債權者ノ同意アルコトヲ要ス加之其同意ハ商事上ノ總テノ債權者ノ過半数ニ當ラサル可カラサルナリ而シテ此債權者集會ノ辯論及ヒ議決ニ付テハ調査ヲ作ル可キモノトス(商法第千五百九十一條)

支拂猶豫ノ申立ニシテ債權者集會ノ承諾ヲ得サルトキハ直チニ支拂停止ト爲リ破産宣告ヲ受クルニ至ル可キハ當然ノコトナリトス然ルニ債權者集會ニ於テ其承諾ヲ得タルトキハ如何ト云フニ此承諾ノミニテハ未ダ支拂猶豫ヲ得タリト謂フコトヲ得ス更ニ之ニ對シテ裁判所ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス而シテ其手續ハ債權者集會ニ於テ支拂猶豫ノ申立ヲ承諾シタルトキハ裁判所ハ主任判事ノ演述ヲ聽キタル上其決定ヲ爲スモノトス此決定ニ對シテハ債務者又ハ債權者ヨリ即時抗告ヲ爲スコトヲ得(商法第千六百二十二條)

支拂猶豫カ裁判所ノ認可ヲ得テ確定シタルトキハ如何ナル効力ヲ生スルヤト云フニ其猶豫ノ期間内ハ支拂猶豫申立以前ニ取結ヒタル商取引ヨリ生セル債權ノ

破産法(附家賃分放法) 本論 支拂猶豫

爲メニ強制執行及ヒ破産宣告ヲ受クルコトナキナリ(商法第一千六十條第一項)蓋シ既ニ支拂
 猶豫ヲ承諾シタル以上ハ其期間内支拂ノ延期ヲ許シタルモノナルカ故ニ債務者
 ニ對シテ債務ノ辨濟ヲ請求スルコトヲ得サルモノタレハナリ然ルニ我破産法カ
 支拂猶豫ヲ商取引ヨリ生セル債務ノ支拂ヲ中止セサル可カラサルモノ、ミニ付
 キ適用スルノ結果トシテ支拂猶豫ハ商事上ノ債權者ノミヨリ受クルモノニシテ
 一般ノ債權者ヨリ之ヲ受クルモノニ非サルカ故ニ商事上ノ債權者ナラサル者ヨ
 リ強制執行ヲ受クルコトアルトキハ支拂猶豫ヲ受ケタルニモ拘ラス其効ナシ破
 産宣告ヲ受ケサル可カラサルニ至ラソ又支拂猶豫ノ申立後ニ負擔シタル債務ニ
 付テハ支拂猶豫ヲ受ケ居ラサルカ故ニ此等ノ債權ノ爲メニ強制執行又ハ破産宣
 告ヲ受クルトキハ支拂猶豫ハ當然其効力ヲ失フモノトス(商法第一千
 六十四條)
 支拂猶豫ノ申立コハ猶豫期間内ニ債權者ニ完全ナル辨償ヲ爲スコトヲ條件ト爲
 ス可キコト既ニ前述セルカ如シ是故ニ支拂猶豫ノ確定シタル以上ハ其申立ニ掲
 ケタル方法ニ依リ債務ヲ辨償セサル可カラサルコト勿論ナリトス又申立ニ掲ケ
 タル如ク辨償ヲ爲サシムルコトハ債權者並ニ一般經濟社會ノ爲メニ最モ緊要ノ

セ

コトナリ而シテ此辨償ヲ爲スカ爲メニハ債務者カ如何ナル方法ヲ以テ其業務ヲ
 施行スルヤハ非常ノ關係ヲ有スルモノタルコト明カナリ故ニ支拂猶豫ヲ得タル
 債務者ハ猶豫契約ノ履行及ヒ業務ノ施行ニ關シテハ主任判事ノ監督ヲ受クルモ
 ノトス(商法第一千六十二
 條第一項但書)

支拂猶豫ヲ受ケタル債務者ハ其猶豫契約ヲ履行セサル可カラサルコト勿論ナリ
 ト雖モ場合ニ依リテハ其許與セラレタル一年以内ノ期間ニ避ク可カラサル原因
 ノ爲メ其契約ヲ履行スル能ハサルノ事情發生スルコトナシトセス斯ル場合ニハ
 前ニ支拂猶豫ノ申立ヲ爲シタルトキト同シク債務者ヨリ延期ノ止ム可カラサル
 理由及ヒ更ニ延長セラレタル期間内ニハ必ズ債務ヲ辨濟シ得ルノ方法ヲ證明シ
 テ猶豫期間ノ延長ヲ申立ツルトキハ裁判所ハ新ニ支拂猶豫ヲ與フルト同一ノ手
 續ニ依リ一回限り延長ヲ許スコトヲ得然レトモ其期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ
 得ス(商法第一千六十
 條第二項)此延長期間ヲ過クルモ尙ホ完全ナル支拂ヲ爲スコトヲ得サル
 トキハ到底支拂能力ヲ回復スルノ見込ナキモノトシテ更ニ猶豫期間ノ延長ヲ許
 サ、ルモノトス

支拂猶豫ノ期間内商事上ノ債權者ハ辨濟ノ請求ヲ爲スコトヲ得サルコト既ニ前ニ述ヘタルカ如シ然レトモ支拂猶豫ナルモノハ債務者ノ一身上ニ付テノ特別ナル事情ノ爲メ法律カ特ニ定メタル延期ナルカ故ニ其債務者ノ保證人及ヒ共同義務者ノ如キハ支拂猶豫ノ利益ヲ受クルコトヲ得ス從テ債權者ハ支拂猶豫ノ成立スルニ拘ハラズ保證人若クハ他ノ共同義務者ニ對シテ強制執行ヲ爲シ又ハ破産宣告ヲ請求スルコトヲ得ルナリ(商法第千六十條第二項)然ラハ保證人及ヒ他ノ共同義務者カ債權者ニ辨濟ヲ爲シタルトキハ更ニ債務者ニ對シテ辨償ヲ求ムルコトヲ得ルヤ否ト云フニ此場合ニハ保證人及ヒ他ノ共同義務者ハ債權者ノ地位ニ代ル者ナルカ故ニ尙ホ支拂猶豫ノ効力ヲ受ケサル可カラサルモノト思惟ス

支拂猶豫ノ申立カ債權者集會ノ承諾ヲ得サルカ若クハ裁判所ノ認可ヲ得サルカ又ハ既ニ認可ヲ得タル後ニ至リ債務者ノ詐欺其他ノ不正ノ爲メニ支拂猶豫ヲ爲スニ至リシコト分明ナルニ至ルカ或ハ債權者集會ノ議決ノ數ニ相違アリシカ如キ法律上ノ條件ノ缺クルカ爲メ支拂猶豫カ廢棄セラル、カ又ハ債務者ニ於テ支拂猶豫ノ條件ヲ履行セサルカ又ハ猶豫期間ニ支拂猶豫ニ關係ナキ他ノ債權者ヨ

リ強制執行ヲ受ケタルカ如キ場合ニハ支拂猶豫ハ其効力ヲ失ヒ直チニ債務者ニ對シテ破産手續ヲ開始スルモノナリ此場合ニ於テ支拂停止ノ日ハ何時ナリヤト云フニ法律ハ支拂猶豫申立ノ日ヲ以テ支拂停止ノ日ト定メテリ(商法第千六百四十四條)蓋シ支拂猶豫申立ノ時ニ於テ既ニ債務者ハ支拂ヲ爲スヲ得サルコトヲ自白シタルモノナレハナリ而シテ此場合ニハ更ニ何人ヨリモ申立ヲ爲スヲ要セスシテ破産宣告ヲ爲シ破産手續ヲ行フモノトス

我商法上支拂猶豫ニ付キテ規定スル所ハ上述スルカ如シ然レトモ此規定タル素ヨリ之ヲ完全ノモノト謂フコトヲ得ス蓋シ支拂猶豫ハ破産手續以外ノモノナルカ故ニ此事項ニ付テハ別ニ明文ヲ以テ規定セサル可カラサルコト許多ナルニ拘ハラズ我商法ニ於テハ之ヲ規定スルコトヲシ或ハ破産手續ニ關スル規定ヲ準用スルノ意ナル可キ乎例ヘハ裁判所カ支拂猶豫ヲ棄却ス可キ場合又ハ支拂猶豫ノ廢止ニ歸スル場合又ハ支拂猶豫ヲ得ルカ爲メ債權者ニ賄賂ヲ贈ルカ如キ場合ニハ如何ニ之ヲ處分ス可キカ等ハ明カニ之ヲ規定スルコト必要ナリト信ス其他破産手續ノ部ニ掲ケタルモノニシテ支拂猶豫ニ準用ス可キモノ少ナカラス故ニ商

法修正ノ際ニハ之ニ付キ尙ホ詳細ナル規定ヲ爲サンコトヲ希望セスノハアラサ
ルナリ

前既ニ述ヘタルカ如ク支拂猶豫ナルモノハ破産手續ノ開始前ニ起生スルモノナ
リ之ニ反シテ協諾契約ナルモノハ破産手續中ニ起生スルモノナリ故ニ二者共ニ
不可抗力若クハ意外ノ變ニ因リ支拂ヲ停止セサル可カラサルニ至リシ債務者ヲ
保護スルノ規定ナレトモ其結果ニ至リテハ著シク相異ナレリ即チ協諾契約ヲ取
結ヒタル債務者ハ依然破産者ニシテ總テ破産者タル身上ノ結果ヲ受ケサル可カ
ラス之ニ反シテ支拂猶豫ヲ受ケタル債務者ハ破産宣告ヲ受ケサルモノナルカ故
ニ破産者トシテノ身上ノ結果ヲ受クルコトナシ唯々通常人ト相異ナル所ハ其業
務ノ施行ト債務ノ辨濟トニ關シテ裁判所カ定メタル主任判事ノ監督ヲ受クルコ
トアルノミ其他ニハ身分上何等ノ缺點ヲ生セサルモノナリ是故ニ自己ノ過失ニ
非スシテ支拂ヲ爲スコト能サルニ至リタル者ハ債權者ヨリ辨濟ノ請求ヲ受ケテ
支拂ヲ停止セサル可カラサルニ至ルヲ俟タス自ラ進ンテ支拂猶豫ノ申立ヲ爲ス
トキハ毫モ自己ノ位地ヲ傷クルコトナクシテ營業ヲ續行スルコトヲ得而シテ是

レ其債務者ノミナラス一般經濟社會ノ利益ナリトス若シ此申立ヲ爲スコトヲ怠
リテ支拂ヲ停止スルニ至ルトキハ直チニ破産宣告ヲ受ケサル可カラス即チ茲ニ
至レハ其事情如何ニ憐愍ス可キモノアルモ到底破産者タルヲ免カル、コトヲ得
ス英國法ニ於テハ前既ニ説述セルカ如ク破産行爲アリタル後ニ於テモ協諾契約
整ヒタルトキハ破産宣告ヲ爲スコトナク又破産宣告ヲ爲シタル後ニ於テモ協諾
契約整ヒタルトキハ破産宣告ヲ取消スモノトス故ニ此點ニ關シテハ英國法ハ我
國及ヒ歐洲大陸諸國ノ法律ト大ニ相異ナルモノト謂ハサル可カラス

破産法(附家資分散法)(完結)

^
5=

11 127 >

Handwritten text on the right page, possibly bleed-through from the reverse side. The text is faint and difficult to decipher but appears to be a list or notes.

